

官報

號外 昭和十二年三月二十三日

○第七十回衆議院議事速記録第二十八號

昭和十二年三月二十二日(月曜日)

午後一時五十七分開議

議事日程 第二十九號

昭和十二年三月二十二日

午後一時開議

第一 防空法案(政府提出) 第一讀會

第二 農村負債整理資金特別融通及損失補償法案(政府提出) 第一讀會

第三 帝國燃料興業株式會社法案(政府提出) 第一讀會

第四 人造石油製造事業法案(政府提出) 第一讀會

第五 肥料取締法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第六 酒造組合法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第七 日本無線電信株式會社法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第八 特許法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第九 商標法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第十 不正競爭防止法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第十一 兵役法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第十二 產業組合中央金庫法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第十三 產業組合自治監査法案(政府提出) 第一讀會

第十四 軍機保護法改正法律案(政府提出) 第一讀會

第十五 外國裁判所ノ囑託ニ因ル共助法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第十六 百貨店法案(政府提出) 第一讀會

第十七 辦理士法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第十八 昭和十一年度第一豫備金支出ノ件

昭和十一年度特別會計第一豫備金支出ノ件

昭和十一年度特別會計豫備費支出ノ件

昭和十一年度滿洲事件第一豫備金支出ノ件

自昭和十一年一月至昭和十一年三月昭

和十年度第二豫備金支出ノ件

自昭和十一年一月至昭和十一年三月昭

和十年度特別會計第一豫備金支出ノ件

自昭和十一年一月至昭和十一年三月昭

和十年度特別會計第一豫備金支出ノ件

自昭和十一年一月至昭和十一年三月昭

和十年度特別會計第一豫備金支出ノ件

第九部選出

懲罰委員 中村梅吉君(原夫次郎君補)

去二十日議長ニ於テ辭任ヲ許可シタル常任委員左ノ如シ

第一部選出建議委員 仲西 三良君

第六部選出建議委員 今井 新造君

第四部選出懲罰委員 松井 郡治君

去二十日委員長及理事互選ノ結果左ノ如シ

船員法改正法律案(政府提出)委員

委員長 中井 一夫君

理事 池田 清秋君 岡本實太郎君

登坂 良作君

去二十日特別委員理事補選ノ結果左ノ如シ

鐵道敷設法中改正法律案(政府提出)委員

理事 大本貞太郎君(理事林讓治君本月十三日委員辭任ニ付其ノ補)

關

大正十二年法律第五十二號中改正法律案(司法官試補及辯護士ノ資格ニ關スル件)

(小林鑄君外一名提出)外一件委員

理事 立川 平君(理事立川太郎君本月十八日委員辭任ニ付其ノ補)

補關

去二十日議長ニ於テ選定シタル委員左ノ如シ

製鐵事業法案(政府提出)委員

大島 寅吉君 片山 一男君

矢野庄太郎君 岡崎久次郎君

內藤久一郎君 池田 秀雄君

原 淳一郎君 勝田 永吉君

田中 源君 宮崎 一君

高橋熊次郎君 瀨川 嘉助君

福井 甚三君 砂田 重政君

田尻 生五君 窪井 義道君

龜井貫一郎君 椎尾 辨匡君

裁判所構成法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)外二件委員

西田 郁平君 村松 久義君

內藤 正剛君 本田 英作君

森 兼道君 野村 嘉六君

池本甚四郎君 田村 秀吉君

牧野 賤男君 益谷 秀次君

小林 銚君 森田 政義君

青木雷三郎君 中野 治介君

天辰 正守君 藏園三四郎君

水谷長三郎君 加藤 勘十君

一、去二十日ニ於ケル特別委員ノ異動左ノ如シ

一般會計歳出入ノ財源ニ充ツル爲特別會計ヨリ爲ス繰入金ニ關スル法律案(政府提出)外二件委員

辭任龜井貫一郎君 補闕塚本 重藏君

辭任中村 梅吉君 補闕中村 又一君

鐵道敷設法中改正法律案(政府提出)委員

辭任生方 大吉君 補闕手代木隆吉君

辭任大本貞太郎君 補闕佐保 畢雄君

輸出補償法中改正法律案(政府提出)委員

辭任池田 秀雄君 補闕渡邊玉三郎君

船員法中改正法律案(政府提出)委員

辭任岡崎久次郎君 補闕前田房之助君

辭任岡本實太郎君 補闕日比野民平君

商法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)委員

辭任岡崎久次郎君 補闕太田信治郎君

衆議院議員選舉法中改正法律案(牧野賤男君外十一名提出)外一件委員

辭任船田 中君 補闕益谷 秀次君

辭任加藤 勘十君 補闕田中 耕君

○議長(富田幸次郎君) 是ヨリ會議ヲ開キマス

○中山福藏君 議事日程變更ノ緊急勅諭ヲ提出致シマス、即チ此際日程第二ヲ繰上ダ上程シ、其審議ヲ進メラレンコトヲ望ミマス

○議長(富田幸次郎君) 中山君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

(異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(富田幸次郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程ノ順序ハ變更セラレマシタ、日程第二、農村負債整理資金特別融通及損失補償法案ノ第一讀會ヲ開キマス——農林大臣山崎達之輔君

第二 農村負債整理資金特別融通及損失補償法案(政府提出) 第一讀會

農村負債整理資金特別融通及損失補償法案

第一條 市町村又ハ産業組合中央金庫ハ負債整理事業ヲ助成スル爲必要アリト認ムルトキハ負債整理組合又ハ農村負債整理組合法第八條ノ規定ニ依リ負債整理事業ヲ行フ法人ニ對シ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ特別融通ヲ爲スコトヲ得

産業組合中央金庫ノ爲ス前項ノ特別融通ハ所屬信用組合ガ農村負債整理組合法第八條ノ規定ニ依リ負債整理事業ヲ行フ場合又ハ所屬信用組合ガ其ノ組合員タル負債整理組合若ハ農村負債整理組合法第八條ノ規定ニ依リ負債整理事業ヲ行フ法人ニ對シ負債整理資金ヲ融通スル場合ニ於テ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ信用組合ニ對シ之ヲ爲スモノトス

日本勸業銀行、農工銀行又ハ北海道拓殖銀行(以下融資銀行ト稱ス)ハ負債整理組合ノ組合員、農村負債整理組合法第八條ノ規定ニ依リ負債整理事業ヲ行フ法人ノ組織者又ハ命令ノ定ムル所ニ依リ負債ノ整理ヲ爲ス者ニ對シ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ特別融通ヲ爲スコトヲ得

第二條 市町村、産業組合中央金庫又ハ融資銀行ガ前條ノ規定ニ依リ特別融通ヲ爲スコトヲ得ル期間ハ本法施行ノ日より十年間トシ其ノ融通ノ期限ハ本法施行ノ日より二十五年ヲ超ユルコトヲ得ズ

第三條 融資銀行ガ第一條ノ規定ニ依ル特別融通ヲ爲ス場合ニ於ケル貸付金額ハ日本勸業銀行法第十八條又ハ農工銀行法第十條ノ規定ニ拘ラズ其ノ擔保タル不動産ニ付鑑定シタル價格以內トス

第四條 産業組合中央金庫特別融通及損失補償法第三條及第四條ノ規定ハ産業組合中央金庫ガ第一條ノ規定ニ依ル特別融通ヲ爲ス場合ニ、不動産融資及損失補償法第四條及第五條ノ規定ハ融資銀行ガ第一條ノ規定ニ依ル特別融通ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第五條 北海道府縣ハ第一條ノ規定ニ依ル特別融通ヲ爲スニ因リ市町村ガ損失ヲ受ケタルトキ之ニ對シ其ノ特別融通總額ノ十分ノ三以內ノ金額(市町村ニ對スル損失補償金)ヲ補償スルノ契約ヲ爲スコトヲ得

政府ハ前項ノ損失補償ノ契約ニ基キ北海道府縣ガ損失補償ヲ爲シタルトキ之ニ對シ其ノ市町村ニ對スル損失補償金ノ三分ノ二ニ相當スル金額ヲ補給スルノ契約ヲ爲スコトヲ得

第一項ノ規定ニ依リ北海道府縣ガ市町村ニ對シテ爲ス損失補償ノ契約ニ於テハ北海道府縣ノ市町村ニ對スル損失補償金中其ノ六分ノ一ニ相當スル金額ヲ當該市町村ニ於テ負擔スベキ旨ヲ定ムベシ但シ特別ノ事由アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ市町村ノ負擔スベキ金額ノ割合ニ付別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第六條 政府ハ第一條ノ規定ニ依ル特別融通ヲ爲スニ因リ産業組合中央金庫又ハ融資銀行ガ損失ヲ受ケタルトキハ産業組合中央金庫ニ對シテハ其ノ特別融通總額ノ十分ノ三以內、融資銀行ニ對シテハ其ノ特別融通總額ノ十分ノ二以內ノ金額ヲ補償スルノ契約ヲ爲スコトヲ得

第七條 第五條第一項及前條ノ損失ヲ決定スル基準ハ主務大臣大藏大臣ニ協議シテ之ヲ定ム

第八條 第五條第二項及第六條ノ規定ニ依ル政府ノ補給金及補償金ノ總額ハ一億二千萬圓ヲ超ユルコトヲ得ズ

第九條 第一條ノ規定ニ依ル特別融通ヲ爲シタルニ因リ市町村、産業組合中央金庫又ハ融資銀行ノ受ケタル損失及其ノ額ハ負債整理資金特別融通損失審査會之ヲ決定ス

負債整理資金特別融通損失審査會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 第五條第二項及第六條ノ契約ニ基キ政府ガ北海道府縣、産業組合中央金庫及融資銀行ニ對シ支拂フベキ補給金又ハ補償金ハ國債證券ヲ以テ之ヲ交付スルコトヲ得

第十一條 政府ハ前條ノ規定ニ依リ交付スル爲必要ナル額ヲ限度トシ公債ヲ發行スルコトヲ得

第十二條 本法ニ依リ交付スル國債證券ノ交付價格ハ時價ヲ參酌シテ大藏大臣之ヲ定ム

第十三條 本法中町村トアルハ町村制ヲ施行セザル地ニ於テハ之ニ準ズベキモノトス

附則

第十四條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十五條 農村負債整理組合第三章ヲ創ル

從前ノ農村負債整理組合法第二十六條

ノ規定ニ依ル特別融通ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル但シ本法第三十一條第一項ノ規定ニ依ル決定ハ本法第九條ノ負債整理資金特別融通損失審査會之ヲ行フ第十六條 農村負債整理組合法第七條ニ左ノ一項ヲ加フ

負債整理組合ガ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ事業遂行ノ爲必要ナル土地ヲ取得スル場合亦前項ニ同ジ

同法第八條第二項及同法第十六條中「六年間」ヲ「十二年間」ニ改ム

第十七條 登錄稅法第十九條但書中「第十四號乃至第十六號」ヲ「第十四號乃至第十六號」ニ改メ同條第十五號及第十六號ヲ左ノ如ク改ム

十五 市町村、産業組合中央金庫、信用組合、日本勸業銀行、農工銀行、北海道拓殖銀行、負債整理組合又ハ農村負債整理組合法第八條ノ規定ニ依リ負債整理事業ヲ行フ法人ノ負債整理ノ爲ノ資金貸付ノ場合ニ於ケル抵當權ノ取得ノ登記

十六 市町村、産業組合中央金庫、信用組合、負債整理組合又ハ農村負債整理組合法第八條ノ規定ニ依リ負債整理事業ヲ行フ法人ヨリ負債整理ノ爲ノ資金ノ貸付ヲ受ケタル者ガ其ノ貸付ノ條件ヲ具備セザルニ至リタル場合ニ於ケル市町村、産業組合中央金庫、信用組合、負債整理組合又ハ農村負債整理組合法第八條ノ規定ニ依リ負債整理事業ヲ行フ法人ノ所有權ノ取得ノ登記

十七 負債整理組合又ハ農村負債整理組合法第八條ノ規定ニ依リ負債整理事業ヲ行フ法人ノ同法第七條第二項ニ規定スル場合ニ於ケル土地所有權ノ取得ノ登記

（國務大臣山崎達之輔君登壇）

○國務大臣（山崎達之輔君） 只今上程セラレマシタ負債整理關係ノ法案ノ説明ヲ申上ガマス、農村負債整理ニ關シマスル事業ハ、御承知ノ通り昭和八年八月ニ實施セラレマシテ、爾來三年餘ヲ經過シテ居ルノデアリマスガ、其成績ハ固ヨリ未ダ十分ナリト云フ譯ニハ參リマセスノデアリマス、然ルニ農山漁村ノ負債ハ凡ソ四十億ヲ超ユルノ實情ニアリマシテ、此重壓ヲ緩和致シマスルコトガ、農山漁村更生ノ上ニ極メテ緊要ノコトト存ゼラレマスルノデ、此際負債整理ニ關シマスル制度ヲ擴充致シマシテ、今後一層其普及促進ヲ圖リマスルコトハ、洵ニ急務ナリト信ズル次第デアリマス、今回ノ法案ノ要旨ト致シマスル所ハ、政府ノ損失補償ニ依リマシテ、負債整理資金ヲ融通スル機關トシテ、是マデ市町村ニ限ラレテ居ッタ譯デアリマスガ、今回ハ市町村ヲ經由スル場合、更ニ又日本勸業銀行、農工銀行及北海道拓殖銀行ヲ整理資金融通ノ機關トシテ認メルコトト致シタノデアリマス、サウシテ負債整理資金ハ從來二億ト豫定サレテ居ッタ譯デアリマスガ、之ヲ更ニ擴充致シマシテ、更ニ五億圓ヲ融通スルノ計畫ト致シタノデアリマス、隨テ政府ノ損失補償ノ金額ヲ、今回ハ一億二千圓ト定メタイト云フ考デアリマス、尙ホ從來市町村經由ノ場合ニ於キマシテ、政府ノ損失補償ヲ致シマスル割合ガ、融通總額ノ一割五分デアッタノデアリマスケレドモ、今回ハ道府縣及ビ市町村ノ負擔ヲ輕減スル趣旨ヲ以テマシテ、政府ノ負擔スル損失補償ノ割合ヲ二割ニ増加致シマシタ、道府縣及ビ市町村ノ負擔割合ヲ、ソレダケ低減致シタノデアリマス、斯ノ如クニシテ負債整理事業ノ促進ヲ圖リタイト存ジテ居ル次第デアリマス、

何卒御審議ノ上速ニ御協賛アラントヲ希望致シマス（拍手）

○議長（富田幸次郎君） 多數質問者ノ通告ガアリマス、順次之ヲ許可致シマス——林平馬君

（林平馬君登壇）

○林平馬君 昨ハ茲ニ上程サレマシタ農村負債整理資金特別融通及損失補償法案ニ對シテ質疑ヲ試ミタイト存ズル者デアリマス、凡ソ法律ガ活キルカ死ヌカト云フ、死活ヲ制スルモノハ、法律其ノモノヨリモ運用ノ點ニアルト思ヒマス、刑法ニシテモ、選舉法ニ致シマシテモ、其運用ノ如何ニ依リマシテハ、即チ人權ノ蹂躪トモナリ、人權ノ擁護トモナルノデアリマス、ソレト同様ニ此法律モ其運用ニ依リマシテ、却テ負債ノ製造トモナル虞ナシトシナイノデアリマス、ソレデ私ハ此最重要ナル本法ノ運用ニ關シテ、第一ニ御尋シテ見タイノデアリマス、所ガ本法ハ現行負債整理法ノ姉妹法トデモ申シテ宜シイ關係ヲ持ッテ居ルノデアリマス、デアリマスルカラ此質問ニ入ルニ先ダチマシテ、現行法ガ如何ニシテ生レ出タモノデアアルカト云フ認識ヲ新ニシテ見ル必要ガアラウト思フノデアリマス、即チ多年ニ亙ッテ農村ノ疲弊困憊モ、昭和七八年ノ頃ニ至ッテ其極ニ達シ、「モラトリアム」デアルトカ、借金棒引論ト云フヤウナコトガ盛ニ唱ヘラレタ際ニ生レ出タモノデアリマス、現行法ノ提出ノ理由トシテ、政府ノ言ハレタ所ニ依リマスルト、農村ノ負債ノ重壓ヲ緩和シ、經濟ノ更生ヲ圖ルト云フコトハ刻下ノ急務デアッテ、一日ト雖モ閑却スルコトヲ許サナイ云々ト述ベラレタアルノデアリマス、即チ此最モ窮迫シタル農村ヲ救済スル方法ト致シマシテ、特ニ臨時議會ヲ召集サレテ、現行負債整理法及ビ金錢債務調停法ナルモノガ出來タ次第デアリマス、サウシテ其内容ハ三年ノ臨時法デアッテ、三

年ノ間ニ全國六千ノ町村ノ中カラ二萬五千ノ組合ヲ作ラセテ、之ニ二億ノ金ヲ融通シヨウト云フ使命ヲ持タセタノデアリマス、所ガ其結果ハドウカト申スナラバ、只今大臣カラモ仰セガアツタヤウニ、三年間ノ成績ハ甚ダ譽ラナカッタノデアリマス、即チ組合ノ數ハ豫定ノ數ノ五分ノ一ニモ達シマセス、又融通シタ資金ハ二億圓ヲ用意シタニモ拘ラズ、十分ノ一ニモ達シナカッタノデアリマス、吾々ガ現行法ニ對シテ第六十三議會ニ於テ協賛ヲ與ヘマシタ所以ノモノハ、政府ガ立法ノ使命ヲバ必ズ完全ニ果スト云フ、確固タル御言明ヲ深ク信ジテ協賛ヲ與ヘタ次第デアリマス、然ルニ其言明ニ反シ、國民ノ期待ヲ裏切り、今日不成績大失敗ヲ見タコトハ、時ノ當局者ガ農村ニ對スル認識ト、熱意トヲ缺ク結果ニ外ナラナイト申シテ宜シイト思フノデアリマス（拍手）或ハ失敗トハ思ハナイト御辯解サレルカモ知レマセス、併ナガラ失敗ト思ハナイ者ハ、農林省當局以外ハ天下一人モナカラウト思ヒマス、否、其失敗タルコトハ、既ニ第六十九議會ニ於キマシテ、現行法ノ年限延長ニ付テノ審議ニ當リマシテ、正直率直ナル島田農相ハ、明瞭ニ之ヲ認メラレタノデアリマス、今其速記ノ一節ヲ朗讀シテ見マスルナラバ「今日ハ年限延長ニ付テ取敢ヘズ御協賛ヲ得タイト云フ趣意デアリマス、此法律ニ對シテハ更ニ根本的ニ内容ニ付テ相當ノ改善ヲ加ヘテ行カナケレバ、到底所期ノ目的ヲ達スルコトガ出來ス、斯様ニ思ッテ居ルノデ、内容ニ相當ノ檢討ヲ加ヘマシテ、次ノ議會ニ提出スルヤウニ致シタイト思ッテ居リマス」云々デアリマス、又其時ノ附帶決議ヲ讀ムゲテ見マスルナラバ「農村ノ負債ヲ整理シ其ノ經濟ヲ更生セシムルニハ現行負債整理法ノ運用ヲ以テシテハ所期ノ目的ヲ達成スルコト難シ政府ハ速ニ負債整理事業ニ關スル再檢討ヲ盡シテ徹底

セル方策ヲ樹立シテ第七十回議會ニ提案スベシ」斯様ニナツテ居ル次第アリマス、然ルニ其言明ヲ裏切り、露々タル不滿ニ依リテ出來上ツ、此附帶決議ノ趣旨ヲモ漫却蹊躑シテ顧ミズ、内容改善ノ改正法律案ヲ提出サレナイコトハ、洵ニ無責任モ甚シト言ハネバナラナイデアリマス（拍手）

若シ茲ニ上程サレタル此案ヲ以テ、現行法ノ改正法律案ニ代ヘタモノデアルトスルナラバ、愈以テ遺憾トスル者デアリマス、唯二億圓ノ資金ガ五億圓ニナツタゲデアリマス、丁度食ヘルコトノ出來ナイ柵ノ飾リ餅ガ少シ大クナツタゲデアリマス、寧ロ却テ改惡トモ見レバ見ラレスデモアリマセヌ、何トナレバ飢エタル犬ノ前ニ美味シイ肉塊ヲ吊下ゲテ見セテ、幾ラ飛付カウトシテモ届カナイヤウナ状態デアルノガ、即チ現行法デアルノニモ拘ラズ、從來二百匁ノ肉塊デアツタモノヲ、今度ノ法律ニ依ッテ更ニ五百匁ニ増シタト何ニナリマスカ、肉屋ヤソレヲ裝飾スル人夫達ハ、給料ニ有付イテ喜ブデアラウケレドモ、飢エタル番犬ニ取ツテハ、却テ失望ト怨嗟ノ情ヲ増サセズニハ置カナイコトヲ思ヒマスナラバ、寧ロ罪惡ヲ深メルト申シテモ、敢テ過言デハナカラウト思フノデアリマス、即チ負債整理法其モノ、運用上ニ一大缺陷ガアル爲ニ、死法ニモ等シイ現狀ニナツテ居ル點ヲ是正スルコトヲセナイデ、徒ニ資金ダケヲ増額スルコトハ、全く無意味デアルト吾々ハ信ズル者デアリマス、デアリマスルカラ寧ロ其内容ヲ改善シ、例ヘバ町村會ノ決議ヲ要スル點、町村ニ補償ノ責任ヲ負ハシメル點、有力ナル保證人ヲ要スル點、組合ノ地域ニ關スル點、或ハ組合員及ビ其役員ノ責任ニ關スル點、或ハ又十數回モ縣廳ニ足ヲ運バナケレバ、組合ノ成立ヲ見ルコトガ出來ナイヤウナ點等々、從來ノ如キ是等ノ極メテ煩瑣ナル、又單純ナル農民心理ニ適合セザル諸點

ヲバ根本的ニ改正シテ、極メテ容易ニ且迅速ニ組合ノ成立ヲ見ルコトノ出來ルヤウニシテこそ、初メテ法律ガ活キテ來ルモノデアルト信ジマスガ、此點ニ關スル大臣ノ御所見ヲ伺ヒタイ次第デアリマス

第二ニ承リタイコトハ、隣保共助トカ或ハ互讓相助ト云フ點デアリマス、現行法第一條ニハ、本法ハ隣保共助ノ精神ニ則リ負債ノ整理ヲ爲サシムルコトヲ目的トスルト、明ニ記載サレテ居ルデアリマス、即チ負債整理ノ基調ヲ隣保共助ノ精神ニ求メテ居ルデアリマス、然ルニ隣保共助トカ互讓相助トカ云フコトハ、斯クアリタイト希フコトデアツテ、現實ニ限ナク實在スルモノデアリマセヌ、隣保共助トカ社會公共トカ云フコトハ、兎角他人ニハ之ヲ強ヒテ求メタイケレドモ、自分デハ免ラレルモノナラバ免レタイト云フ心デアルコトヲ遺憾トスル者デアリマス、然ルニ普遍的ニ實在スルモノデナイ所ノ架空ノモノ、理想ノモノヲ基準トシテ立法シタコトガ、今日ノ失敗ヲ招來シタ大ナル原因ノ一ツデアリマス、就デハ是ガ具現化ニ對スル施設計畫如何ト御尋申上ゲル次第デアリマス、斯ク申上ゲマシタナラバ、農村コソ此精神ガ實在シテ居ル、又アツテ欲シイナド御答ニナラレカモ知レナイケレドモ、斯様ナ御答辯ヲ求メテ居ルモノデハアリマセヌ、實際問題トシテ、隣保互讓ノ實行ガ最モ困難デアル所ノ、債務者ト債權者タル特殊銀行ノ關係ヲ如何ナサルカト云フコトヲ御尋スルノデアリマス、唯民間ニノミ互讓相助ヲ強要シテ居ルバカリデアラナラバ、所謂上ノ好ム所下ニヨリ甚シキモノハナイト云フ古キ教ニ鑑ミテ、洵ニ遺憾ニ堪ヘナイ次第デアリマス、果シテ政府ハ農村ノ實情ニ鑑ミラレテ、ソレ等ノ特殊銀行ニ對シテ互讓ノ實行ヲ強要スルダケノ御決心、御覺悟ガ有リデアルヤ否ヤ、中堅農民ノ惱ミノ多クハ、

此銀行關係デアリマスルカラ、此點ニ關スル政府ノ確固タル御所見ヲ承リタイ次第デアリマス

第三點トシテ御伺シタイコトハ、負債ノ整理ト自作農ノ維持トハ不可分關係ニアルト云フ點デアリマス、抑、農民ト土地トハ不可分の結合ヲ要スルノデ、眞ノ國民精神ハ自作農ノ上ニノミ建設サレルモノデアルト確信スル者デアリマス、政府モ亦此ニ見ル所アツテ、土地ヲ持タヌ農民ニ土地ヲ與ヘル政策、即チ自作農創設ニ對シテ相當努力サレテ居ルコトハ、私モ之ヲ認メル次第デアリマス、併ナガラ將ニ永年愛著スル土地ト離別シテ、小作者ニ轉落セントスルモノヲ救済スル所ノ自作農ノ維持ニ付テハ、從來甚ダ冷淡デアツタコトハ頗ル遺憾トスル所デアリマス、即チ負債整理ノ眼目ハ、資本主義經濟ノ壓力ニ堪ヘ兼ねテ、將ニ自作農ノ地位ヨリ追落サレントシテ、日夜悲慘ナル運命ニ悩ム所ノ多數ノ疲切ツタ自作農民ヲ救済シテ、農村ノ中堅層ヲ強化スルニアルト信ズル者デアリマス、果シテ政府ハ茲ニ重點ヲ置カレテ本法ヲ活用セラレル御決心、御方針デアリマスルカ、此點ヲ御伺スル次第デアリマス

第四點トシテ御尋シタイコトハ、資金ノ利子ト償還ノ年限トノ點デアリマス、前議會ノ委員會ニ於テ、馬場大藏大臣ハ利潤ノナイ農村ニ對シテ、營利ヲ目的トスル金融ハ不可ナリト言明サレテアリマス、又同じ委員會ニ於テ小平更生部長ハ、最近一千町村ノ農家收入ヲ調査シタ結果ニ見ルト、總收入ハ一戸平均五百五十圓デアツテ、其中ノ約八割五分、即チ八百五十戸ハ盡ク四五十圓ノ赤字デアルト述べラレテ居リマス、斯様ナル農村ニ對シテ從來特殊銀行ガ算盤ヲ以テ營利的ニ金融ヲ續ケテ來タト云フコトハ、是レ明ニ大ナル擽取デアルト論斷スルモノデアリマス、比較的ヤ客觀的ニハ如何

ニ低利デアツテモ、赤字經濟ノ中カラ、假令一分一厘タリトモ利子ヲ支拂ハセルト云フコト自體ハ、明ニ苛酷デアルト申シテ宜シイト思フノデアリマス、吾々ノ考ヲ以テスルナラバ、金利ノ重イ輕イト云フコトハ、支拂能力ノ如何ニ依ッテ決セラレルモノト思フノデアリマス、即チ日歩十錢デモ輕イト思フ人モアラウシ、又日歩一錢デモ甚シク重壓ヲ感ズル人モアルノデアリマス、赤字經濟ノ農民ノ現狀ヨリスルナラバ、元金ノ年賦償還ダケデモ容易デハナイノデアリマスルカラ、セメテ利子位ハ政府ガ補給スル位デアリナラバ、負債ノ整理ナドハ到底覺束ナイト思フ次第デアリマス、來ル四月一日カラハ郵便貯金ノ利子モ二分七厘六毛トナルノデアリマスルカラ、此際斷乎タル御決心ヲ以テ國本農村更正ノ爲ニ御奮發ヲ願ヒタイト同時ニ、既ニ貸出シタ分ニ對シテモ、當然更新スル必要ガアラウト思ヒマスルガ、農林大臣ノ御所見ハ如何デゴザイマスカ、此點ニ付テハ結城大藏大臣ヨリモ御伺シテ置カレバナリマセヌ

又償還年限ガ二十五年トナツテ居ルノデアリマスルケレドモ、是ハ餘リニ實際ニ即シナイ長サデアリマス、何トナレバ、我國ノ内閣ノ壽命ハ平均二年内外ト言ハレテ居ルト同様ニ、農村ノ家長ヤ戸主ノ壽命モ亦平均年數ナルモノガアルノデアリマス、農林省ナドニハサウシタ重大ナル御調査ガアツテ然ルベキモノト思ハレマスルガ、事實ナイヤウデアリマスルケレドモ、私ノ調査ニ依リマス、大體ニ於テ平均十六七年デアラヤウデアリマス、之ニ依ッテ考ヘルナラバ、本法ノ融通期限ノ二十五年ノ間ニ起リ得ベキ中間ノ障礙ノ爲ニ、償還延期ノ問題ガ起ルコトヲ豫想スルナラバ、全部ノ負債償還ヲ見ルノニハ、二十六七年トモ三十年トモナルコトハ明白ナルコトデアリマス、隨テ結局農家ガ一代デハ到底結果ヲ見ルコ

トガ出来マセズ、二代若クハ三代ニ互ラナケレバ完全ナル獨立農民タリ得ナイノデアリマス、今日ノ努力ハ明日ノ休息ヲ樂シミ、今年ノ辛抱ハ明年ノ進出ヲ望ミ、青年時代ノ刻苦奮闘ハ、即チ老後ノ成功ヲ期待スル爲デアアルコトヲ思フ時、働イタ者ニ報アラシムルコトガ望マシイノデアリマス、又ソレガ眞ノ政治デアアルト信ズルモノデアリマス、若シ然ラズシテ、如何ニ働クモ遂ニ自分ノ一生ノ間ニ報ナシトスルナラバ、堅實ナル農民ハ悉ク自暴自棄トナリ、寧ロ小作ニ轉落シテ勞苦ノ輕キヲ願フコトニ至ルハ、蓋シ人情ノ常ナリト信ズルモノデアリマス(拍手)斯クテハ國本農村ヲ如何セシ、寔ニ由々シキ極ミデアリマス、年限ヲ長カラシムル所以ノモノハ、年賦償還金ノ輕減ニ外ナラナイノデアリマスカラ、先程申上ゲマシタヤウニ、政府ガ利子サヘモ考慮スルナラバ、十四五年ニ短縮スルコトハ決シテ至難デハナイノデアリマス

第六十二議會ニ於キマシテ、島田俊雄君ハ本議場ニ於テ、借金ヲ棒引ニスル位ノ決心デ負債整理ニ當ラナケレバナラズト、御熱心ナル御演說ヲサレタ事ドモ今茲ニ想起サレルナラバ、農村金融ニ限ッテ無利息ヲ考慮スル位ノコトハ、決シテ穩健ナル思想ニハ反シナイト信ズルモノデアリマス(拍手)否、寧ロ斯ノ如クニシテコノ國本ヲ鞏固ニシ、廣義國防ノ實モ初メテ擧ゲ得ルモノデアルト確信スル次第デアリマス、縦シヤ無利息トシタ所デ、郵便貯金ノ利子ダケノコトヲ國ガ負擔スレバ宜シト考ヘマスカラ、五億ノ金ニ對スル總利金ハ、一年間ニ僅ニ千三百八十萬圓、即チ軍部豫算ノ百分ノ一ニモ足リナイ少額デアリマス、而モ本法ハ先程大臣ノ御説明ニモアリマシタ通り、實ニ一億三千万圓ノ損失補償ヲ覺悟シテ居ルノデアリマスケレドモ、若シモ無利息ニシタナラバ、此補償モ自然無用トナル

コトハ明々白々デアリマス、庶政一新ヲ斷行セラレントスル現内閣ノ深ク考慮セラルベキ重點ナリト信ズルモノデアリマス、殊ニ廣義國防ノ觀點ヨリシテ、軍部兩大臣ニ於カレテモ特ニ御考慮ヲ煩ハサレテ、其金額即チ六百九十萬圓ヅ、ヲ割愛サレテハ如何トサヘ思フ次第デアリマス、此點ノ質疑ニ對シテハ、特ニ總理大臣、農林大臣、大藏大臣、軍部兩大臣ヨリノ御答辯ヲ切ニ希望スル次第デアリマス

最後ニ一點承リタイコトハ、本法ヲ運用スル場合ニ、地域的ニ考ヘテ見ルナラバ、全國一律デハナク、即チ特ニ窮乏セル農民ヲ先キニスル必要ガアルト思フノデアリマス、即チ東北地方若クハ之ニ類似ノ窮乏府縣ニ、先ツ優先セシメル必要ガアルト思フノデアリマスカラ、此點ハ如何デアリマスカ、御尋スル次第デアリマス

又時間的ニ考ヘテ見ルナラバ、十年間ニ五億圓ヲ融通スルコトシテモ、一年五千萬圓ヅ、ト云フヤウナ拘子定規デナク、總額ハ五億圓ト規定シテ置イテモ、年々ノ貸出額ハ決シテ其平均ニコダハツデハナラナイト思フノデアリマス、何トナレバ、曩ニ申シタ通り現行負債整理法提出ノ理由トシテ、政府ノ言明サレタ通り、農村負債ノ重壓ヲ緩和スルコトハ刻下ノ急務デアツテ、一日タリトモ閑却出来ナイト言ハレタヤウニ、全ク形容モ出来ナイ貧苦ノ農民ニ對シテ、甲ノ債務ハ早速整理シテヤルケレドモ、乙ノ債務ハ十年程待テト云フヤウナコトハ、果シテ出来ルモノデアリマセウカ、故ニ負債ノ重壓ヨリ一日モ速ニ免レントシテ、合法的ニ組合ヲ設立シタ者ニハ、成ベク全部救済ノ手ヲ伸ベテヤルヤウニセネバナラスト思ヒマスガ、農林大臣ノ御所見ハ如何デゴザイマスカ、若シ然ラズシテ年々必ズ平均額ダケ、五千萬圓ヅ、デアルト云フヤウニナツテ行クナラバ、政府ノ御言明ニモ反スル

次デアリマスカラ、ドウカ毎年融通額ハ飽マデモサウシタ物差主義ヤ均分主義デナク、成ベク多クノモノニ一日モ早く融通シテヤル、唯五億圓ヲ超エナイト云フコトダケニ止メテ置イテ、其他ハ大イニ融通ヲサレテ、融通ノ範圍ヲ擴メラレルコトガ必要ダト思フ次第デアリマス、此點モ非常ニ重要デアリ、大藏省トモ關係ノ深い點デアリマスカラ、此際是非大藏大臣ノ御所見ヲモ伺ッテ置キタイノデアリマス

以上五點ハ何レモ農民ノ聽カント欲スル最モ重要ナル觀點ト信ズルガ故ニ、ドウカ三千萬農民ヲ前ニシテ御答ニナルヤウナ御心構ヲ以テ、率直ナル御答辯ヲ煩ハス次第デアリマス(拍手)

(國務大臣山崎達之輔君登壇)
○國務大臣(山崎達之輔君) 林君ニ御答ヲ申上ゲマス、林君ハ現行ノ負債整理組合法ヲ何故改正ヲセナイカ、今回別ニ補償法ヲ出シタガ、現行法ヲ其儘ニシテ置クノハラカシイデヤナイカト云フノガ、第一點ノヤウデアリマシタガ、林君能ク御承知ノヤウニ、只今ノ法律ハ負債整理組合ニ關スル法律デアリマシテ、負債整理事業ノ全部ヲアノ法律デ捌カウト云フ譯デハナイノデアリマス、隨テ今回ハ組合法ト別ニ、組合ヲ經由セズシテ他ノ方法ニ依ッテ、市町村ヲ經由セズシテ他ノ方法ニ依ッテ資金ヲ融通ノ途ヲ開クト云フ一ツノ法律ヲ作リマシテ、兩者併用シテ負債整理事業ノ完成ヲ期シヨウ、斯ウ云フ譯デアリマスカラ、必シモ現在ノ組合法ヲ改正セナケレバナラスト、サウ窮困ニ御考ニナル必要ハナカラウト思ヒマス、尙ホ林君ノ御述ニナリマシタ手續ヲ簡單ニセナケレバナラスト云フコトハ、是ハ私モ全然同意デアリマス、是マデ色々苦心ヲシタノモ、實ハ其點デアッタノデアリマスカ、ソレハ多クハ法律ノ規定ニ依ラズシテ、實際ノ取扱手續ニ關スルコトガ多イノデアリ

マシテ、其點ニハ相當改正ヲ致ス考デアリマスカラ、是ハ寧ロ委員會ニ於テ細カク御話ヲ申上ゲタ方ガ宜シカラウト思ヒマス
第二ハ隣保共助ノ問題デアリマスガ、是ハ先日ノ農地委員會ニ於テ大體同様ノ御質問ガアリマシテ、私ハ御答ヲ申上ゲテ置キマシタカラ、再ビ此處デ繰返スコトヲ差控ヘタイト思ヒマスガ、唯一點銀行ニ對スル方法ヲ何カ考ヘテ居ルカト云フ點デアリマスカ、其點ニ付キマシテハ、或ル程度ノコトヲ考ヘテ居ルノデアリマスカ、是モ委員會デ申上ゲタイト存ジマス

第三點ハ自作農維持ノ問題デアリマスガ、是ハ林君ノ御述ニナリマシタヤウニ、農村ニ取ッテハ極メテ大切ナ問題デアリマス、隨テ一方農地法ニ依リマシテ、自作農ノ創設維持ニ努メルト共ニ、更ニ一面負債整理ノ作用ニ依ッテ自作農ノ轉落ヲ防グ、斯ウ云フ働キヲ爲シテ行ク譯デアリマシテ、兩省相俟ツテ、林君ノ御心配ノ點ヲ緩和スルヤウナ工合ニヤツテ行キタイト考ヘルノデアリマス、左様ナ爲ニ今回ノ負債整理ニ對スル貸付金ノ金額ナドモ、從來ハ御承知ノヤウニ最高千圓トナツテ居リマシタモノヲ、大體三千圓迄ヲ貸出シ、更ニ特殊ノ場合ハ五千圓迄ハ貸出ヲスルト云フコトモ、是モ林君ノ御言ハルヤウナ、或ハ中小地主等ニ對スル關係モ考慮シテ、斯様ナ方法ヲ執ッテ居ル譯デアリマス

償還年限ノコトデアリマスガ、法律ニハ最高二十年トシテアル譯デアリマスガ、是ハ御説ノ通りニ成ベク年數ノ短イコトヲ私共モ適當ト思ヒマスノデ、實際ニ於テハ十五年位ノ程度デ成ベク處理ヲ付ケルヤウナ工合ニ考ヘテ行キタイト思ッテ居リマス、唯法律トシテハ最高限デアリマスカラ、儲カ二十年トシテアツタコトヲ記憶シテ居リ

マスカ、是ハ林君ノ述ベ

ラレマシタヤウニ、成べく低利ノ金ヲ希望スルコトハ、私共モ同様ノ考ヲ持テ居リマスガ、一昨年頃迄ハ御承知ノヤウニ年四分八厘デ儲カ貸シテアッタノヲ、昨年カラ又低金利ニ伴ヒマシテ、年四分一厘ニナッテ居ルノデアリマス、是モ出來レバモウ少シ低利ノ金ガ欲シイ譯デアリマスケレドモ、併シ一方ニハ低利ノ金ヲ廻ス方ニモ、又一ツノ限度ガアル譯デアリマスカラ、其方ト照シ合セテ考ヘテ見マスルト、先ヅ只今取ツテ居リマス四分一厘見當ノ所ヘ、ドウモ是ハ辛抱ヲ願フノ外ハナイカト思ヒマス、併シ此點ハ將來ニ於キマシテ、可能ナル機會ガ參リマスレバ、出來ルダケ利子ノ引下ヲスルト云フコトハ、最モ私共モ希望シテ居ル點デアリマス東北地方其他ニ特別扱ヲスルカト云フコトデアリマスガ、是ハ從來カラモ東北其他ニハ特別ニ考慮ヲ加ヘテアルノデアリマシテ、今回モ固ヨリ其方針ハ變更シナイ考デアリマス

次ハ五億圓ノ金ヲ年々五千萬圓ニ限定シテ行クノデアアルカト云フ御話デアリマシマスガ、必シモサウ窮屈ニハ考ヘテ居ラスノデアリマス、必要ナ時ハ或ハ五千萬圓ガ六千万圓出ル場合モアラウト思ヒマスガ、唯先刻申上ゲマシタヤウニ、大藏省ノ資金ノ全體ノ供給ノ振合ガアリマスカラ、其方ニハ多少ノ制縛ヲ受ケル譯デアリマスケレドモ、方針トシテハ必シモ定額デ行クト云フ考デアリナイノデアリマスカラ、左様御承知ヲ願ヒタイノデアリマス

○議長(富田幸次郎君) 生田和平君

(生田和平君登壇)

○生田和平君 世界何レノ國家ニ於キマシテモ、農村ハ都市ニ比シ貧富ノ懸隔ガ甚シイコトハ、資本主義機構下ニ於キマシテハ免レ難キ現象デアリマシテ、文化ガ普遍的トナリ、農村ノ知の方面モ漸時都市ニ追從スルヤウニナリマシテ、此方面カラモ生活

ノ向上ヲ欲求スルコトハ當然ノコトト信ズルノデアリマス、然ルニ我國農村ノ現狀ハ、寧ろ疲弊困憊ノ極ニアルノデアリマス、我國農村ノ窮狀ヲ此儘ニシテ置クコトノ出來ナイコトハ、天下何人モ認メテ居ルノデアリマス、唯是方方策ニ憚ンデ居ルノデアリマス、否、農村ニ對スル認識ガ實ニ不十分デアリ、且ツ農村救済ノ熱意ト誠意ガ足りナイコトヲ遺憾トスルノデアリマス、農村對策ニハ大體二ツノ方針ガ考ヘラレマス、即チ積極的ニハ農村ノ收入ヲ増スコトデアリマス、多量生産ト農産物價ノ引上デアリマス、併ナガラ此事ハ一般經濟界ニ及ボス影響ガ重大デアリマスカラ、急激ニハ固ヨリ參ラナイノデアリマス、消極的ニハ支出ノ減少デアリマス、支出ノ減少ニハ色々ノ方策ガ考ヘラレマスガ、低廉ナル肥料ノ供給デアルトカ、低廉ナル動力ノ供給デアルトカ、作業ノ機械化トカ、種々ノ方法モアリマセウガ、ヨリ以上焦眉ノ急ハ農村ノ痛デアル所ノ負債ノ整理デアリマス、我國農村ノ固定負債ハ、昭和十年八月現在ノ調査ニ依リマスカラ、四十億九千萬圓ノ巨額ニ達シテ居リマス、利子ノミニテ毎年四億數千萬圓ヲ拂ツテ居ルノデアリマスカラ、農家ノ肥料ハ一箇年二億三千万圓或ハ四千万圓ト推定サレテ居リマス、詰リ肥料代ノ倍額ヲ利子ニ拂ツテ居ルノデアリマス、而シテ其中四割ハ無擔保デアリ、六割ハ有擔保負債デアリマス、斯ノ如キ大負債ガ我國農村ノ發展性ヲ阻礙シ、延イテハ農産物生産力ノ減退トナリ、農産品ノ投資ハ餘儀ナクセシメ、農家ノ經濟力ヲ衰退セシムルノミナラズ、公益的ニハ納税ノ不納トナリ、思想的ニハ社會ニ對スル呪詛トナリ、内面的ニハ家庭ノ不和トナリ、兒童ノ缺食トナリ、其他社會全般ニ及ボス惡影響ヲ招來スルコトハ、舉ゲテ數フベカラザルモノガデアリマス、實ニ人道上ノ大問題ト考ヘマス、

私ハ此機會ニ於キマシテ政府ニ對シ次ノ四點ニ付キ質問ヲ致シタイノデアリマス
第一ハ農村負債ニ對スル政府ノ基礎觀念如何ト云フコトデアリマス、四十一億圓ニ達スル農村ノ固定負債、如何ナル事情、如何ナル理由ニ依リ、斯クモ巨額ノ負債ヲ背負込シタノデアアルカ、即チ農民ノ浪費ニ依リ生ジタノデアアルカ、社會組織、經濟組織ノ缺陷ヨリ生ジタノデアアルカ、言葉ヲ換ヘテ申シマスレバ、農民自體ノ責任デアアルカ、國家ノ責任デアアルカト云フコトデアリマス、農村ハ衣食住共ニ非常ナル不自由ヲ忍ビデ居リマス、朝ニ起キ夜半ニ寢ネテ大ナル勞苦ヲ致シテ居リマス、粗衣粗食ニ甘シ、且ツ陋屋ニ住居シテ居ルノデアリマス、我國ノ農民ハ決シテ游惰ノ民デアリマセヌ、勤勉ノ民デアリマス、而モ尙且ツ年々多大ノ負債ヲ増加スル所以ノモノハ、收入ノ支出ニ伴ハザルニアリマス、其原因ハ地域ガ狹小デアアル、分配ガ不公平デアアル、農産物ハ安價ニ賣ラネバナラス、肥料ハ割高デアリ、小作料ハ不當デアリ、教育費ハ増嵩シ、文化ノ普及ト共ニ生活費ハ向上スル、斯ノ如ク平時ニ於キマシテモ尙且ツ收支不均衡ナルニ拘ラズ、週期的ニ世界的不況或ハ政府ノ財政經濟政策等ニ因ル農産物價ノ低落、或ハ天災地變ニ因ル凶作等、凡ソ農村ノ智の能力ニ於テ豫期セザル他動の損失ガ、突發的ニ農村ノ負債ヲ激増セシムルニ至リタルコトハ、悉ク農村自體ノ責任ニアラズト考ヘルノデアリマス、何トナレバ勤勉ナルモ酬キラレナイモノガアルノデアリマス、此點ニ關シ果シテ如何ナル御所見ヲ有セラレヤ
第二ハ本法ニ依リ果シテ何程ノ目的ヲ達シ得ラル、カト云フ點デアリマス、本案ハ昭和八年三月二十九日附、齋藤內閣時代ニ施行セラレマシタ農村負債整理組合法第三章ノ負債整理事業資金特別融通及損失補償

ノ條項ヲ削除シ、負債整理資金特別融通及損失補償法ト改メ、其内容ヲ修正シテ御提案ニナッタルデアリマス、而シテ政府ハ本法ノ活用ニ依リ、五億圓ヲ支出シテ市町村並ニ產業組合中央金庫及ビ融資銀行ヲ通ジテ十箇年間貸出ヲ爲シ、十三億圓ノ農村ノ負債ヲ二十五箇年間ニ整理セシメ、一億二千万圓ヲ限度トスル損失補償ヲ爲サントスルモノデアリマス、果シテ是デ所期ノ目的ヲ達シ得ラル、ヤト云フコトデアリマス、何トナレバ政府ノ企圖セル觀念ニ誤リガアリハシナイカト思フノデアリマス、即チ農村ノ根本對策ヲ樹立セズシテ、單ニ利子ヲ低下シ、或ハ長期ノ年賦ニ改ムルト雖モ、農村ノ窮狀ハ恐クハ是等ノ元利ヲ支拂フコトガ不可能ナリト信ズルノデアリマス、此點ニ對シ政府ノ御所見ヲ承リタイ
第三ハ金錢負債臨時調停法ノ改正デアリマス、今日農村ノ金利ハ前ニモ述ベマシタ通り一割ヲ超過致シテ居リマスガ、政府ノ融資金利ハ四分一厘デアリマス、餘程此點ハ有利デアリマスケレドモ、負債ノ返済ノ目的ハ、利子デハナイノデアリマシテ、元金ニアルノデアリマス、農村負債整理法第十一條ノ規定ニ「組合員ノ負債償還計畫及經濟更生計畫ノ樹立」、次ニ債務者タル組合員及債權者間ニ於ケル負債ノ金額、利率、償還期限、償還方法其他ノ條件ノ緩和ニ關スル協定ノ斡旋」トアリマスケレドモ、是等ノ規定ハ債務者ノ利益ヲ擁護シ、更ニ債權者ヲ拘束スル何等ノ權威ナキコトハ勿論デアリマス、政府ハ何故ニ金錢負債臨時調停法ヲ改正強化シテ、債權債務ノ根本的解決ニ邁進セザリシカヲ御尋致シタイノデアリマス、即チ支拂能力ナキ者ガ支拂ヲ強制セラル、コトガ最大苦痛デアリマス、是ハ總理大臣、司法大臣ノ御答モ必要デアリマセウガ、先ヅ農林大臣ノ御意見ヲ承リタイ
第四ハ殘部ノ負債整理ノ件デアリマス、

農村負債總額四十一億圓ノ中、今回ノ整理ニ依リマシテ、主トシテ無擔保デアル所ノ負債十三億圓ヲ減ズルト致シマシテモ、残りノ二十八億圓ハ、此儘ニ放棄セラレテ農村ノ更正ヲ期シ得ルヤ否ヤ、私ハ期シ得ベカラズト信ズルノデアリマス、私ノ信ズル所ニ依リマス、現在ノ社會組織、經濟組織ノ下ニ於キマシテハ、農村ノ負債ハ年ト共ニ増加スルコトハ已ムヲ得ザル現象デアリマス、一箇年ニ一億三千万圓ヅ、ノ負債整理ヲ爲ス傍ラニ於キマシテ、更ニヨリ多クノ無擔保、有擔保負債ノ累加センコトヲ恐ル、ノデアリマス、故ニ政府ハ此際思切ツテ全面的ノ負債整理ヲ斷行スベキデアルト信ズルノデアリマス、然ラザレバ農村ノ負債整理ハ不可能デアリマス、農村ノ全面的負債整理ハ、農村更生ノ唯一無二ノ應急ノ喫緊事デアリマシテ、之ニ依リテ農村ハ新シキ「スタート」ノ下ニ、生氣瀾刺タル更生ニ向フコト固ク信ズルノデアリマス、一面ニ於キマシテ農村ヲシテ再ビ斯ノ如キ多額ノ負債ヲ背負込マザルヤウ、根本的解決ニ努力スルコトハ必要ナリト思フノデアリマス、農村ノ更生ハ國本ノ培養デアリ、經濟ノ發展ノ基礎デアリ、健全思想ノ礎石デアリ、大日本帝國興隆ノ根本義デアルト信ズルノデアリマス、政府ハ果シテ以上ノ經綸抱負ヲ實行セラル、ノ勇氣アリヤト云フコトヲ御尋シタイ

ズ、農村土地ハ國民ノ食糧ノ源泉デアリ、國家ノ基礎デアルト考ヘテ居ルトノ見地カラ、農民ヲ土地ニ安住セシメテ、獨逸國家ノ基礎ヲ安定ナラシメントシテ居ル、此法律ノ最重要ナル點ハ次ノ如クデアル、世襲土地ハ原則トシテ讓渡ヲ許サズ、又擔保ニ供スルコトヲ許サズ、世襲土地ハ債權ノ爲ニ強制執行ヲ爲サレナイ、而シテ土地世襲法ハ右ノ原則ニ依リ、從來農民ト血液トノ關係ヲ無視シ、土地ト血液トニ內在シタル國民力ヲ無視シ、又土地ヲ商品化シ、法律ニ依リ、經濟政策ニ依リ、租稅政策ニ依リ、農村ヲ益、危地ニ陥レル制度ヲ破壊シタルデアッタ、而シテ「ナスチ」ガ遂行シタル次ノ二箇ノ職分ハ、此法律カラ生レタル結論デアッタ、一、約百七十億乃至二百億「レンテンマルク」ト評價セラレタル農村負債整理、二、農民ニ負債ヲ背負ハスコトナクシテ、農業經營ヲ爲スニ必要ナル手段ヲ農民ニ與フルコト、而モ此二箇ノ職分ハ相互ニ關係ヲ存シテ居ル、即チ新シキ債務ヲ生ジテハ負債免除ガ意味ナイ、又既存ノ負債ガ消滅シナクテハ、農村經營手段ヲ與ヘルコトハ意味ガナイ、此第一ノ職分ハ土地負債免除ニ依リ達成セラル、ハ勿論、此免除ハ無償ニ依ル免除デハナクテ、年賦ニ依ルコトハ明デアル、即チ農民ガ收益ヨリ年返済スルノデアアル、勿論利子ハ適當ニ支拂ハレル、世襲土地負債免除ノ技術ハ次ノ如クデアル

政府ガ設置セル農村辨濟銀行ガ一時支拂ト爲ス、即チ世襲土地ニ對スル全債務ハ農村辨濟銀行ヘ移轉シ、從來ノ債權者ハ爾來農民ノ債權者デナク、農村辨濟銀行ノ債權者トナル、此銀行ハ從來ノ債權者ニ對シテ利子ヲ支拂ヒ、又徐々ニ債權償還スル、但シ此銀行ハ農民ガ負擔シ得ル限度ニ於テノミ肩替リヲ爲スノデアアル、而シテ此方法ハ單ニ登記セラレザル土地ニハ適用セラレナイ、以上ハ「ナチス」政府ノ實行シタル負債整理ノ内容デアリマス

更ニ本年一月三十日「ヒットラー」總統ガ議會ニ於ケル演說中ノ一節ニ次ノ如ク述ベテ居ル、過去四箇年間ニ於ケル獨逸政府ノ「プログラム」ハ、從來ノ自由主義、個人主義、「マルクス」主義ノ觀念ヲ全然清算シテ、其代リニ土地ト血液トヲ結付ケラレテ居ル所ノ民族ノ觀念ヲ指導方針トスルノデアアル、是程崇高ナル目標ハナイノデアアルト述ベテ居ル、如何ニ獨逸政府ガ農村ノ更正ニ努力シ、又農村ノ繁榮ガ國家ノ根本デアアルカト云フコトヲ如實ニ考ヘテ居リ、而モ實行シテ居ルカト云フコトヲ親ヒ知ルコトガ出來ルノデアリマス、是等ノ土地政策ハ獨逸政府ノ創始ノ政策ノ如クニ見エマスルケレドモ、決シテ左様ニアラズシテ、實ハ我が豐草原瑞穂ノ國ノ眞髓デアアル所ノ、土地ト血液トヲ結付ケタル所ノ、家族主義ヲ眞似タル政策ニ過ギナイノデアリマシテ、我國ハ土地ト血液トノ本家本元デアルト云フコトヲ申上ゲタイノデアリマス、米國ハ負債整理ヲ爲サズシテ、積極的ニ農產物ノ統制並ニ管理ヲ爲シ、或時ハ貯藏ヲ爲シ、又ハ燒棄スル等ノ強硬手段ニ訴ヘ、農產物價ノ引上ヲ策シ、以テ農村ノ收入ヲ増加スルコトニ努力ヲ致シマシテ、其結果ハ農村ハ著シク更生致シタノデアリマスルガ、一方ニ於テ物價ノ騰貴トナリ、勞働者ノ生活ヲ脅威センコトヲ慮リマシテ、勞働者ノ最低賃金制度ヲ確立シテ、勞働者ノ生活ニ保障ヲ與ヘタコトハ皆様御承知ノ通りデアリマス、私ハ必シモ諸外國ノ例ニ倣ヘト言フモノデハアリマセヌ、併ナガラ何レノ國家ニ於キマシテモ、農村更生ニ對シテハ思切ツタ政策ヲ行フテ居ルノデアリマス、獨リ我國ハ農村對策ガ不十分デアリ、不徹底デアルノミナラス、今以テ都市偏重ノ政策ヲ捨テザル政治家ノアルコトヲ遺憾トスル者デアリマス、山崎農林大臣ハ再ビ農林ノ要職ニ當リ、農村ニ對スル理解アルモノト信ジテ居リマス、何卒私ノ質問ニ對シテ満足ナル御答辯アラントラ希望シマス

(國務大臣山崎達之輔君登壇)

○國務大臣(山崎達之輔君) 生田君ノ農村ニ付テノ御考方ハ、大體私共ト同様ノ方向ニアルモノト存ズルノデアリマス、尙又色色有益ナル御所論ヲ伺フコトガ出マシテ、謹ンデ伺ッテ置イタ譯デアリマスガ、御質問ニナリマシタ點ニ付テ簡單ニ御答ヲ申上ゲマス

第一ノ農村ノ負債ニ付テ、ドウ云フ觀念ヲ持ッテ居ルカト云フ點デアリマスガ、是ハ生田君モ御述ニナリマシタヤウニ、固ヨリ一概ニハ申サレヌコトト思ヒマス、村ニ依リ、人ニ依リ、種々ノ事情ノ相違ハアラウト思ヒマスガ、併ナガラ概括シマシテ、農村ノ經濟ガ種々ノ經濟機構ノ變遷其他ノ關係ニ於テ、甚ダ經濟ガ困窮ニ陥ッタコト云フコトガ、最も普遍的ノ原因デアルト申上ゲルコトハ宜シカラウト思フノデアリマス、併シ固ヨリ是ハ人ニ依リ、地方ニ依ッテ種々相違ノアルコトハ無論ノ事デアリマス

第二ハ、此法律ニ依ッテドノ程度ノ解決ガ出來ルカト云フ點デアリマスガ、御承知ノヤウニ此調ヲ致シマシタ基本トナッテ居リマスルノハ、總體ノ負債額四十億ノ中デ、割合ニ高利ノモノ、或ハ返済ニ非常ニ困難ヲ感ジテ居ルト云フヤウナモノ、之ヲ地方地方ニ就テ調査ヲ致シマシタ結果、約十三億程度ノモノガ、是ガ最も整理ニ急ヲ要スルモノト認メマシテ、先以テ之ヲ一ツ解決ヲスルト云フコトガ、大體ノ目標ニ相成ッテ居ル譯デアリマス、隨テ残りノ二十億デアリマスガ、ソレハドウカト云フ點ノ御問モゴザイマシタガ、是等モ固ヨリ將來ニ於テ情勢ニ應ジマシテ、此施設ノ擴張ハ

圖テ行ク考デアリマスガ、只今ノ調デハ、此部類ノ負債ハ相當ノ償還方法モ立ッテ居リ、又利息モソレ程高率デナイモノデアッテ、特ニ政府ノ施設ニ依ッテ整理ヲ助成セナクテモ宜シカラウト云フ考デ居リマスケレドモ、併ナガラ今後ニ於キマシテモ、只今申上ゲルヤウニ、出來ルダケ此施設ノ擴大ヲ圖リマシテ、農村負債整理問題ノ解決ニ努メタイト考ヘテ居ルノデアリマス

第三ノ此金錢負債調停法ノ改正ノ關係デアリマスガ、此點ハ今回ノ改正ニハ、實ハ司法省トモ別段ノ協議ヲ致シテ居ラヌノデアリマスガ、或ハ此方ニモ多少ノ考慮ヲ加ヘル必要ガアルカトモ思ヒマスケレドモ、是ハ御質問ノ趣旨ヲ司法當局ニモ傳ヘマシテ、今後十分考究スルコトニ致シタイト存ジマス

最後ノ家産制度ノ問題デアリマスガ、是ハ先般來當議場或ハ他ノ委員會等ニ於テモ御質問ノアツタ問題デアリマスガ、私共モ此家産制度ト云フモノガ、日本ノ國柄カラ言ッテ極メテ當嵌マル制度デアルト考ヘテ居ル一人デアリマス、唯之ヲ實行ヲ致シマス上ニハ只今「ナチス」ノアレヲ御讀ミナリマシタモノニモアリマシタヤウニ、ヤハリ相當程度ニ負債ノ整理、或ハ對人信用ノ制度ノ確立ト云フヤウナコトガ、相當出來マセヌケレバ、直チニ之ヲ實行スルコトガ困難デハナイカト、斯ウ云フ風ニ見テ居リマスケレドモ、併ナガラ御説ノヤウニ、此制度ガ日本ノ國柄カラ言ッテ、相當妙味ノアル制度デアルト云フコトハ、私モ特ニ感じテ居ル一人デアリマス、殊ニ生田君ノ御述ニナリマシタ農民ト土トノ關係等ハ、私モ他ノ委員會デ申シマシタ通りニ、全ク御同感デアリマシテ、農村ノ文化ハ土ノ上ニ立ッテ居ルノデアルト云フコトヲ、私ハ申シタヤウナコトデアリマシテ、土ヲ離レテ農村ハ存在セナイコトハ無論ノ事デアリマス、

隨テ農民ト土トノ關係ト云フコトヲ、之ヲ極メテ強ク考ヘテ行クト云フコトハ、大切ナ事デアルト思フノデアリマシテ、今回ノ農地法ノ如キモ、ヤハリ其精神ノ一ツノ現レデアルト私ハ見テ居ル次第デアリマス(拍手)

(生田和平君登壇)

○生田和平君 只今農林大臣ノ御答ノ第一點ノ方デアリマスガ、農林大臣ハ利子ヲ安クシテ年賦ニスレバ、農村ガ榮エルト御考ニナッテ居ル、是ハ先刻林君モ其點ニ御觸レニナッテ居リマスガ、私ハ農村對策ガ確立シナケレバ、恐ラク農村ハ利子位ハ拂ヘルカモ知レマセヌガ、元金ニハ容易ニ達シマセヌ、茲ニ根本ノ觀念ガ違ッテ居ルト思ヒマス、ソレカラ農村ト土地ニ關スルコトニ付テハ、農林大臣モ餘程御關心ガアルヤウデアリマスガ、是ハ私ノ非常ニ喜ブ所デアリマス、唯其程度ガドノ程度デアルカト云フコトハ、從來政府ガ爲シツ、アル所ノ政策ノ上カラシマシテモ、甚ダ疑ヲ深クスルノデアリマス、從來政府者ノ立法ノ跡ヲ見マスト、實ハ輿論ニ刺戟セラレタリ、或ハ追究セラレテ已ムヲ得ズ常ニ立法シテ居リマス、眞ニ國家ヲ憂ヘ、拔本塞源ノ政策ヲ樹テタコトハ少イノデアリマス、殊ニ土地問題ハ農民ノ最モ重大ナ問題デアリマスノミナラズ、恐ラクハ農村政策トシテノ一番大キナ問題デアルト考ヘル、私共ハ只今ノ農林大臣ノ御答ノミデ安心ハ出來ナイノデアリマス、唯時間ノ關係モアリマスカラ、私ノ質問ハ是デ打切りマシテ、又次ノ機會ニ御導致スコトニ致シマス

○議長(富田幸次郎君) 最上政三君

(最上政三君登壇)

○最上政三君 只今上程ノ農村負債整理資金特別融通及損失補償法案ニ對シ、政府ニ二三質疑ヲ致シタイト存ズルモノデアリマス、唯以下數點ノ中ニハ、先ニ同僚議

員ヨリ質疑ガアツタ點モアリマスガ、私ハ是等ヲ極ク簡略ニシテ本案ノ質疑ヲ試ミタイト思フノデアリマス、本案ニ關聯スル農村負債整理組合法ハ、昭和七年第六十三議會ニ提案可決サレタ法律デアリマス、當時農村匡救政策トシテ、此農村負債整理組合法ノ外ニ、金錢債務臨時調停法案ヲ提出サレタコトハ御承知ノ通りデアリマス、金錢債務調停法ハ、言フ迄モナク千圓以下ノ債務ニ對スル調停デアッテ、此負債整理組合モ、是ト同ジ趣旨ニ依ッテ立案サレタコトハ勿論デアアルノデアリマス、即チ此法律ノ精神ハ、少額ノ負債整理ヲ目標トシテ、貸付金ノ如キモ一人當リ千圓ガ最高限度トナッテ居ルノデアリマス、此案ノ通過ニ對シテ、當時ノ後藤農林大臣ハ、該案ノ説明ニ於テ斯ウ申サレテ居リマス、此負債整理組合ハ、借金ニ惱ム人達ヲ隣保共助ノ意味ニ依ッテ、經濟的ニ更生サセル爲メ案デアッテ、擔保ヲ持タヌ人ニ對シテモ、負債整理ノ途ヲ講ゼシメルコトトシタコトガ本意デアアル云々ト言ハレテ居ルノデアリマス、然ルニ其後本案ノ實際ノ運用狀況ヲ見ルト、當初ノ希望ト期待トハ著シク裏切ラレタ觀ガアリマス、

曩ニ決定シタ二億圓ノ融資金ハ、現在如何程融資サレテ居ルカ、聞ク所ニ依ルト、其中貸付ヲ致シマシタ金ハ、僅々三千万圓内外ニ過ギヌト言ハレテ居リマス、何故ニ斯ノ如キ狀況デアルカト云フニ、法ノ精神ハ隣保共助ノ目的ヲ以テ、互ニ助け合ヒツツ負債整理ヲ爲サントスルモノデアリマスガ、實際ハ政府ノ考ヘテ居ル如ク、組合ハ斯ク容易ニ出來ルモノデハナイノデアリマシ、其原因ニ付テハ色々アリマス、私ハ第一ノ質疑トシテ、是等ノ原因ヲ取纏メテ政府ノ意向ヲ質シタイト思ヒマス、一、政府ノ貸付ニハソレ相當ノ擔保物ガ必要デアリマス、故ニ擔保ヲ持ツ者ハ強ヒテ擔保ノナイ人ト共ニ組合ヲ作ルコトヲ欲シナイ、隨テ眞ニ負債

ノ整理ヲ希望スル人ハ無擔保者デアルカラ、如何ニ組合ヲ組織セント努力シテモ、不成功ニ終ルコトガ多イノデアリマス、第二、幸ヒ組合ガ成立スルトシテモ、市町村ニ於テハ整理組合ノ資金ノ借入ニ對シテハ、正式ニ町村會ノ決議ヲ經ルコトニナッテ居ルシ、又補償問題等モアルカラ、市町村役場ニ於テハ、是ガ取扱ヲ兎角嫌厭スル傾キガアリマス、三、其他ノ理由トシテ組合員ハ無限責任デアアルシ、又他日組合員ガ脫退セントシテモ、三分ノ二以上ノ組合員ノ同意ヲ經ルコトトナッテ居ルカラ、心アル人ハ加入ヲ欲シナイ、尙ホ組合ガ出來テモ貸付金ヲ實際受取ル迄ニハ相當ノ日子ヲ要スルノデアリマス、早クテモ六箇月、或ハ一年二年掛ルコトハ珍シクナイノデアリマス、以上ノ現狀カラ見テ、實際問題トシテ、今日ノ負債整理組合法ハ、眞ニ借金ニ惱シデ居ル中産以下ノ人々ヲ救フ案デハナクシテ、市町村ト特別關係アル人トカ、中産以上ノ擔保ヲ所有シテ居ル者ヲ救済スル法律デアルト思ハレルノデアリマス、以上ノ三點ニ付テ政府ハ如何ナル考ヲ持ッテ居ルカ、又此手續ヲ緩和スル意向ガナイカ質シタイトデアリマス

(議長退席、副議長著席)

第二トシテハ當局ノ資金融通方法デアリマス、近來各地方ノ負債整理組合ノ狀況ヲ見マスト、政府ニ對シテ借入ノ申込ヲスル場合、私ノ知ル範圍ニ於テハ、其申込金額ノ約三分ノ一位シカ貸與ヘラレナイノデアリマス、勿論政府ハ嚴密ナル調査ヲシタ結果、査定ニ在定ヲ加ヘテ、サウ云フヤウナ態度ニ出デラレルモノト思フノデアリマス、例ヘバ茲ニ或ル組合ガ五萬圓ノ融資ヲ申込シタトスレバ、政府ハソレニ對シテ二萬圓内外ノ資金シカ貸與ヘテ呉レナイノデアリマス、ソレデアアルカラ組合ノ整理狀況ハ、今日ノ場合各方面ノ様子ヲ見マスト、切羽詰ッタ急

ヲ要スル所ノ負債ノミヲ整理シテ居ルヤウナ狀況デアリマス、斯ウ云フヤウナ狀況デアリマスカラ、茲ニ組合員ガ一部ノ負債ヲ整理スル、其後ニ於テマダ古イ負債ガアルト云フヤウナ結果ニナツテ、今度新ニ負債整理組合ニ對シテモ借入金ヲ拂ハナケレバナラヌシ、又古イ負債モ拂ハナケレバナラヌト云フヤウナ二重ノ手數ガ掛リマス、是ガ爲ニ組合員ハ精神上ニ於テ、或ハ是等債權者カラ種々ナル督促ヲ受ケルナド、非常ナル痛手ヲ被ツテ居ルコトハ事實デアリマス、之ニ對シテ政府ハ如何ナル御考ヲ以テ今後貸付ヲ爲サントスルカ、此點ニ付テモ伺ヒタイノデアリマス

第三トシテ政府ハ今回ノ立案ニ對シテハ、地方農村ノ負債約四十億ト見テ、内急速ニ整理スベキ負債ハ十三億デアルト、只今農林大臣ハ此席デ申サレタノデアリマス、政府ノ考デハ、條件ノ緩和等ニ依リマシテ、一部分ハ切捨テラレルト云フ觀念カラ、實際ノ整理額ヲ十億圓内外トシテ、其半分ノ五億圓ヲ今回融資資金案トシテ、茲ニ上程サレタサウデアリマス、若シ是ガ事實トシタナラバ、私達ハ政府ハ甚ダ間違テ居ル觀測ヲシテ居ルト思フノデアリマス、ナゼナレバト申シマス、個人ノ負債額ニ對シテハ多少切捨テラレマセウシ、又ハ條件モ持出スコトハ出來ルデアリマセウガ、勸業銀行デアルトカ、其他ノ銀行ノ借財ニ對シテ、之ヲ切捨テルコトガ出來ルデアリマセウカドウカ、或ハ組合等ニ對スル借金ニ對シテモ之ヲ切捨テラレルコトガ出來マセウカ、決シテ彼等ハ切捨テナイノデアリマス、唯僅ニ期限經過後ノ利子位ハ、多少切捨テル所モアリマスガ、實際ニ於テハ、斯ウ云

フヤウナ負債整理ノ場合ニハ、銀行並ニ組合等デハ切捨テナイノガ事實デアリマス

第四トシテハ、本案ハ從來市町村ヨリ整理組合法第八條ニ依ル整理事業ヲ行フ法人ニ對シテ資金ヲ融通シテ居ルノヲ、更ニ今回等ニ對シテ産業組合中央金庫及ビ日本勸業銀行、農工銀行、北海道拓殖銀行等ヨリ、ソレモ資金ヲ融通セシメントスル法案デ、特別融通資金ハ總額五億圓デアツテ、貸付期間ガ十年トナツテ居リマス、又政府ヨリノ補給及ビ補償金ハ、總額一億二千萬圓ト本案ニ明記サレテアリマス、今其内容ヲ見ルニ、右五億圓中市町村ヲ經テ整理組合ニ貸付クル額ハ一億圓ト云フ少額デ、其他政府ノ補償額ハ二千萬圓デアリマス、然ルニ産業組合中央金庫ヨリ組合ニ貸付クル額ハ二億圓デアリマス、而モ補償額ハ六千萬圓トナツテ居リマス、更ニ勸業銀行ヨリ其不動產擔保ノ肩替トシテ、個人ニ對シテ貸付クル額ハ二億圓デ、補償額ハ四千萬圓トナツテ居リマス、然ルニ今回更ニ規則ヲ變ヘテ、一人當リ貸付額ハ現在ノ千圓ヲ三千圓ニスルヤウナ意向デアリ、只今農林大臣ガ此席上デ答ヘラレタ所ニ依レバ、特別ノ場合ニ限リ五千圓迄ヲ融資スルト云フヤウナ改正案デアリマスガ、之ヲ見ルト、吾々ノ要望スル所ハ先ニモ申ス如ク中産以下ノ人々ニアルノデス、此負債整理組合法ガ出來タ本意モ千圓以下ノ負債ヲ整理スルノデアツテ、貧シキ所ノ農民ノ負債ヲ整理スルト云フニアルノデアリマス、然ルニ今回ノ此案ヲ見ルト、中産以下ノ農民ノ負債ヲ整理スルノデハナク、或ハ恐ル中産以上ノ人々ニ對スル救済デアルトモ、吾々ハ考ヘラレルコトガ出來ルノデアリマス、其理由ハ、市町村經

由ノ資金ハ僅ニ一億圓ニ過ギナイガ、中央金庫及ビ勸業銀行經由ニ對シテハ各二億圓ゾツツ融通スルコトニナツテ居リマス、又補償額ノ如キモ、市町村ニ對シテハ二千萬圓デアアルガ、中央金庫ニハ六千萬圓、勸業銀行等ニハ四千萬圓トナツテ居リマス、而モ一口ノ貸付金額モ千圓ヨリ三千圓ニ増額サレタ所ロナドヲ考ヘルト、今回ノ案ハ小口負債ヨリカ大口負債整理ヲ目標トシテ立テラレタ案デアルト申シテモ、政府ハ辯解ノ辭ガアルデアリマセウカ(拍手)斯ル狀況デアルカラ、實施後ニ於テハ或ハ從來ノ資金融通難、所謂資金ノ貸付ガ不振デアツカノニ反シテ、産業組合中央金庫トカ、或ハ勸業銀行方面ヨリ貸付分ハ、或ハ想像以上多ク融通サレルモノト考ヘラレルノデアリマス、一方悲シムベキ千圓以下ノ負債ニ因ツテ居ル小農ニ對スル市町村ヲ經由スル所ノ負債ハ、此規則ノ改正サレタ場合ニ於テハ、以前ヨリ減少スルモノト考ヘルノデアリマス、此點ニ對シテ政府ハ如何ナル御考ガアルカ、更ニ私ハ中央金庫トカ或ハ勸業銀行ニ關スル人々ハ、何レモ擔保ヲ持ツテ居ル、又無擔保デモ貸スヤウニ今回ノ規則ハナルサウデアリマス、然ルニ眞ニ負債整理ヲ必要トスル、所謂借金ニ悩ム所ノ農民ハ組合ヲ組織シタイニモ、ヤレ擔保デアルトカ、或ハ市町村會ノ決議ガ必要デアルト云フ工合デ、吾々ハ實際上是等ノ問題ニ對シ今後幾多ノ支障ガ起ルと思フ、之ニ對シテ農林大臣ハ之ヲ緩和スル意志ガナイカ、此場合更ニ附加ヘテ聽キタイノデアリマス

第五トシテハ貸付ノ利率デアリマス、此問題ニ付テハ先程同僚議員ノ質問ニ對シテ、政府ハ現在ノ利率——昨年改正シタ四分一厘デハ餘リ安クナイと思ツテ居ルガ、漸次之ヲ改正スル意向デアルト私ハ承知シタノデアリマス、勿論今日ノ低金利時代ニ於テ、各種ノ利率ハ何レモ三分臺ニ皆引下ゲラレテ居ルノデアリマス、公債ノ如キモ三分五厘ト云フ時代ニ拘ラズ、此社會政策的意味ヲ多分ニ含シタ本案ノ利率ヲ四分一厘トシテ此議會ニ之ヲ提案スルコトハ、甚ダ其意ヲ得ナイと思フノデアリマス、併ナガラ大臣ノ只今ノ答辯ニ依ツテ、私ハ速ニ此利率ヲ低下サレルヤウ、政府ニ善處ヲ希望スルモノデアリマス

最後ノ質問トシテ御伺シタイノハ、負債整理組合ノ名稱デアアルノデアリマス、此負債整理組合ト云フノハ、今ヨリ三年前カラ各方面ニ唱ヘラレテ居ルノデアリマスガ、是等組合員ハ多種多樣デアリマス、中ニハ眞ニ無資産ノ人モアリマセウ、ガ先ニモ述べタヤウニ、現在ノ組合員ハ多少ノ田畑ヲ持ツテ居ル階級ノ人々デアリマス、更ニ本法ニ依リ負債整理ヲ爲サントスル人々ハ、中央金庫トカ勸業銀行ニ關係サレル者ガ多ク居ラレルコトデアリマスカラ、是等ノ組合員ガ、此負債整理組合ト云フ名稱ニ甘ズルカドウカト云フコトヲ甚ダ疑フノデアリマス、此問題ニ付テハ本議場ニ於テモ、曾テ軍事救護法案ニ付テ、色々名稱ノ點ニ付テ討議ガアリマシタ、或ハ之ヲ扶助法ニセトカ、或ハ保護法ト云フ名稱ヲ使ヘトカ、色々議論ガアリマシタ、今回ノ法案ニ依レバ、組合員ノ質ハ非常ニ向上サレル傾向デアリマス、向上サレル組合員ガ、負債整理組合ノ名稱ニ甘ズルカドウカ、假ニ無資産ノ組合員デアツトシテモ、整理組合員ト云フヤウナ肩書ヲ麗々シク振廻スコトハ、人情トシテドウカ

ト思フノデアリマス、政府ハ今後機會アル場合ニ此名稱ヲ改ムベキ意思アリヤ否ヤ、第五ノ質問トシテ大臣ニ伺ヒタイノデアリマス、以上五點ノ質疑ニ對シマシテ、政府ノ明確ナル御答辯ヲ煩ハシタイト思フノデアリマス（拍手）

（國務大臣山崎達之輔君登壇）

○國務大臣（山崎達之輔君） 最上君ニ御答ヲ致シマス、第一ニ御述ニナリマシタ現在色々不便不都合ナ點ガアルガ、ソレヲドウ認メルカト云フ點デアッタノデアリマスガ、先程林君ニ御答致シマシタヤウニ、現在可ナリ手續ノ面倒ガアルノデアリマス、之ヲ極メテ平易化スルト云フコトガ、此仕事ノ促進ノ爲ニ必要デアルコトハ私モ認メマシテ、種々考究ノ結果、相當ニ改メ考デアリマスガ、ソレハ細カイ點ニナリマスカラ、委員會ニ譲リタイト存ジマス

第二ハ資金融通ノ方法デアリマスガ、融通ヲ求メル側ニ於テハ、色々御希望モアラウト存ジマスガ、又一方融通ヲ行ヒマス側ニ於テモ、諸種ノ事情ノ爲ニ或ル制限ヲ受ケルコトハ、是モ餘儀ナイコトデアリマスガ、併シ出來ルダケ希望者ノ希望ニ副フヤウナ工合ニ考ヘテ行クベキコトハ當然ノコトト思ヒマス

第三ノ銀行ニ對スル負債ニ付テハ、條件ノ緩和ト云ヒマスルカ、或ハ負債額ノ一部切捨ト云フヤウナコトデアリマスガ、其點ニ付テハ或ル考慮ヲ拂ッテ居ルノデアリマスガ、是モ先程林君ニ御答シマシタヤウニ、委員會ニ具體的ニ御話ヲ申上ゲタイト存ジマス

第四ハ今回ノ方法ニ依ルト、町村ニ對スル融資ガ却テ減少シテ居ルカラ、小産者ニ

對スル融資ガ狭マルノチヤナイカト云フ御懸念ノヤウデアリマシタガ、サウデハナイノデアリマス、成程勸業銀行其他ハ土地擔保ニ依ッテ整理資金ノ融通ヲ致スノデアリマスガ、産業組合カラ參リマス分ハ、無擔保ヲ原則ト致シテ居ルノデアリマシテ、此點ハ從來ノ町村經由ト同様ノ性質ヲ持ッテ居リマス、即チ町村經由一億、産業組合經由二億ト致シマシテ、三億ト云フモノハ、成ベクアナタノ御話ノヤウナ、小産者ノ方ノ整理ニ差向ケルコトヲ、第一義トシテ考ヘテ行キタイト思フノデアリマスケレドモ、併ナガラ又先刻林君ノ御述ニナッタヤウニ、ヤハリ地方ノ小地主ト云ヒマスガ、或ハ一町歩トカ一町五段歩トカ云フヤウナ土地所有者ガ、小作ニ轉落スルコトヲ防グコトモ、亦農村トシテハ非常ニ大切デアリマスカラ、今回ノ整理ニ於テハサウ云フモノマデモ含メ得ルヤウニ、範圍ヲ擴大スルト云フニ過ギスノデアリマシテ、決シテ小産者ニ對スル融資ノ範圍ヲ縮小スルナドト云フ考ハ、毛頭持ッテ居ラスノデアリマスカラ、誤解ノナイヤウニ願ヒマス

（最上政三君登壇）

○最上政三君 只今大臣ハ私ノ質疑ニ對シテ種々答辯サレマシタガ、私ノ質疑中第二問トシテ特ニ意ヲ用ヒタノハ、現在政府ノ貸付方針デアアルノデアリマス、前申ス如ク今

日ノ貸付方針ハ、組合カラ例ヘテ申シマスレバ五萬圓ノ融資ノ申込ニ對シテ、其三分ノ一内外シカ貸付ケナイノデアリマス、是ガ爲ニ其組合ニ於テハ、實際急迫シテ居ル借金ニ對シテ、是ガ返済スルノデアリマス、其結果トシテ今マデ一口ノ負債ガ二口トナリ、一ハ組合デアリマスカラ、其金ハドウシテモ納メナケレバナラスシ、他ハ個人デアルトカ、銀行ノ債務デアリマスガ、ソレモ拂ハナケレバナラスト云フヤウナ場合ニ立至ルコトデアリマス、サウ云フ時ニ一口デアレバ多少言譯モ出來、色々ナ便利モアリマセウガ、二口カラ催促サレルヤウナ場合ニハ、債務者ハ非常ニ困ルノデアリマス、組合員ハ却テ政府ノ低利資金ヲ借りタ爲ニ、更ニ其精神上ニ於テ、或ハ其他手續上ニ於テ、頗ル痛手ヲ負フコトニナルノデアリマス、此點ニ付テ政府ハ此貸付方針、例ヘバ五萬圓ニ對シテナラバ、成ベク五萬圓ヲ貸シ與ヘルト云フヤウナ方法ニ出ラレルカドウカト云フ點デアリマスガ、之ニ付テ明確ナル御答辯ヲ願ヒタイノデアリマス（拍手）

（國務大臣山崎達之輔君登壇）

○國務大臣（山崎達之輔君） 最上君ノ御質問ガ一寸呑込ミニクイノデアリマスガ、負債整理ハ或人ノ持ッテ居ル負債ノ全部ヲ整理スル一ツノ計畫ヲ立テル譯デアリマスカラ、アナタノ仰シヤルヤウナ心配ハナイノデハナイカト思ヒマスケレドモ、ソレハ細カイ點ニ互ルヤウデアリマスカラ、他ノ機會ニ御譲リシタガ徹底スルカト思ヒマス

○副議長（岡田忠彦君） 宮本雄一郎君

（宮本雄一郎君登壇）

○宮本雄一郎君 只今上程ニ係ル法律案ニ關シマシテ質問ヲ提出致シマス、私ノ質問

ハ二ツノ事項デアリマシテ、第一ハ指導方針ニ關スル件デアリマス、現在農村ガ非常ナル經濟的窮迫ノ狀態ニアリマスコトハ、主ナル原因ハ負擔ノ過重ニアルノデアリマスガ、又負債ノ多額ナルコトガ、大ナル原因ヲ成シテ居ルノデアリマス、何故農村ガ現在ノ如キ多額ナル負債ガ出來タカト云フコトニ付キマシテハ、種々ナル起因スル所ハアルノデアリマスガ、從來農村ニ於キマシテノ融通資金ニ對スル金利ノ高率ナリシコトモ、其主ナル點デアリマス、個人別ニ負債ノ出來タル原因ハ、其生活ノ階級ニ於キマシテ種々異ナル點ハアリマスガ、非常災害等ノ爲メ一タビ負債ガ出來マスレバ、其一家經濟ノ收入ノ狀態ニ於キマシテ、利子ノ支拂ニ困難ナルノミナラズ、到底元金ノ償還ハ出來得ナイノデアリマス、故ニ從來農村ニ於ケル金融機關ハ、是マデ殆ド成功シタルモノガ少イノデアリマシテ、普通銀行ノ營業ガ盛ナリシ時代ハアッタノデアリマスガ、其多クハ破綻ノ成績ヲ以テ終ッテ居ルノデアリマス、其後産業組合ノ設置ニ依リマシテ、金融ノ方途ヲ得タノデアリマスガ、近時著シキ農村經濟ノ不況ハ、此産業組合ノ成績ニ對シマシテモ、良好ノモノガ少キノ狀態ニアルノデアリマス、殊ニ昭和五年、六年頃ノ不景氣ノ爲メ、農村ノ生産物ノ價格ガ著シク下落ヲ致シマシテ、隨テ土地其他農家ノ財産價值ガ低下致シマシテ、貸借關係ニ大ナル影響ヲ及ボシ、一層産業組合等ノ經營ガ困難ナ狀態ニ陥リマシタコトハ、如實ニ物語ラレテ居ルノデアリマス、是マデ農村ノ金融機關ガ、斯ノ如キ狀態ヲ見ルニ至リマシタニ付テハ、農業經營ニ收益ガ少ク、加フルニ農民ガ負擔過重ナルニ

依ルコトハ明デアリマシテ、何人モ之ヲ認
ムル所デアリマス、齋藤内閣ニ於キマシテ、
農村負債整理組合制度ヲ設ケラレ、農村ニ
對シテ其設置ヲ督勵セラレタノデアリマス
ガ、其制度ニ、只今先ノ質問ノ方モ申述ベ
ラレマシタ通り、多クノ缺點アルト共ニ、
助成方法ノ徹底セザリシ爲メ、其成績見ル
ベキモノガ少ク、組合ヲ設立致シマシテモ、
未ダ其目的ヲ達成スルニ至レルモノ少イノ
ミナラズ、各府縣トモ負債整理組合ノ設立
スルモノガ少ク、實ニ役人ノ仕事ヲ作り、
徒ニ官吏ヲ多クシタルノミノ感ガアルノデ
アリマス、現在窮迫セル農村經濟ノ救済的施
設ヲ爲スニ付テハ、先ヅ過重ナル負擔ノ輕減
ヲ圖ルト共ニ、如何ニシテ負債整理ヲ爲スベ
キヤニアルコトハ申ス迄モナイ所デアリマ
ス、現在農村ニ於ケル負債整理組合ノ成績
ガ良好ナラザルハ、深ク其缺點ヲ研究シテ、
之ヲ改正スルノ必要ナルハ言フ迄モナイ
次第デアリマス、而シテ尙ホ農村ノ既往ニ
於ケル負債ノ出來タル根本原因ヲ考究致シ
マシテ、其對策ヲ講ズルニアラザレバ、農
村經濟更生ハ出來得ナイノデアリマス

生活費ヲ支辨シ得テ、以テ其餘裕ニ依リ負
債ノ償還ガ出來得ベキデアリマセウカ、自
動車デ走ルモノヲ自轉車デ追駈ケテ追付ク
モノデハナイ、現在ノ負債整理組合ノ指導
方針ハ、自動車デ走ルモノヲ徒歩デ追駈ク
ルノ感ガアルノデアリマス

農村經濟困難ナルヲ更生セシメタル歴史
的實例ハ、今ヨリ一世紀前二宮尊徳翁ノ報
德仕法ニ教ヘラレルモノガアルノデアリマ
ス、時代ノ進運ニ伴ヒマシテ其方策ノ異ル
點ハアリマシテモ、其眞理ハ何レノ時代ニ
モ違フモノデナイト思フノデアリマシテ、
二宮尊徳翁ノ負債整理ノ根本方針ハ、先ヅ
勤儉ノ道ヲ説キ、之ヲ實行セシメ、而シテ
負債整理ノ仕法ハ無利息年賦償還ノ方法デ
アリマス、而シテ又其生業ニ對シテ資本ヲ
貸與シタルモノデアリマス、假ニ金百圓ノ
負債整理ヲ爲サシムルニハ、其負債額ノ外
ニ適當ナル生業資金ヲ貸付ケマシテ、從來
ノ負債額ト其生業資金トヲ合セテ、負債額
ノ整理ヲ爲サシムルノ方針デアッタノデア
リマス、負債整理ノ實績ヲ學グルニ付キマ
シテハ、此方針ヲ以テ進マネバ、到底其目
的ヲ達成スルコトハ出來得ザルモノト信ズ
ルノデアリマス、而シテ二宮尊徳翁ノ報德
ノ仕法ニ、負債整理ヲ無利息年賦償還ノ方
法ニ依ルト共ニ、根本的指導方針ヲ示シテ
以テ訓練ヲ爲スコトガ必要トセラレテアリ
マス、其指導精神ハ、天地相和シテ萬物ヲ
生ジ、夫婦相和シテ子孫ヲ生ジ、貧富相和
シテ財寶ヲ生ズトアリマス、先ヅ天地間ノ
大自然ニ依リマシテ産業ヲ整ヘ、夫婦ノ和
ヲ以テ家庭ヲ齊ヘ、貧富ノ和ヲ以テ社會組
織ヲ整ヘ、此眞理ヲ以テ指導精神ト爲シ、
訓練ヲ爲シ、負債ノ整理ヲ行ハシメ、農村

難經濟ノ更生ヲ實行致シタノデアリマス、
現在ノ時代ニ於キマシテ、二宮尊徳翁報德
ノ仕法ニ依ル農村負債整理ノ具體的方法ヲ
其儘行フハ、時代ニ副ハザル點ガアルト思
ハレマスガ、天地間ノ大自然ニ生産ノ増加
ヲ求メ、夫婦相和スルニ家庭ノ圓滿ヲ求
メ、貧富相和スルニ社會ノ協調ヲ求メ、而
シテ又勤儉力行ノ獎勵ヲ行フニ求メタル點
ハ、現在ノ農村負債整理ニ、經濟更生ノ實
現ニ、指導精神トシテ大イニ學ブベキ點ガ
アルト思フノデアリマス、現在農村ニ於ケ
ル負債額、大部分ノ債權者ハ其地方農村內
ニアルノデアリマシテ、中央ノ資本ニ、又
勸業銀行等ニ債務ハアリマシテモ、多クハ
町村內産業組合ノ如キ、其組合員相互間ニ債
務者アリ、債權者ガアルノ實情デアリマス、
是等ノ場合ニ於ケル負債ノ整理方策ハ、二
宮尊徳翁ノ仕法ヲ以テ根本的指導精神ト爲
シ、貧富相和スルノ訓練ヲ爲スコトニ
依ッテ、大部分ノ整理ヲ遂グルニ至ルベキ
ヲ信ズル者デアリマス、其農村內ニ於ケ
ル對策、即チ債權債務者間ニ於キマシテ、
自治的ニ整理方策ガ立チマシタナラバ、政
府ノ資金ノ借入ヲ爲サズシテ、一部ノ負
債整理ガ出來得ルノデアリマス、斯ノ如
キ結果ニ至リマスレバ、獨リ負債整理ガ
行ハレルノミナラズ、眞ニ自治精神ガ
確立致シマシテ、洵ニ理想農村ヲ作ルニ
至ルベシト信ズルノデアリマス、現在負
債整理組合ノ如キ、徒ニ事務手續煩雜ニ
シテ、又組織經營ニ多クノ費用ヲ要シ、
唯其成績ハ甲ヨリ乙ニ借換ヲ爲ス位ノ程度
デアリマシテ、根本的ニ負債整理ヲ遂ゲ、
經濟更生ヲ實現スル效果ヲ、現在ノ制度ニ
於キマシテハ頗ル疑フ次第デアリマス、茲

ニ根本的指導精神ヲ確立シテ、大イニ訓練
ノ方途ヲ講ズルト共ニ、其事務ノ簡易化、
經費ノ節減等、整理方針ノ改革ヲ圖ルノ要
アルヲ認メル者デアリマス

尙ホ年々負債ノ増加シタル原因ガ、農村
融通資金ノ高利率ニアルト致シマスレバ、
政府低利資金ノ如キ、産業組合等ニ依ル場
合利鞘ヲ取ラシメ、其經費ニ充當セシムル
ガ如キ、低利資金ノ效果極メテ薄キヲ思フ
者デアリマス、又現在勸業銀行ニ資金ヲ求
ムル場合ニ於キマシテモ、現在ノ利率ハ年
利六分内外デアリマシテ、到底斯ノ如キ高
利ヲ以チマシテ負債整理ノ實現ハ期シ難イ
ノデアリマス、農業ニ依ル收益ハ、地主ニ
於キマシテ其土地資本ニ對シ年二分五厘乃
至三分ノ程度デアリマス、況ヤ小作人ニ於
キマシテハ種子代、肥料代、勞力賃ヲ見積
リマスレバ、何ノ利益ヲ得ザルノ現在ノ農
業經營ノ實體デアリマス、一タビ天災等ノ
起リマシタ場合ハ、種子、肥料代ヲ失フニ
至リ、是ガ現在ノ如キ負債ノ生ジタル原因
タルニ於キマシテハ、整理ノ實績ヲ學ゲン
ト致シマスレバ、深ク認識ヲ農村ノ既往及
ビ現在ノ實情ニ置キマシテ、之ヲ深ク研究
シテ制度ヲ立ツルト同時ニ、根本的指導精
神ヲ確立シテ、訓練ヲ爲スノ必要ヲ認ムル
者デアリマス、指導訓練ヲ行フニアラザレ
バ、幾多ノ法律ヲ作りマシテモ效果ハ極メ
テ薄イト思フ者デアリマス、況ヤ官僚形式
式ノミニ四ハレマシテ、從來ノ施設ノ成績
ノ學ラザル所以ハ、茲ニアルト思フ者デア
リマス、以上ノ私ノ質問ノ要旨ニ對シマシ
テ、根本的指導精神ニ付キ、如何ニ之ヲ爲
スヤト云フコトニ對シマシテ、農林大臣ノ
御抱負、御所信ヲ御同致シタイト存ジマス

難經濟ノ更生ヲ實行致シタノデアリマス、
現在ノ時代ニ於キマシテ、二宮尊徳翁報德
ノ仕法ニ依ル農村負債整理ノ具體的方法ヲ
其儘行フハ、時代ニ副ハザル點ガアルト思
ハレマスガ、天地間ノ大自然ニ生産ノ増加
ヲ求メ、夫婦相和スルニ家庭ノ圓滿ヲ求
メ、貧富相和スルニ社會ノ協調ヲ求メ、而
シテ又勤儉力行ノ獎勵ヲ行フニ求メタル點
ハ、現在ノ農村負債整理ニ、經濟更生ノ實
現ニ、指導精神トシテ大イニ學ブベキ點ガ
アルト思フノデアリマス、現在農村ニ於ケ
ル負債額、大部分ノ債權者ハ其地方農村內
ニアルノデアリマシテ、中央ノ資本ニ、又
勸業銀行等ニ債務ハアリマシテモ、多クハ
町村內産業組合ノ如キ、其組合員相互間ニ債
務者アリ、債權者ガアルノ實情デアリマス、
是等ノ場合ニ於ケル負債ノ整理方策ハ、二
宮尊徳翁ノ仕法ヲ以テ根本的指導精神ト爲
シ、貧富相和スルノ訓練ヲ爲スコトニ
依ッテ、大部分ノ整理ヲ遂グルニ至ルベキ
ヲ信ズル者デアリマス、其農村內ニ於ケ
ル對策、即チ債權債務者間ニ於キマシテ、
自治的ニ整理方策ガ立チマシタナラバ、政
府ノ資金ノ借入ヲ爲サズシテ、一部ノ負
債整理ガ出來得ルノデアリマス、斯ノ如
キ結果ニ至リマスレバ、獨リ負債整理ガ
行ハレルノミナラズ、眞ニ自治精神ガ
確立致シマシテ、洵ニ理想農村ヲ作ルニ
至ルベシト信ズルノデアリマス、現在負
債整理組合ノ如キ、徒ニ事務手續煩雜ニ
シテ、又組織經營ニ多クノ費用ヲ要シ、
唯其成績ハ甲ヨリ乙ニ借換ヲ爲ス位ノ程度
デアリマシテ、根本的ニ負債整理ヲ遂ゲ、
經濟更生ヲ實現スル效果ヲ、現在ノ制度ニ
於キマシテハ頗ル疑フ次第デアリマス、茲

難經濟ノ更生ヲ實行致シタノデアリマス、
現在ノ時代ニ於キマシテ、二宮尊徳翁報德
ノ仕法ニ依ル農村負債整理ノ具體的方法ヲ
其儘行フハ、時代ニ副ハザル點ガアルト思
ハレマスガ、天地間ノ大自然ニ生産ノ増加
ヲ求メ、夫婦相和スルニ家庭ノ圓滿ヲ求
メ、貧富相和スルニ社會ノ協調ヲ求メ、而
シテ又勤儉力行ノ獎勵ヲ行フニ求メタル點
ハ、現在ノ農村負債整理ニ、經濟更生ノ實
現ニ、指導精神トシテ大イニ學ブベキ點ガ
アルト思フノデアリマス、現在農村ニ於ケ
ル負債額、大部分ノ債權者ハ其地方農村內
ニアルノデアリマシテ、中央ノ資本ニ、又
勸業銀行等ニ債務ハアリマシテモ、多クハ
町村內産業組合ノ如キ、其組合員相互間ニ債
務者アリ、債權者ガアルノ實情デアリマス、
是等ノ場合ニ於ケル負債ノ整理方策ハ、二
宮尊徳翁ノ仕法ヲ以テ根本的指導精神ト爲
シ、貧富相和スルノ訓練ヲ爲スコトニ
依ッテ、大部分ノ整理ヲ遂グルニ至ルベキ
ヲ信ズル者デアリマス、其農村內ニ於ケ
ル對策、即チ債權債務者間ニ於キマシテ、
自治的ニ整理方策ガ立チマシタナラバ、政
府ノ資金ノ借入ヲ爲サズシテ、一部ノ負
債整理ガ出來得ルノデアリマス、斯ノ如
キ結果ニ至リマスレバ、獨リ負債整理ガ
行ハレルノミナラズ、眞ニ自治精神ガ
確立致シマシテ、洵ニ理想農村ヲ作ルニ
至ルベシト信ズルノデアリマス、現在負
債整理組合ノ如キ、徒ニ事務手續煩雜ニ
シテ、又組織經營ニ多クノ費用ヲ要シ、
唯其成績ハ甲ヨリ乙ニ借換ヲ爲ス位ノ程度
デアリマシテ、根本的ニ負債整理ヲ遂ゲ、
經濟更生ヲ實現スル效果ヲ、現在ノ制度ニ
於キマシテハ頗ル疑フ次第デアリマス、茲

難經濟ノ更生ヲ實行致シタノデアリマス、
現在ノ時代ニ於キマシテ、二宮尊徳翁報德
ノ仕法ニ依ル農村負債整理ノ具體的方法ヲ
其儘行フハ、時代ニ副ハザル點ガアルト思
ハレマスガ、天地間ノ大自然ニ生産ノ増加
ヲ求メ、夫婦相和スルニ家庭ノ圓滿ヲ求
メ、貧富相和スルニ社會ノ協調ヲ求メ、而
シテ又勤儉力行ノ獎勵ヲ行フニ求メタル點
ハ、現在ノ農村負債整理ニ、經濟更生ノ實
現ニ、指導精神トシテ大イニ學ブベキ點ガ
アルト思フノデアリマス、現在農村ニ於ケ
ル負債額、大部分ノ債權者ハ其地方農村內
ニアルノデアリマシテ、中央ノ資本ニ、又
勸業銀行等ニ債務ハアリマシテモ、多クハ
町村內産業組合ノ如キ、其組合員相互間ニ債
務者アリ、債權者ガアルノ實情デアリマス、
是等ノ場合ニ於ケル負債ノ整理方策ハ、二
宮尊徳翁ノ仕法ヲ以テ根本的指導精神ト爲
シ、貧富相和スルノ訓練ヲ爲スコトニ
依ッテ、大部分ノ整理ヲ遂グルニ至ルベキ
ヲ信ズル者デアリマス、其農村內ニ於ケ
ル對策、即チ債權債務者間ニ於キマシテ、
自治的ニ整理方策ガ立チマシタナラバ、政
府ノ資金ノ借入ヲ爲サズシテ、一部ノ負
債整理ガ出來得ルノデアリマス、斯ノ如
キ結果ニ至リマスレバ、獨リ負債整理ガ
行ハレルノミナラズ、眞ニ自治精神ガ
確立致シマシテ、洵ニ理想農村ヲ作ルニ
至ルベシト信ズルノデアリマス、現在負
債整理組合ノ如キ、徒ニ事務手續煩雜ニ
シテ、又組織經營ニ多クノ費用ヲ要シ、
唯其成績ハ甲ヨリ乙ニ借換ヲ爲ス位ノ程度
デアリマシテ、根本的ニ負債整理ヲ遂ゲ、
經濟更生ヲ實現スル效果ヲ、現在ノ制度ニ
於キマシテハ頗ル疑フ次第デアリマス、茲

難經濟ノ更生ヲ實行致シタノデアリマス、
現在ノ時代ニ於キマシテ、二宮尊徳翁報德
ノ仕法ニ依ル農村負債整理ノ具體的方法ヲ
其儘行フハ、時代ニ副ハザル點ガアルト思
ハレマスガ、天地間ノ大自然ニ生産ノ増加
ヲ求メ、夫婦相和スルニ家庭ノ圓滿ヲ求
メ、貧富相和スルニ社會ノ協調ヲ求メ、而
シテ又勤儉力行ノ獎勵ヲ行フニ求メタル點
ハ、現在ノ農村負債整理ニ、經濟更生ノ實
現ニ、指導精神トシテ大イニ學ブベキ點ガ
アルト思フノデアリマス、現在農村ニ於ケ
ル負債額、大部分ノ債權者ハ其地方農村內
ニアルノデアリマシテ、中央ノ資本ニ、又
勸業銀行等ニ債務ハアリマシテモ、多クハ
町村內産業組合ノ如キ、其組合員相互間ニ債
務者アリ、債權者ガアルノ實情デアリマス、
是等ノ場合ニ於ケル負債ノ整理方策ハ、二
宮尊徳翁ノ仕法ヲ以テ根本的指導精神ト爲
シ、貧富相和スルノ訓練ヲ爲スコトニ
依ッテ、大部分ノ整理ヲ遂グルニ至ルベキ
ヲ信ズル者デアリマス、其農村內ニ於ケ
ル對策、即チ債權債務者間ニ於キマシテ、
自治的ニ整理方策ガ立チマシタナラバ、政
府ノ資金ノ借入ヲ爲サズシテ、一部ノ負
債整理ガ出來得ルノデアリマス、斯ノ如
キ結果ニ至リマスレバ、獨リ負債整理ガ
行ハレルノミナラズ、眞ニ自治精神ガ
確立致シマシテ、洵ニ理想農村ヲ作ルニ
至ルベシト信ズルノデアリマス、現在負
債整理組合ノ如キ、徒ニ事務手續煩雜ニ
シテ、又組織經營ニ多クノ費用ヲ要シ、
唯其成績ハ甲ヨリ乙ニ借換ヲ爲ス位ノ程度
デアリマシテ、根本的ニ負債整理ヲ遂ゲ、
經濟更生ヲ實現スル效果ヲ、現在ノ制度ニ
於キマシテハ頗ル疑フ次第デアリマス、茲

第二ノ事項ト致シマシテ、尙ホ農村ノ金

融上ニ關シマシテ、農村ノ資本タル土地ヲ資金化スルニ付キマシテハ、現在抵當權設定登記法ノ如キ制度ハアリマス、是ハ極メテ手續ガ煩雜デアリマシテ、又登録稅其他多クノ經費ヲ要スルノデアリマスカラ、土地ヲ以テマシテ資本化スルト云フコトニ付キマシテ、現在ノ制度ハ農村金融ノ圓滿ナル融通ノ途ヲ求ムルコトハ出來ナイノデアリマス、是ガ現在ニ於キマシテ、農村經濟發達ニ大ナル支障ヲ認ムルモノデアリマス、將來土地資金化制度ヲ設ケマシテ、農村金融ノ利便ヲ圖ルノ必要ヲ御認めニナルカ否ヤ、若シ夫レ不動産資金化制度ヲ設クルコトニ致シマスレバ、獨リ農村ノミナラズ、都市ト共ニ資金ノ運用上利便ヲ得ルコトトモ考ヘラル、ノデアリマス、本問題ハ農村經濟更生ニ關シマシテモ、亦自作農維持創設、負債整理問題ト關聯致シマシテ、最モ緊切ナル將來農村關係ニ關スル問題デアルト存ズルノデアリマス、之ニ對シマシテ農林大臣ノ御所見如何デアリマスカ

農村負債整理資金特別融通及損失補償法ヲ設ケマシテ、負債整理ノ實現ヲ徹底セシムルニ付キマシテ、指導方針、土地資金化制度、即チ以上ノ二ツノ事項ニ對シマシテ、農林大臣ノ御抱負御所信ヲ御伺致シタイノデアリマス、之ヲ以テマシテ私ノ質問ノ要旨ヲ終リマス

〔國務大臣山崎達之輔君登壇〕

○國務大臣(山崎達之輔君) 宮本君ノ御述ニナリマシタ農村ニ對スル指導方針トシテ、二宮先生ノ御教訓ノ如キハ最モ適當デハナイカ、唯負債整理、負債整理ト云ウテモ、確タル方針ヲ以テ指導訓練ヲ行フコトガ必要

デヤナイカト云フ第一ノ點デアリマスガ、宮本君ノ御精神ハ洵ニ御尤ト私共モ拜承致シテ居ルノデアリマス、唯今日ノヤウニ總テノコトガ複雑ニナッテ參リマス、唯一ツノ指導訓練ト云フダケデ、政府ノ實際上ノ特殊ノ施設ガナクテ濟ムカト言ヘバ、中々サウハ參ラスノデアリマシテ、ヤハリハ兩様ノ方法ヲ併セ用ヒテ行クノ外ハナイト思フノデアリマス、隨テ負債ニ付キマシテモ、御承知ノ通りニ負債整理ノ事業ヲ行フト共ニ、ヤハリ其農家々々ニ付テ、將來經濟更生上ノ一ツノ方針、計畫ヲ立テサセマシテ、ソレニ依ッテ負債ノ整理ヲ行フト云フヤウナ方法ヲ執ツテ居ルヤウナ譯デアリマスガ、ア

ナタノ御述ニナリマシタ御趣旨御精神ニハ、私ハ少シモ異存ハアリマセスガ、是アルガ爲ニ今回ノヤウナ政府ノ施設ヲ緩メテ宜イト云フ譯ニハ參ラスト云フコトハ、宮本君御異存ハナカラウト思ヒマス、先般下ナタカニ對シテモ御答申上ガマシタ中ニ、農村ノ對策ヲ唯經濟ノ一點カラノミ考ヘルコトハ適當デナイト云フコトヲ、私ガ申シタノデアリマシテ、ヤハリ經濟ト精神ト兩面カラ農村對策ハ考ヘナケレバナラスト云フコトヲ、私モ存ジテ居ル一人デアリマスカラ、左様御承知ヲ願ッテ置キマス

第二ニ土地ノ資金化ノ問題デアリマスガ、此點ニ付キマシテハ、或ハ宮本君ト私共ノ考ニ、或ル距離ガアルノデハナイカト云フ感ジヲ致スノデアリマス、宮本君ノ御意見トシテハ、成ベク土地ヲ簡單ニ資金化スルヤウナ途ヲ考ヘルコトガ必要デヤナイカ、或ハ一時言ハレテ居リマシタヤウニ、地券ノ問題トカ云フヤウナコトデアルカモ知レマセスガ、其點ハ私共ハ斯ウ云フ風ニ考ヘ

テ居ルノデアリマス、農家ノ土地ヲ餘リニ動産同様ニ便宜ニ資金化スル途ヲ、殊更考ヘル必要ガアルデアラウカドウカ、寧ロ現在ノ信用組合其他ノ共同施設ノ發達ニ依ッテ、農家トシテノ必要ナ資金ノ融通等ノ途ヲ考ヘテ行キ、一方ハ現在ノ土地ノ擔保ノ制度ト云フヤウナコトデモ宜シイノデヤナイカ、餘リ是モ便利ガ開ケ過ギマス、兎角農家ハ土地ヲ失ッテシマフヤウナ危險モ、多分ニアル譯デアリマスカラ、其邊ハ宮本君ノ御意見ト或ハ少シ距離ガアルノデハナイカト思フノデアリマス、是ダケ御答ヲ申上ゲテ置キマス

○宮本雄一郎君 只今農林大臣ノ御答辯ヲ伺ヒマシテ、農林大臣モ形式ノミデハイケンイ、相當訓練ガ必要デアルト云フ考ハ御持チノヤウデアリマス、唯十分ニ其抱負所信ヲ伺フコトガ出來ナイコトヲ甚ダ遺憾ト致シマス、併シ此場合ハ時間ヲ節約致シマス關係上、此程度ニ止メテ置キマス

○小畑虎之助君 松村謙三君及比村松久義君ハ、時間ノ都合ニ依ッテ質疑ノ通告ヲ撤回セラレマシタ、仍テ右通告順ヨリ之ヲ省カレンコトヲ望ミマス

○副議長(岡田忠彥君) 承知シマシタ——石井德久次君

〔石井德久次君登壇〕

○石井德久次君 私ハ本案ニ付キマシテ三質問ヲ試ミタイト考ヘテ居リマシタ者デアリマスルケレドモ、既ニ私ノ問ハント致シマスル大體ノコトニ付キマシテハ、前質問者ニ依ッテ質問ヲ終了セラレタノデアリマスルガ故ニ、是等ノ點ニ付キマシテハ一切之ヲ省略スルコトニ致シマシテ、唯殘サレタル問題ニ付キマシテ、私ノ質問ノ重點ト

致シテ居リマスル點ニ付テノミ、質問ヲ致スコトニ致シタイト存ズルノデゴザイマス、私ノ御尋セント致シマスルコトハ、將來ノ農村負債ヲ如何ニシテ防止セントスルカ、即チ今日ノ農村負債ヲ整理致シマスルコトモ、勿論必要デアリマスルガ、將來再ビ起リ來ルベキ所ノ負債ヨリ農村ヲ護ルト云フコトガ、更ニ一層必要デアアル、斯様ニ考ヘテ居ルモノデアリマス、之ニ對シマスル政府ノ所見並ニ對策如何、是ガ私ノ質問ノ要點デアアルノデアリマス

先程來大臣ヨリモ或ハ質問者ヨリモ出タノデアリマスルガ、農村ニ於キマスル負債ノ個々ニ付キマシテ檢討ヲ致シテ見マシタナラバ、色々ノ原因ガアルモノト存ズルノデアリマス、或ハ其中ニハ緩ウスルコトノ出來ナイ、國家ガ手傳ラシテ整理ラシテヤラネバナラスト云フヤウナ原因ノ下ニ出來マシタ借金モアルコトト考ヘルノデアリマス、併ナガラ之ヲ國家社會全體カラ眺メテ見マシタ場合ニ於キマシテハ、其負債ガ出來マシタ根本ノ原因ト云フモノハ、近代資本主義經濟ノ下ニ農村ガ壓迫セラレタモノニ因ル、斯様ニ申上ゲテ差支ナイト考ヘルノデアリマス、我國ガ今日ノ文明ヲ形成シ、サウシテ國力ノ發展ヲ致シマシタ際ニハ、農村ガ或ル程度犠牲トセラレテ居ルト云フ、此事實ニ付キマシテモ、恐ラク之ヲ認メナイ譯ニハ參ラナイト考ヘルノデアリマス、斯ク考ヘマシタ場合ニ於キマシテ、農村負債整理ハヤハリ社會全體ノ責任デアリマシテ、國家ガ手ヲ下シテ行クト云フコトモ當然ノコトデアアル、斯様ニ考ヘルノデアリマス、私共ハ國家ガ今一段ノ奮發ノ下ニ、是ガ徹底ノ整理ニ當ラレンコトヲ希望シテ已

マナイモノデアリマス

併ナガラ茲ニ私ハ切ニ希望シ、而シテ特ニ當局ノ施設ニ付テ御伺ヲ申上ゲタイト考ヘマスルコトハ、農民ヲシテ今後更ニ負債ニ陥ラセナイト云フコトデアリマス、今日ノ農民ヲ負債ノ桎梏カラ脱却ラセシムルト云フコトノ急務デアリマスルコトハ、是ハ前申上ゲマシタ通りデアリマス、併ナガラ更ニ必要ナルコトハ、農村ヲシテ今後再ビ負債ヲ重ネサセナイト云フコトデアルト考ヘルノデアリマス、若シ此注意ト此努力ヲ怠リマシタ場合ニ於キマシテハ、農村ノ負債ハ倍加ノ勢ヲ以テ増大シ來ルト考ヘルノデアリマス、唯單ニ現在ノ債務ヲ整理スルコトニ依リマシテ農村ノ負債ヲ救済サレル、斯様ニ考ヘマスルナラバ、ソレハ愚ノ極ミデアルト申サネバナラス、眞ニ農村ノ負債ヲ整理シ、農村ヲ此負債ヨリ救済ラセント致シマスルニハ、今日ノ援助固ヨリデアリマスルガ、更ニ大切ナルコトハ、將來ノ負債ヨリ農村ヲ護ルコトデアリマス、然ラザレバ農村ノ負債ハ未來永劫減減シナイデアリマセウト云フコトヲ私斷ズルノデアリマス(拍手)而シテ此最善ノ對策ハ一ニ懸ッテ農民ノ所得ヲ増大セシムルコトデアリ、農民ノ懷ロ勘定ヲ良クスルコトニアルト考ヘルノデアリマス、政府ハ農村負債整理組合法ヲ強化セラル、ト同時ニ、之ニ併セマシテ此農民所得増大ノ策ヲ樹立シテ、サウシテ明日以後ノ農村ニ對シナケレバナラスト思フノデアリマス

政府ハ曩ニ自作農創設ノ事業ヲ開始致シマシタ、本議會ニ於キマシテモ是ガ強化擴大ノ法案ヲ御提出ニナッテ居リマスルガ、過去ニ於キマスル所ノ本邦ノ自作農増加ノ割合

合ハドウデアアルカ、斯様ニ檢討シテ見マス

ト、政府ガ銳意是ガ創設ニ當ラレマシタニ拘ラズ、統計ハ明ニ自作農減少ヲ示シテ居ルノデアリマス、是ハナゼデアリマセウカ、一面ニ於テ自作農ハ創設セラレマスケレドモ、嘗テノ自作農ハ段々ト小作農ニ轉落シテ行ク、而シテ此轉落ヲシテ參リマシタコトガ原因ヲ致シマシテ、自作農ハ段々ニ減少シテ參リマシテ、小作農ガ殖エテ來ル、斯ウ云フヤウナ結果ニ相成ッテ居リマス、此轉落ヲ致シマス所ノ原因ハ、現在ノ農家所得デハ其生活ヲ維持スルコトガ出來ナカッタ、斯ウ云フコトニ基因ヲ致シテ居ルノデアリマス、即チ政府ハ自作農創設ヲヤルト共ニ、一面ニ於テ農家所得ノ増大ヲ來サシムル所ノ方途ヲ講ズルノ必要ガアルト思フノデアリマス、ニモ拘リマセズ之ヲ忘ッテ居リマシタガ爲ニ、此自作農創設ノ事業モ明ニ失敗ニ終ッタト云フコトニ相成ッテ居ルト存ズルノデアリマス、此度ノ負債整理ニ於キマシテモ、全ク同様ノ考慮ヲ要スルモノト考ヘルノデアリマス、過去ニ於キマスル所ノ此農民ノ負債、斯ウ云フモノハドウシテ出來テ來タカ、是ハ勿論色々ノ原因モアリマセウケレドモ、大體ニ於テソレガ懶惰ノ結果デハアリマセス、遊ンデ居ッテ結果デハナイノデアリマス、農民ニ於テハ勤勉業ニ服シマシテモ、其收入ノミデハ其生活ヲ支ヘ切レナカッタ社會的壓迫ノ結果デアアルノデアリマス、農村生活ハ極メテ眞面目デアリマス、極メテ質實デアリマス、而モ其所得ハ其生活ヲ支ヘ切レナカッタノデアリマス、近代の自由競争主義經濟ノ上ニ於キマシテハ、我國ノ農業ハ餘リニモ其組織其機構ガ貧弱デアッタノデアリマス、而モ其間ニ於キマシテ

國家ガ農村ニ與ヘマシタ所ノ助長政策ハ極

メテ消極的デアッタノデアリマス、僅ニ其自營共同機關デアリマシタ所ノ農會、或ハ產業組合等ノ乏シキ活動ニ之ヲ待望致シテ居ッタルノガ、總テ今日ノ農村ノ窮乏ヲ來シマシタル最大原因ナリト信ズルノデアリマス
農村ニ於キマスル所ノ所得ヲ増大セシムルニハ、農產物價ノ昂上ヲ圖ルノガ一番ノ捷徑デアリマス、一番ノ早イ途デアリマス、四五年前ノ農村ト今日ノ農村ト比較シテ見マスル場合ニ、僅カナガラモ今日農產物價ノ昂上致シマシタコトハ、如何ニ農村ヲ明ルクシタデアリマセウカ、他ノ工業生産品等ノ騰貴ニ比ベマスレバ、實ニ九牛ノ一毛ニモ等シキ所ノ農產物價ノ昂上ガ、如何ニ農村ニ活力ヲ與ヘタカ、斯ウ云フ事實ニ見マスル場合ニ、農村ノ振興モ匡救モ一ニ懸ッテ此農產物價ノ向上ニアリト言ヒ得ルト思フノデアリマス、併ナガラ此農產物ノ價格ハ、國民生活ノ上ニ至大ノ關係ヲ有スルモノデアリマスルガ故ニ、唯農民ノミノ一方的考ヲ以テ之ヲ律シ、之ヲ左右スル譯ニハ參ラスノデアリマス、茲ニ農村ノ所得増大策ニ付テハ、極メテ困難ナル事情ガ存在スルノデアリマシテ、爲政者ノ最モ注意ヲ希ハネバナライ所ダト存ズルノデアリマス、農產物價ノ向上ヲ策スルコトハ極メテ困難ダト致シマシタナラバ、殘サレタ所ノ問題ハ農家ノ生産ヲ増加スル、或ハ其餘剩勞力ヲ活用スルコトニ依ッテ、其收入ヲ増加セシムルヨリ外ニ方法ハナイト私ハ考ヘルノデアリマス、是ニ於テ先ヅ考ヘラレマスノガ農耕地ノ改良デアリ、或ハ林野ノ開墾デアリマス、更ニ無收穫地ノ利用デアリ、造林事業ノ獎勵デアリマス、而シテ又農村工業

ノ徹底的計畫デアリマス、我國ニ於キマス

ル農地改良ノ餘地ハ尙ホ多分ニ存スルノデアリマス、即チ一毛作田ニ施工ヲ致シマシテ、二毛作田トナシ得ル田地ハ四十七万五千町歩、山林、原野、池沼若クハ干拓等ニ依ル田畑擴張見込反別ハ約八百万町歩ト云フコトデアリマス、耕地整理ヲ施行シ得ル見込反別ハ約百三十万町歩ト相成ッテ居リマス、原野ニ致シマシテモ、畜産用一百万町歩ヲ除キマシタ造林農耕ノ面積ハ、尙ホ百五十万町歩存スルト云フコトデアリマス、是等ノ夥シキ面積ノ山林、原野乃至耕地ハ、農民ノ一日モ早ク來リ耕サントヲ待ッテ居ルノデアリマス、今日ノ我國ノ農村ハ耕作スベキ土地ノ寡少ヲ嘆イテ居ルノデアリマス、餘剩勞力ノ消化ニ困ッテ居ルノデアリマス、自給自足經濟ノ下ニ經營ヲ致シテ居リマシタ我國過去ノ農村ノ生活ト、今日ノ殆ド貨幣經濟化セラレマシタル所ノ農村ノ生活トノ間ニ於キマシテハ、勞力ノ使用量ニ於キマシテ格段ノ相違ヲ來シテ參ッタノデアリマス、更ニ農具ノ發達或ハ水利ノ改良、或ハ耕地ノ改善等ハ、一層農業從事日數ヲ減少シ來ッタノデアリマス、即チ以前ニ一町ノ耕作ヲ爲シテ居タ者ハ、今日ニ於テハ一町五反ヲ耕作シテ尙且ツ餘剩ノ勞力ヲ有スルト云フコトニ相成ッテ居ルノデアリマス、要スルニ此農村ニ溢レ來ッテ居リマスル餘剩勞力ヲ活用シ消化セシムルト云フコトガ、農村ノ所得ヲ増大セシムル最モ效果的政策デアルト思フノデアリマス、耕地事業ノ如キ、或ハ造林事業ノ如キ、一面ニ於キマシテハ此過剩勞力ヲ消化セシメ、更ニ進ンデ之ヲ運營スルコトニ依リマシテ、農家ノ所得ヲ増進セシムルコトガ出來ルノ

リマス、次ニ私ハ此質問ヲ爲ス理由ヲ申述
ベマス、單ニ農村負債整理組合法ノ運用ニ
關シテノミナラズ、廣ク農家負債ニ關スル

政府ノ諸方策、及ビ其基礎タル農村金融ノ

實情ヲ見マスルニ、從來齊シク土地所有者

二厚く、農業經營者ニ甚々薄イノテアリマ

不例へば第一、最近一般の二但金和紙

策ニ依リマシテ金種カ下ツテ居リマス。政府

ノ政策ニ依テ不重産銀行並ニ信用組合ヲ

其金和力下之居明マ不之ニ依テ土地持

保二依以不重産銀行 信用組合カシ合三

ハ大分縣哉セラレテ居ルノデア明マズ、

然レニ一般農業經營者ガ農業資金トシテ、

或ハ家計上ノ必要ニ依ル負債トシテ、短期

高利二借受方テ居リマス所ノ負債ハ、低金

利ノ恩惠ヲ受ケテ居ナイノデアリマス

第二三、今日ノ農村金融機關トシテハ、

不動產銀行ト信用組合ノ二ツノ體系ガ存シ

テ居ル、前者ハ言フ迄モナク土地所有者本

位デアリマシテ、後者ハ元來ハ對人信用ノ

機關トシテ設ケラレタモノデアルニモ拘ラ

ズ、其本來ノ使命カラ逸脱致シマシテ、其利

用ハ地主及び富裕ナル自作農本位ニ偏シ、

中以下ノ自作農、自小作或ハ小作人等ハ、

其利便ヲ受ケルコト甚ダ少イ實情ニアリマズ

昭和四年末ノ農林省經濟更生部ノ調査ニ

依レバ、農家負債總額ノ中、勸業銀行、農

工銀行、拓殖銀行、產業組合、普通銀行、簡

易生命保險等々ノ近代の金融機關ノ貸付額

ノ占メテ居リマス所ノ割合ハ、四四・五%、個

人其他ノ原始的金融業者ニ依ル貸付額ハ

五六・五%トカテ居リマシテ今日産業組合

通商ノ發展、不重、廣銀行ノ發展ニ基キテ

村金融ノ比較的変化ハ、

テ居ルニモ拘ラズ、尙且ツ個人的、非近代的ナ金融機關ノ貸付ガ、斯クモ優位ヲ占メテ居ルノデアリマス、此貸付ハ言フ迄モナク自然的、經濟的脅威ノ下ニ、不安ナ農業生産ヲ營ミツ、アル耕作農民ニ對スル貸付ナノデアリマス

今此問題ヲ更ニ一步掘下ゲテ研究スルナラバ、吾々ハ一層深刻ナ事實ニ直面セラルルノデアル、即チ昭和七年十一月末、現在ノ青森縣ノ農家負債狀況調ニ依リマス、農家ノ負債總額ノ中、信用組合、勸業銀行、普通銀行、縣町等々ノ近代的金融機關ヲ通ズルモノガ、僅ニ三四・九%、殘餘ノ六五・一%ハ賴母子講、無盡、金貸業者タル個人、商人等カラノ負債デアリマシテ、貧農ノ多イ青森縣ノ如キ地方ニ於ケル非近代的金融機關ニ依ル負債ノ「パーセンテージ」ガ、一般的ニ見タ「パーセンテージ」ヨリモ多イト云フ事實ハ、實ニ困窮セル耕作農民ヨリ多ク非近代的金融機關ノ支配下ニ露スルモノデアリマス、斯ル非近代的金融制度ノ下ニ置カレテ居リマス結果ハ、ソコニ不當ナ、不正ナ、不合理ナ搾取ガ行ハレルヤウニナツテ來ルノデアリマス、今青森縣ノ例ヲ見ルニ、農家負債ノ利率ハ、有擔保ヲ以テ致シマシテモ六二%ハ一割以上ノモノデアリ、三八%ガ一割以下ノモノデアアル、無擔保ニ至リマシテハ、實ニ八九%マデガ一割以上デアリ、一割以下ノモノハ僅ニ一一%ニ過ギナイノデアリマス、如何ニ高利債ニ惱サレテ居ルカガ分ルノデアリマス、斯ノ如ク擔保物ヲ持タズ、近代的金融機關ヲ利用シ得ヌ過小農程、負債ノ重壓ノ下ニヨリ多ク惱マサレテ居ルコトヲ知リ得ルノ

デアリマス、而モ是ガ農村更生ノ痛トナツテ居ルノデアリマスカラ、之ヲ除クコトガ出來ナケレバ、到底農村ノ眞ノ更生ハ期シ得ラレナイト考ヘルノデアリマス(拍手)

然ルニ從來ノ政府ノヤリ方ハドウデアツカ、既ニ述ベタ如ク、農家負債ニ關スル政府ノ諸方策、及ビ其基礎タル農村金融ノ實情ヲ見ルニ、從來農業經營者、就中小農、貧農ニ甚ダ酷デアリマス、之ヲ只今問題トナツテ居リマス所ノ、農家負債整理組合法ノ運用ニ依ル負債ノ整理ニ付テ見マシテモ、同様なコトガ言ヘルノデアリマス

元來農村負債整理組合法及ビ本法案ノ目的トスル所ハ、漠然ト農家負債ノ整理ト云フ言葉ヲ以テ表現セラレテ居リマスガ、併シ農家負債ト申シマシテモ、自ラハ農業經營ニ從事セズシテ、他人ニ土地ヲ貸與ヘ、小作料ヲ取ツテ居ル地主ノ負債モアリ、自ラハ土地ヲ持タズシテ、他人ヨリ之ヲ借受ケテ農業經營ニ從事シツ、アル小作人ノ負債モアリ、或ハ自作農ノ負債モアルノデアリマシテ、而モ是等ノ負債ハソレノハ發生ノ原因ヲ異ニシ、隨テ又社會的意義ヲ異ニシテ居リマス、此蔽ヒ隱スコトノ出來ヌ現實ニブツカル時、法文ノ上デハ如何ナル負債ノ整理ニ重點ヲ置クカト云フコトヲ、何等明示シテ居ナイ此法律及ビ此度ノ法律案ガ、實際ノ上ニ於テハ如何ナル負債ノ整理ニ重點ヲ置イテ運用サレタカ、或ハ運用サレツ、アルカ、又將來爲サレントスルカト云フコトガ、重大ナ現實ノ問題トナツテ來ルノデアリマス、今從來ノ實績ヲ見マス、貧農、小作人ノ多イ處デハ、負債整理組合ガ中々設立セラレナイ、設立セラレテモ政府ノ資金ガ中々融

通セラレナイヤウニ見受ケラレル、小作人ガ組合ノ中ニ多ク入ルト云フコトハ、地主ガ之ヲ嫌ヒ、負債整理組合ノ設立或ハ資金ノ融通ヲ斡旋スベキ村當局者ガ、同様な態度ヲ示ス者ガ少クアリマセズ、斯クテ折角國家カラ融通セラレル資金ハ、村ノ一部ノ有力者ノ壟斷スル所トナリマシテ、小農、貧農ハ其恩惠カラ閉メ出シラ喰ツテ居ル、農村負債整理組合法ノ運用ニ依ル過去ノ負債整理事業ガ、小農、貧農ノ負債整理ニ如何ニ冷淡デアツカハ、斯様ナ閉メ出シラ喰ツテ居ル所ノ小農、貧農ガ、最モ能ク之ヲ知ツテ居ルト私ハ思フノデアリマス、隨テ負債整理法ノ從來ノ如キ運用方法ヲ以テシテハ、農村ノ最大多數ヲ占メ、且ツ負債ノ重壓ニ最モ多ク悩ンデ居ル小農、貧農ヲシテ、此法律ノ恩惠ヲ受ケルコトガ出來ナイ、政府ハ將來負債整理組合法ノ運用ヲ改メテ、國家カラノ資金ノ利益ヲ先ヅ小農貧農ニ受ケシメルヤウニ、自ラ其方針ヲ樹立シ、且ツ町村當局竝ニ負債整理組合當局者ヲシテ、此方針ノ下ニ負債整理事業ノ斡旋盡力ヲ爲サシメルヤウ、積極的ニ監督指導スルノ御意思ハナイカ、之ヲ私ハ質問スルノデアリマス

カラ高い利子ヲ出シテ金ヲ借り、其爲ニ高利債ガ一般化シテ居ルノデアリマス、第二ハ最近ニ於キマシテ此負債ヲ更ニ耐ハ難イモノト致シマシタノハ、昭和五年以降ノ打續ク農業恐慌、竝ニ自然災害ノ結果デアリマシテ、之ニ因ツテ農家ハ更ニ負債ヲ重ネザルヲ得ナクナツテ居リマス

第二ノ質問ハ負債整理ノ具體的方策ニ關スルモノデアリマシテ條件緩和及ビ融資金額ニ關スル問題デアリマス、元來我國ノ中小農家ノ負債ノ原因ヲ見マス、ソレハ次ノ如キモノデアラウト私ハ考ヘル、第一ハ日本ノ農業ガ過小農經營デ收益ガ薄ク、小作料ガ高イ、其爲ニ近代的金融ハ小作料ノ取レル土地ニ對スル金融ニ限ラレマシテ、農業經營者ニ對スル信用ハ發達シナカッタノデアリマス、ソコデ農業經營者ハ高利貸

第三ハ負債ノ利子及ビ元金ノ償却ガ、收入減ノ爲ニ、出來ズ、ソレガ複利的ニ計算セラレテ元金ニ繰込マレ、負債額ハ加速度的ニ増加シテ、其取立テニ苦シメラレテ居ルト云フ状態デアリマス、ソレ故ニ耕作農民ノ負債ハ、私ノ見解ヲ以テ致シマスナラバ、原則的ニハ耕作農民自身ガ責任ヲ持ツベキ性質ノモノデハナイ、即チ怠惰奢侈、投機等ニ依ツテ招イタ結果デハナイノデアリマシテ、實ニ孱弱キ耕作農民ニ取ツテ不可挽力デアル所ノ資本主義經濟法則、竝ニ自然的災害ノ結果ト謂フベキデアルト私ハ思フノデアリマス(拍手)隨テ爲政者ハ資本主義社會ノ責任者ト致シマシテ此犧牲者ノ負債ヲ整理スベキ義務ト責任トヲ持ツテ居ル、耕作者カラ見マスレバ、之ヲ要求スル權利ガアルト云フモ過言ニ非ズト私ハ確信スルノデアリマス(拍手)

翻テ斯ノ如キ社會的原因ニ因リマシテ生ジマシタ耕作農民ノ負債ガ如何ニ是等ノ耕作農民ノ農業生産及ビ其生活ヲ壓迫シテ居ルカラ見ナケレバナラスト思フノデアリマス、農林省ノ農家經濟調査ニ依リマシテ之ヲ見マス、昭和八年度ニ於キマシテ、農業經營費中、肥料代ガ自作、自小作、小作ヲ平均致シマシテ九十二圓六十錢ヲ占メテ居リマシテ、其次ニ位スルモノガ實ニ負債ノ利子ト云フ順序ニナルノデアリマス、負債ハ平均、

六百六十一圓三十錢ニナリマスカラ、之ヲ利子一割ト見マスナラバ、六十六圓強トナリマシテ、之ニ元金ノ償却ヲ加ヘテ行キマスタラバ更ニ増額シ、甚シク農業經營ヲ壓迫シツ、アルト云フ事實ヲ私共ハ見ルノデアリマス、近來農產物ノ價格ガ騰貴スルノヲ見テ、農村ノ實情ヲ知ナイ人、最モ適切ナル例ハ結城大藏大臣ノ如キ、或ハ單ニ現任ノ大藏大臣ダケデナク、歴代ノ大藏大臣モサウデアッタノデアリマスガ、農產物ガ少シ値上リニナルト農村ハ潤ヒタリト言フノデアリマス、併シ私共カラ見ルト是ハ甚ダ皮相ナ觀察デアル、甚ダ一面ノ局部部的ナ觀察デアルト思フノデアリマシテ、事實ハ是ト遙ニ趣ヲ異ニシテ居リマシテ、農產物ノ價值ノ騰貴ハ却テ耕作農民ニ對スル高利貸ノ元利償還請求ノ口實ヲ與ヘルコトトナリ、農作物價格騰貴ニ依ル若干ノ利益ハ、徒ニ高利貸ノ搾取ノ目標トナルニ止マリ、多數ノ貧シイ農家ハ其負擔スル高利貸ノ爲ニ好景氣ナルガ故ニ却テ負債ノ元金ト利子ト支拂ニ追ハレマシテ、消費ノ改善ヲ爲スコトモ出來ズ、農家經營ニ充分ナ資金ヲ投ズルコトモ出來ズシテ、即チ經濟更生ヲ爲スコトガ出來ズシテ、依然トシテ、負債奴隸ノ狀態ニ置カレテ居ルト云フコトヲ吾々ハ知ツテ居ルノデアリマス、而モ斯ル惡質ナ非近代的高利貸ハ、實ニ我國ニ於キマシテ二十數億圓ノ多額ニ上ツテ居ルノデアリマス、斯ノ如キ負債カラ農民ヲ救フノデナケレバ、斷ジテ農村ノ更生ハ覺束ナイ、農村更生ノ爲ニハ、農業生産、農民生活ヲ壓迫スル是等ノ非近代的高利貸ニ對シテ、政府ハ大英斷ヲ以テ臨ムベキデアルト思フノデアリマス

私ハ耕作農民ノ負債ニ對シマシテ斯様ナ見解ヲ持ツテ居リマスノデ、負債整理組合法ニ依ル負債整理ノ實行ニ當ツテモ、從來ノ如ク、負債整理組合ガ債權者ト債務者トノ間ニ立ッテ斡旋シ、條件緩和ニ關シ妥協ヲ圖ルニ委セテ、政府ハ唯抽象的ニ互讓ノ精神ノ發揮ヲ勸說スルニ止マルト云フガ如キ、微溫的態度ヲ以テ致シマシテハ、容易ニ所期ノ目的ヲ達スルコトハ出來ナイト思フノデアリマス、眞ニ耕作農民ヲ負債地獄カラ救ヒ出スニ足ルダケノ條件緩和ノ基準ヲ積極的ニ政府ハ明示シテ、之ニ依ラシムベク努力スベキデアルト思フノデアリマス、若シ條件緩和ガ徒ニ一時ヲ糊塗スルガ如キモノデアリマスナラバ、折角國家ノ貴重ナル資金ヲ融通致シマシテモ、ソレハ徒ラニ債權者ヲ益スルノミデ、債務者ノ更生ヲ困難ナモノトナラシメル虞ガアルダケデナク、他方元來ガ經濟的強者ト弱者トヲ資本主義的經濟法則ノ下ニ放置シタ爲ニ、今日ノ如ク弱少農民ノ負債ノ累積ヲ生ジタノデアリマスカラ、苟モ此負債ノ整理ヲ實行シテ其更生ヲ圖ラウト云フ爲ニハ、政府トシマシテハ強イ決意ヲ以テ此事業ニ臨ミ、或ル程度ノ強制的手段モ亦辭セスト云フダケノ態度ヲ以テ事ニ當ラナケレバ、其目的ヲ達スルコトハ出來ナイト考ヘルノデアリマス（拍手）

是マデ負債整理ニ關シマシテ條件緩和ノ目標トサレテ居ルモノハ、元金ノ切下、延滞利子ノ切捨、利率低下、負債期間ノ延長等デアリマシタガ、私ハ此中、利率低下ト元金切下ニ關シマシテ質問ヲシタイト思フノデアリマス、最初ニ利率低下ノ問題ニ付テ質問致シマス、最近ノ農林省ノ農家經濟調査ニ依レバ、小作、自作、自作等ノ農業經營者ハ負債ノ利子ガ年二分ト計算サレマシテ、初メテ農業經營上僅ニ赤字トナツテ居ルノデアリマス、隨テ理想カラ申シマスレバ、全部ノ負債ヲ二分程度ノモノニ借換ヘサシテヤラナケレバ、農家經濟ガ成立クナイト云フコトニナルノデアリマス、併シ農產物價格ノ昂騰、肥料價格ノ低下、公租公課、小作料等ノ引下等ヲ考慮ニ入レルナラバ、必ズシモ二分デナケレバナラナイト云フ譯デハアリマセス、ソレデモ五分以上ノ利子ハ農家經濟ニ取ツテ重イ負擔デアルコトハ論ヲ俟チマセス、況ヤ一割以上ノ如キハ、單ニ重荷デアルト云フダケデナク、寧ろ農業經營ヲ萎縮サセ、農民生活ヲ低下サセ、農民ヲ負債奴隸ノ鐵鎖カラ解放スルコトヲ不可能ニスルモノデアアルコトハ、今日マデノ實際ガ之ヲ證明シテ居ルノデアリマス、ソコデ少クモ政府ハ、農家全負債ニ付キマシテ其利子ノ引下ヲ圖リ、セメテ最大限ノ讓歩ヲ致シマシテモ五分以下ニシナケレバナラナイト私ハ思フノデアリマス、現ニ産業組合中央金庫ヨリ融通セラレテ居リマス所ノ肥料資金ノ組合ノ貸出利率ハ、年四分七厘以内デアリマス、米穀應急資金モ亦同様デアリマス、即チ條件緩和ノ際ニ於ケル利率ハ、五分程度ヲ以テ最高限トスルヤウニ整理方針ノ基準ヲ示スベキデアルト思ヒマスガ、政府ハ如何様ナル御考ヲ持ツテ居ラレマスカ

第二ハ、條件緩和ニ於ケル元金切捨ノ問題デアリマス、過去ノ負債ノ中ニハ甚ダ不合理ナモノガ含マレテ居リマシテ、元利支拂ノ滞リガ元金ニ繰入レラレテ、而モ複利計算ニ依ツテ、雪達磨ノヤウニ殖エテ農家ヲ苦シメテ居ルモノガアルノデアリマス、斯様ナ高利貸的ナモノニ付キマシテハ、強硬方針ヲ以テ整理シナケレバ農家ハ救ハレナイノデアリマス、仍テ最初ノ元金以上ノ分ハ、原則トシテ之ヲ切捨テル方針ヲ以テ臨ミマシテ、其上デ更ニ新ニ整理方針ヲ立テ、條件緩和ヲ圖ルヤウニシナケレバナラヌト思フノデアリマス

尙ホ年々利息ヲ支拂ヒ而モ元金ハ何時迄經ツテモ少クナラナイト云フヤウナ場合ガ多イノデアリマシテ、既ニ支拂ツタ利子ヲ合計致シマシテ其元金ヲ超エルト云フヤウナモノニ付キマシテハ、元金償還ニ付キマシテ相當思切ツタ緩和ヲ爲スベキデアルト思ヒマス、政府ガ發表シマシタ負債整理成立ノ事例ノ中ニハ、少數デハアリマスケレドモ、此程度ノモノガアルヤウニ私ハ見受ケテ居リマスケレドモ、併シ之ヲ一般化サナケレバ、折角負債整理案ヲ立テマシテモ、農村ノ不合理ナ負債ガ減ズルモノトハ思ハレナイノデアリマスガ、私ハ此點ニ付キマシテ政府ノ所信ヲ伺ヒタイト思フノデアリマス

其三ハ融資ノ金額ニ關スル問題デアリマス、融通資金ニ關スル問題デアリマシテ、此度ノ法案ニ依リマスレバ、負債整理ノ對象タルベキモノハ利子一割以上ノ負債、或ハ非常ニ惡質ナ土地擔保ノ負債ト云フヤウナモノヲ計上サレマシタト聽イテ居ルノデアリマスガ、政府ハ左様ナモノヲ整理ニ必要ナ額ト見ラレマシテ、其額ヲ十三億圓ト見積ツテ、其中デ緊急整理ニ必要トスルモノ五億ト見テ、年平均五千萬圓ヅ、ノ融資ヲ十年間ニ行ハウトスルト云フヤウニ聽イテ居リマス、併シ吾々ノ見ル所ヲ以テ致シマスト、五分以上ノ利子ハ農家ニ取リマシテ

ハ負擔シ切レナイモノデアルト云フコトハ、私ガ先刻述べタ通りデ、從テ政府ノ此見方ニハ私ハ贊成スルコトガ出來ナイノデアリマス、吾々ガ特ニ重點ヲ置カウトスルノハ、近代の金融機關カラノ負債ヲ除イタモノ、即チ原始的の非近代の機關ニ依ッテ貸付ケラレテ居リマス所ノ二十數億圓ニ上ルト推算サレル無擔保ノ高利債デアル、私ハ之ヲ整理ノ對象トスベキデアルト考ヘルノデアリマス、私ハ此ノ高利債ヲ整理ノ對象トシテ、初メテ負債整理ノ意義ハ達セラレルト考ヘル、之ヲ條件緩和ニ依リマシテ五億ヲ減ズルト致シマシテモ、尙ホ十五億餘リヲ負債整理ノ對象トシナケレバナライ、隨テ年一億五千萬圓位ノ融資ヲシマシテ、十年間計畫位ヲ立テ農村ノ負債ノ整理ニ臨マナケレバ到底此長イ間ニ涉ッテ農家ノ經濟、農民生活ヲ壓迫シテ居リマス所ノ高利債カラ農民ヲ救ッテ、眞ニ農村ノ更生ヲ圖ルコトハ出來ナイト思フノデアリマス、政府ハ、融資金額ヲ増シ、十五億圓、年平均一億五千萬圓トシ十箇年計畫デ、補償金額ヲ五億圓位ニスル意思ハナイカ、之ヲ質問スルノデアリマス

最後ニ第四ニ私ハ農業經營者本位ノ近代金融ノ確立ト云フ問題ニ付キマシテ質問シテ見タイト思フノデアリマス、即チ農業經營者、就中小農、貧農ニ對シ單ニ舊イ借金ノ整理ヲスルト云フダケニ止マラナイデ、更ニ進ンデ積極的ニ近代の金融、殊ニ單ニ低利ノ金融ノ途ヲ講ズベキデハナイカ、此問題ニ關シマシテ政府ノ所信ヲ質シタイト思フノデアリマス、私ノ所信ニ依レバ、農家負債問題解決ノ爲ニハ、單ニ舊債ノ整理ヲ爲スノミデハ其效果ヲ舉ゲルコトハ出來

ナイ、耕作農民ハ高利負債ニ悩ンデ居ルノデアリマス、ソレハ前述ノ通り近代の金融機關カラ見放サレテ居ルカラデアリマスカラシテ、隨テ農業經營者本位ノ近代の金融ノ道ヲ講ズルニアラズンバ、根本的ノ解決策ハ樹テ得ナイノデアリマス、今日近代の農業金融機關トシテノ勸業銀行、農工銀行、拓殖銀行等ガアリマスケレドモ、是等ハ一般銀行ト同ジク、全ク土地所有者ニ對スル金融機關デアルニ過ギマセヌ、農業經營者ニ對スル金融ヲ目標トシテ出來タ信用組合マデガ十分ニ農業金融ノ實ヲ舉ゲテ居ナイノデアリマス、例ヘバ昭和六年、七年並ニ十一年度ノ農村信用組合ノ貸出ヲ見マスルノニ、中央金庫ノ調査ニ依リマスト、昭和六年六月ニ於キマシテハ、無擔保ガ五・六四％、有擔保ガ四三・三六％デアッタノニ、昭和七年六月ニ於キマシテハ、無擔保ガ五・三六％、有擔保ガ四六・四四％トナリ、有擔保ガ殖エテ居ルノデアリマス、更ニ最近ニ至リマスト、其傾向ガ益々著シク、昭和十一年九月末ニ於テハ、無擔保ガ五・一七％、有擔保ガ四八・三三％トナッテ居ルノデアリマス

然ルニ農村ニ於ケル擔保物ト申シマスト、土地ヲ以テ主トスルノデアリマスカラ、右ノ統計ニ示サレタ數字ハ、信用組合ガ土地所有者ヲ中心トシテ活動シテ居ルコトヲ物語ッテ居ルノデアリマス、即チ信用組合ノ本來ノ使命ニ反シテ、對人信用カラ土地信用ニ移行シツ、アルコトガ看取セラレルノデアリマス、而シテ其貸付資金ノ用途別ヲ見マシテモ、昭和十一年九月末現在ニ於テ、信用組合貸出ノ農業資金中、土地資金ハ五・六六％デアアルノニ對シマシテ、肥料資金ハ五・三八％、養蠶資金ハ四・四四％、家畜家禽

資金ハ五・一％農業資金ハ二・四％、礦資金ハ一・一％ト云フガ如ク甚ダ貧弱デアリマシテ、信用組合ガ耕作農民、殊ニ小農、貧農ニ對シマシテ餘リ役ニ立ッテ居ナイコトヲ示シテ居ルノデアリマス、然ラバ何故ニ信用組合ノ利用率ガ少ナイカト申シマスニ、第一ニハ組合ノ役員ガ地主及富裕ナ自作農中心デアッテ、信用組合ヲ營利本位ノモノトシテ居ル、即チ組合員ノ百分比ヨリ見マスルニ、地主ハ組合員ノ五％ヲ占メテ居ルニ拘ラズ、役員ハ三六％ヲ占メ、自作農ハ組合員ノ二四％ヲ占メテ居ルニ對シマシテ、役員數ノ四八％、自作農ハ組合員ノ二八％ヲ占メテ居ルニ對シテ、役員數ノ一％、自作農ハ組合員ノ二一％ヲ占メテ居ルノニ對シマシテ、殆ド零ニ等シイ役員デアリマス、斯様ナ機關ノ構成關係ノ下ニ置カレテ居リマスカラ、其爲ニ農業經營ニ於テ最モ苦シイ貧農、小農ニ對シテ信用ガ與ヘラル、所ガ少ナイノデアリマス、第二ハ今日ノ信用組合ニ對シテハ、貧農小農ノ加入ガ或ハ加入金ノ高額、其他色々ナ障害ニ因ッテ十分行ヘレテ居ナイ、即チ地主ノ加入率ハ全地主數ノ七〇・二％、自作農ハ六三・九％、自作農ハ三八・四％、小作農ハ實ニ六・九％デ、如何ニ貧農小農ノ信用組合利用率ガ低イカガ分ルノデアリマス

第三ニハ隨ッテ貧農ハ信用サルベキモノヲ持タヌモノトシテ、常ニ信用評價ノ場合ニ除外サレルコトガ多イノデアリマス、即チ組合員數ノ僅カ五％ヲ占メテ居ルニ過ギナイ所ノ地主ニ對シテ、貸付金額總額ノ一二％ヲ貸付ケ、之ニ對比シテ二一％ト殆ド地主ノ四倍以上ヲ占メル小作人組合員ニ對スル貸付ヲ見ルニ、地主ニ對スル貸付ヨリ

モ少ク、貸付金額ノ一％ヲ占メルニ過ギナイノデアリマス、斯様ナ次第デアッテ、信用組合ハ其本來ノ使命ニ反シテ、土地所有者偏重ノ傾向ニ墮シテ居ルノデアリマスカラ、政府ハ斯ル傾向ヲ抑止シテ、農業經營者ヲ目標トシタ金融機關ヲラシメルヤウニ、信用組合ヲ導クコトニ努力シナケレバナラナイト思フノデアリマス、其爲ニハ第一ニ産業組合ヲ民衆化シ、貧農ノ代表者ノ多クヲ組合役員トスル途ヲ開キ、貧農ヲ中心トシタ信用組合トシテ立テ直サナケレバナラスト思ヒマス、第二ハ信用組合ノ利子マデ引下ゲシメ、斯様ニシテ生ジタ損失ヲ國家ガ補償スベキデアルト考ヘル、是ハ決シテ暴論デハナイ、政府ハ昭和二年ノ銀行「パニック」ノ場合ニ、預金者ヲ救済スルト稱シテ、一特殊銀行タル臺灣銀行ニ對シテスラ二億圓ノ損失ヲ補償シタコトガアル、今ヤ三百万人ノ農民ヲ包含シ、産業組合ノ改善ニ依ッテハ六百万人ノ農民全部ヲ包含スベキ産業組合ニ對シテ、斯ノ如キ補償ヲ與ヘラスト考ヘマス、第三ニ政府ハ、今日モ預金部ノ融資トシテ養蠶應急資金トカ、風水害救済應急資金トカ、高利債借替等ノ種々ノ應急資金ヤ肥料資金ノ如キモノヲ、信用組合其他ヲ通ジテ供給シテ居リマスガ、何レモ應急的、或ハ一時の性質ノモノデ、系統的ニ、農業生産者ヘノ金融ヲ行ッテ居ルモノデアナイノデアリマス、斯様ニ預金部ノ融資ヲ應急的ニ、バラ／＼ニ、隨時的ニ供給シナイデ、預金部ノ資金ヲ基礎ニシテ農業經營者本位ノ、恆常的ナ金融ノ途ヲ講ズベキデハナイカ、尤モ政府ハ農ニ農業動産信用

法ヲ制定シテ中期信用ノ途ヲ開イタ、併シ是トテモ亦十分デハナイ、政府ハ昭和二年カラ農村公益質屋ヲ獎勵シテ居ルケレドモ、其數モ少ク、而モ中ニハ之ヲ利用スベキ質物スラ無イヤウナ貧農ノ者モアリマシテ、成績ハ不振デアル、産業組合ニ於テ行ハレテ居リマス所ノ短期信用ニ至リマシテハ、前述ノ如ク極メテ貧弱デアリマス、而モ短期信用ノ缺如コソガ、貧農、小農ガ、高利貸ノ餌食トナラナケレバナラヌ原因ヲ成シテ居ルモノデアルト考ヘル、斯様ニ近代の金融機關ノ救ヒノ手ガ伸ビナイデ、不合理ナ金融機關ノ跋扈跳梁ニ委ネラレテ居ル結果ハ、如何ナル社會現象ヲ生シダカ、米ニ付テ申シマスナラバ、先物賣トシマシテノ所謂青田賣、黒田賣ガ行ハレマシテ、繭其他ニ付テモ同様ナコトガ行ハレテ居リマス、此青田賣ノ例ト致シマシテ、昭和九年新潟縣農會ガ調査シタ所ニ依リマススト云フト、青田賣ノ戸數ハ二千八百二十一戸中、自作農ガ一一・七%、自作兼小作人ハ三二・六%、小作人五五・七%ヲ占メテ居ルノデアリマス、又調査區域内ニ於ケル自作、小作別、農家戸數ニ對スル自作、小作別、青田賣ノ戸數ノパーセンテージヲ求ムレバ、自作ハ九・二%デアリ、自作兼小作人ハ九・七%デアリ、小作人ハ一六・六%ト、實ニ下層階級ホド斯様ニ無理ナ悲惨ナル金融ヲ爲サネバナラナイコトヲ示シテ居ルノデアリマス、而モ其目的ハ決シテ或ハ投機ノ爲メトカ、或ハ政治運動ノ爲メデアルトカ、斯様ナ贅澤ナモノデハアリマセヌ、生産資金ノ調達ノ爲メ、或ハ肥料購入ノ爲メ、或ハ負債償還ノ爲メ、或ハ租税納入ノ爲メト云フヤウナモノガ主ナモノデアル、其實先ノ如キハ、

米穀商、肥料商、金融業者等デアリマシテ、是等ノ者ハ甚シイ利益ヲ貪ッテ居ルノデアリマス、此調査ニ依リマス、青田金融ノ利率ガドノ位ニナルカト云フコトガ計算セラレテ居リマスガ、若シ農家ガ青田賣ヲセズシテ、十月中頃ニ庭先賣ヲ致シマシテ、其價格ノ差ヲ元金ニ對スル利子トシテ計算シテ見マス、元金ノ借入期、即チ賣買契約期ヲ八月初メトシマシテ、其償還期ヲ十月頃トシテ計算シテ見ルト、借入期間ハ二箇月半トナリマシテ、元金ニ對スル利率ハ一割四分、之ヲ年利率ニ計算致シマスナラバ、實ニ十六割八分、日歩ニ換算致シマスナラバ、四十六錢ト云フヤウナ驚クベキ數字ヲ、是等ノ貧シイ農民ガ支出致シテ居リマシテ、此不合理ナル金融ノ爲ニ惱マサレテ居ルノデアリマス、斯様ナ社會的現象ヲ排除スルコトガ、私ハ爲政者ノ今直チニ行ハナケレバナラス所ノ義務デアルト信ジマス、即チ農業中期信用ノ擴充ト共ニ、更ニ短期信用ニ付テ最モ力ヲ注イデ行カナケレバナラス、信用組合ヲ通ジマシテ低利ノ短期金融ヲ爲ス如キハ、農民ニ取リマシテ最モ必要ナモノデアリマシテ、斯様ナモノカラ先ヅ力ヲ注イデ、青田賣、黒田賣、特約組合ヤ高利貸ノ餌食ニナツテ居リマス所ノ、此悲惨ナル事實ヲ一掃シナケレバナラナイト思フノデアリマス、政府ハ單ニ舊債整理ノミデナク、斯クノ如ク新ニ積極的ナル耕作者本位ノ金融ノ途ヲ講ズル意思ハナイカ、是ガ私ノ最後ノ質問デアリマス、之ヲ以テ私ノ質問ヲ終リト致シマス(拍手)

(國務大臣山崎達之輔君登壇)

○國務大臣(山崎達之輔君) 黒田君ニ御答ヲ申上ゲマス、負債整理ニ付テ小農又ハ小

作農ガ最モ大事デハナイカト云フ御意見ハ、ソレハ其通りニ考ヘテ居ルノデアリマス、從來小農或ハ小作農ハ閉メ出シテ喰ッテ居ルト云フ御話デアリマスガ、私共ハサウデハナイト信ジテ居リマス、可ナリニ少額ノ負債ガ整理組合ニ依ッテ整理ヲサレテ居ルノデアリマス、尙ホ今回範圍ヲ擴大ハ致シマスケレドモ、先刻林平馬君ト最上君ニ御答ヲシテ置キマシタヤウニ、飽マデ小農或ハ小作農ノ負債ノ整理ニハ重點ヲ置イテ考ヘテ行クト云フ方針ハ、先刻申上ゲテアル通りデアリマスカラ、左様御承知ヲ願ヒマス、利率ノ引下、或ハ元金ノ切捨ト云フヤウナコトニ付テ、一定ノ標準ヲ考ヘタラバドウカト云フヤウナ御趣意ノヤウデアリマシタガ、是ハ御承知ノヤウニ地方々々ニ依ッテ種種ノ事情ノ相違ガアリマスカラ、之ヲ一律ニ政府デ或ル標準ヲ決メルト云フコトハ、如何ナモノデアアルカト思ヒマス、現ニ只今行ッテ居リマス負債整理組合ノ事業ヲ見マシテモ、相當程度ニ元金ノ切下トカ、或ハ利率ノ引下等ガ行ハレテ居ルノデアリマスカラ、之ヲドウモ政府デ一律ノ標準ヲ決メテ強要スルト云フ行キ方ハ、モウ少シ考慮ノ餘地ガアルノデハナイカト考ヘテ居ルノデアリマス

次ニ整理ノ對象デアリマスガ、是ハ黒田君ノ御述ニナリマシタヤウニ、最モ不合理ナ負債ノ整理ヲ急務トスル譯デアリマシテ、例ハバ高利債デアルトカ、或ハ頼母子講ノ滯リデアルトカ云フ、條件ノ非常ニ不都合ナ、不合理ナ、隨テ債務者ヲ非常ニ苦シメテ居ルト云フヤウナ種類ノ債務ノ整理ガ、先ヅ對象トシテ重キヲ置イテ考ヘテ行キタイト思フ點デアリマス

最後ニ小農ノ爲ニ特別ノ金融制度ト云フ御意見デアリマスガ、段々伺ヘバ必シモ新制度ノ意味デハナイヤウデアリマシタガ、ヤハリ制度トシテハ、現在ノ信用組合ノ制度ノ改善ヲ圖ッテ行ッテ、サウシテ出來ルダケ小農或ハ小作農ノ爲ニ、圓滑ナル金融ガ出來ルヤウナ風ニ考ヘテ行クトガ適當ト思フノデアリマシテ、是等ノ點ニ付テハ今後ニ於テモ十分ノ考慮ヲ拂ッテ行キタイト思ヒマス

○黒田壽男君 簡單デアリマスカラ、自席カラ……

○副議長(岡田忠彦君) 許シマス

○黒田壽男君 小農、貧農ノ負債ニ關シマシテ、農林大臣ハ小農、貧農ノ負債整理ト云フコトニハ、相當ニ重點ヲ置イテ居ルト云フヤウニ申サレテ居リマス、併ナガラ從來ト雖モ左様ナコトガ言ハレナカッタハ思ヒマセスケレドモ、其實踐ハ悉ク之ニ反シテ居ルヤウデアリマシテ、私ハ詳シクハ委員會デ論ジタイト思フノデアリマスケレドモ、唯一ツ例ヲ舉ゲレバ、此度ノ負債整理資金融通ノ徑路ヲ、政府ガ發表セラレテ居リマスノヲ見マシテモ、預金部融資ノ五億圓ガ市町村、負債整理組合、農山漁家ト云フ徑路ヲ通ッテ参リマスノガ一億圓、産業組合中央金庫ヲ通ジマシテ信用組合、負債整理組合、農山漁家、斯ウ云フ徑路ヲ通リ、或ハ産業組合中央金庫カラ信用組合ヲ通ジマシテ、直接ニ農家、漁家、或ハ山家ニ参リマスモノガ二億圓、融資銀行ヲ通ズルモノガ二億圓ト云フヤウニナツテ居リマシテ、之ヲ能ク調べテ見マス、融資銀行ハ固ヨリ是ハ土地擔保ノ方デアリマスシ、産業組合中央金庫ヲ通ズル方ノモノデ、土地擔保ノ方ニ廻サレル分ガ非常ニ多イノデ

アリマス、サウシマス、私ハヤハリ此度ノ負債整理資金融通ノ徑路ト云フモノヲ見マシテモ、依然トシテ私ノ主張シ叫ンデ居リマス所ノ小農、貧農ニ對スル方ノ融資ガ、其他ノ富農或ハ地主ニ融資セラレルモノニ比ベテ率ガ低イノデアリマス、是ハ私ガ曩ニ申シマシタ現在ノ負債總額ノ中ニ於テ、近代の金融機關ノ貸付額ノ割合ト、非近代の金融機關ノ貸付額ノ割合トヲ調ベテ見マス、寧ロ後者ノ方ガ多イ、借金ガ多イノニ融資ノ金額ハ少イ、斯様ナ矛盾シタ融資ノ方法ガ、ヤハリ此度モ執ラレヤウトスルト云フコトヲ私共ハ見ルノデアリマシテ、私ハ斯ウ云フ意味ニ於テ、決シテ農林大臣ガ仰セラレタコトニ満足スルコトガ出来マセヌ、本當ニ私ノ申シマスヤウナ意味ニ於ケル金融ヲ爲スクメニ、モット私ハ大キナ決意ヲ以テ方策ヲ樹テ貫ハナケレバナラスト思フノデアリマス、併シ是ハ委員會デ申述ベルコトニ致シマシテ、私ノ質問ハ是ニテ終リタイと思ヒマス（拍手）

○副議長（岡田忠彦君） 木村武雄君

〔木村武雄君登壇〕

○木村武雄君 前ノ質問者ガ試ミナカッタ二三ノ點ニ付テ質問ヲシテ見タイと思ウテ居リマス、此度ノ此組合法ガ、現在施行サレツ、アリマスル負債整理組合法ト異ナルノ要點ハ、二億萬圓ノ金額ガ五億萬圓ニ増額サレタルコトガ一ツデアリマス、有效期限ガ六年ヨリ十年ニ延期サレタルコトガ一ツデアリマス、償還期限ガ二十年ヨリ二十五年ニ延期サレタルコトガ一ツデアリマス、一戸當リノ融資金額ガ三千圓ニナツタコトガ一ツデアリマス、其次ガ損失補償金額ガ府縣ト市町村ニ輕ク、國家ニ重クナツタコトガ一ツデアリマス、其次ガ損失補償金額

トガ一ツデアリマス、其次ガ融資ノ主體ガ、現在マデハ大藏省ノ預金部ガデアリマシタガ、今度ハ産業組合中央金庫モ之ヲ行ヒ、有擔保デアリマスレバ、勸業銀行、農工銀行、拓殖銀行モ之ヲ行ヒ得ルヤウニナツタコトガ一ツデアリマス、是等ノ要點ヲ數ヘ上ガルコトガ出来マス、是ダケデモ現行法ニ比較致シマスルト數段ノ進歩デアリマシテ、是ハ農村ノ爲ニハ喜ブベキ現象デアラウト考ヘテ居リマス、併ナガナ果シテ是ダケノ改善ニ依ッテ、政府ガ宣傳ナシ、國家ガ期待ナシ、サウシテ渴望セル農民ノ渴ヲ癒シテ、此負債整理ト云フ大キナル國策ヲ遂行スルコトガ出来ルデアラウカドウカト云フコトハ、私大キナル疑問ト思ッテ居リマス、今日ノ農村ニ於ケル負債ハ六十億萬圓トモ言ハレ、過小農民ノ負債ダケデモ四十億萬圓トモ評價サレテ居リマス、其眞偽ハ別ト致シマシテ、此龐大ナル負債ガ多數ノ農民生活ヲ苦シメ、平和ナル農村ヲ破壊シテ、農村自治ノ根本ニ動搖ヲ與ヘツ、アルコトダケハ事實デアリマス、斯ウシタ農村ノ眞只中ニ、假令其金額ガ二億萬圓デアリマシテモ、農村ノ負債ヲ整理シテヤルンダと言ッテ、其金ヲ政府ガ投出シタ場合ニ於テハ、恰モ飢エタル狼ガ食ヲ貪ッデ骨マデ喰フガ如クニ、一瞬ニシテ解消シナケレバナラナイ金額デアリマス、所ガ昭和八年ノ八月一日ニ實施サレマシタ現行負債整理法ガ、約三年半ヲ經タル今日ニ於テ、政府ガ豫定致シマシタル金額ノ二億萬圓ノ十分ノ一ノ二千萬圓シカ融通サレテ居ナイ現状デアリマス、此原因ハ一體何處ニアルカ、過去三年半ノ足跡ニ照シマシテ、其歴史ニ顧ミマシテ、一體今回ノ此改正法律案ガ、ドノ點ヲ改正シタカ

ト云フコトニモ、私大キナル疑問ヲ持ッテ居リマス、此度ノ此法律案ガソレヲ改善シナカッタナラバ、私ハ當初ノ目的ヲ達スルコトガ出来ナイト考ヘテ居リマス、現行法規ガ未ダニ役人ノ手ニ握ラレテ居リマシテ、是ガ農民化サレナイ根本ノ理由ハ、手續ノ難カシイコトモ一ツノ原因デアリマセウ、法律ノ難解デアルコトモ一ツノ原因デアリマセウガ、強キ者ヲ取締ル法律ト、弱キ者ヲ守ッテヤルト云フ法律ノ缺ケテ居ルト云フコトガ、根本ノ問題デハナカラウカト私ハ考ヘテ居リマス、今日農村ノ中ニハ債權者ト債務者ガ同居致シテ居リマス、サウシテ債權者ハ農村ニ於ケル悉クノ公器ヲ獨占致シテ居リマス、市町村役場ト云ハズ、産業組合ト云ハズ、有ユル公共團體ガ皆是等ノ連中ニ依ッテ獨占サレテ居リマス、サウシテ彼等ハ此公器ニ立籠ッテ居ルノデアリマス、彼等ハ債權者ト云フ立場ニ立ッテ、己レノ債權ガ條件ノ緩和ニ遭ヒマシテ整理サレルコトヲ喜ンデ居リマセヌ、此氣持ガ負債整理法ト云フ根本ノ此法律ヲ曲解致シマシテ、此負債整理法ヲ一ツノ「モラトリアム」ト感違ヒシテ之ヲ排斥シ、之ヲ非難致シテ居リマス、ソレダケデハアリマセヌ、此運動ヲ行フ者ヲ曲解致シマシテ、恰モ共產主義デモ行ッテ居ルガ如クニ感違ヒ致シマシテ、極度ノ彈壓ヲ與ヘツ、アル現状デアリマス、之ヲ訂正シテヤラナカッタナラバ、本當ニ此負債整理法ノ根本目的ヲ達成スルコトガ出来ナカラウト考ヘテ居リマス、此公器ノ中ニ立籠ッテ居リマスル是等ノ地方ニ於ケル財閥ノ連中ニ、法律ノ根本精神ト云フモノヲ徹底セシメマシテ、國家ノ公器ヲ悉ク總動員スルコトガ、最モ緊急ナ

ル要件デアリマス、要ハ政府ガ是等ノ債權者ニ向ッテ、是等ノ公器ヲ獨占シテ居ル人々ニ向ッテ、此法律ノ根本精神ヲ諒解セシメル必要ガアリマス、サウシテ彼等ガ尙且ツ諒解シナイデ、此運動ニ向ッテ彈壓ヲ加ヘマシタナラバ、國法ヲ遵奉セザル一種ノ犯罪者トシテ、之ヲ取締ルト云フ決心ガナカッタナラバ、此所期ノ目的ハ達成スルコトガ出来ナカラウト私ハ考ヘテ居リマス、之ニ對シマシテ農林大臣ハドウ云フ氣持ヲ持ッテオ居デナリマスルカ

更ニ内務大臣ガオ出デニナリマスガ、内務大臣ニモ此點ニ付テ御伺申上ゲタイト思ッテ居リマス、此強キ者ヲ取締ル明文ヲ缺イテ居リマスルガ爲ニ、今日農村ニハ澤山ノ悲劇ヲ演出致シテ居リマス、負債整理ハ國策デアリマス、故ニ此負債整理組合運動ハ國策ヲ遵奉スル尊イ運動デアリマス、各府縣ニ於キマスル經濟更生ノ運動ニ依リマシテ、過小農民ガ此運動ニ參加致シテ居リマス、國家ノ聲ニ和シテ立上ツタル此過小農民ニ對シテハ、債權者ハ恰モ債權ノ如クニ彼等ヲイデメテ居リマス、此運動ヲ起シマスルト、是等ノ債權者ノ連中ガ債務ノ履行ヲ迫リマス、内容證明ヲ突付ケマス、差押ヲ行ヒマス、強制競賣ヲ行ヒマス、其他土地ノ取上、家屋ノ立退、有ユル手段方法ヲ講ジテ、此運動ヲ起ス者ニ極端ナル彈壓ヲ加ヘテ居ルノデアリマス、此ヤウニ大キナ國家ノ目的ヲ達成ショウト國家ガ考ヘマシタ以上ハ、相當ノ迫害ガアルコトハ豫期シテ居ナケレバナラナカッタ筈デアリマス、所ガ現行法規ハ之ヲ全然等閑ニ付シテ居リマス、併ナガラ過去三年半ノ足跡ガ、其必要ヲ痛切ニ政府ニ懇ヘタコトデアラウト考ヘテ居リマス、此提案サレマシ

タ此度ノ法律案ガ、ソレヲ織込デアルカ
ト申シマス、殆ド織込デハ居リマセ
ヌ、織込マナイデ之ヲ其儘實施シマシタ
場合ニ於テハ、再ビ過小農民ガ債權者ノ爲
ニ苦シメラレナケレバナリ結果ニ陷ッテ
シマヒマス、私ハドウシテモ此可憐ナル國
策違奉者ト云フモノヲ擁護シテヤル法律ノ
必要ヲ力説シテ止マナイノデアリマス、此
點ニ付キマシテ農林大臣ガドウ云フ氣持ヲ
持ッテオ居デニナリマスルカ、内務大臣ニモ
御伺申上ゲマス、ソレカラ負債整理ト云フ
國策遂行ノ上ニ横ヘラレマシタ所ノ行政上
ノ大キナ矛盾ガアリマス、今日負債整理組
合運動ヲ擔當致シテ居リマスルノハ、府縣
ニ於キマスル經濟更生課デアリマス、經濟更
生課ハ經濟更生課本來ノ使命ニ鑑ミマシテ、
極力之ヲ宣傳ヲ爲シ、其運動ノ擴大サレル
コト、發展サレルコトヲ喜ンデ居リマスガ、
其運動ニ依リマシテ過小農民ガ立ッテ居
リマス、現在ノ農村ヲ見渡シマシテ、窮乏
セル農民ノ生活ハ府縣稅、市町村稅ノ滯納、
サウ云フヤウナモノヲ不可避ノ狀態ニ落込
ンデ居ルノデアリマス、故ニ滯納ノナイ村
ガ必シモ農民ノ生活ガ裕福デアルト申スコ
トハ出來ナイ、滯納ノアル村ガ必シモ農民
ノ生活ガ苦シトハ、判然ト區別ガ付カナ
イノデアリマス、寧ロソレニ逆比例スル幾
多ノ事實ガ農村ニ横ハッテ居リマス、併ナガ
ラ府縣ハ滯納ナキ村ヲ優良農村トシテ表彰
致シテ居リマス、其優良農村トシテ表彰サ
レマシタ農村ノ狀態ヲ仔細ニ調べテ見マス
ルト、主ニ町村當局ハ地方ニ於ケル財閥ニ
依ッテ獨占サレテ居リマス、彼等ハ滯納ガア
リマスルト、勢ヒ持テル者ニ戸數割ガ轉嫁
サレマスル關係上、極力滯納整理ヲ行ッテ居

リマス、其範圍ヲ飛越エマシテ滯納狩ヲ
ヤッテ居リマス、苛斂誅求ヲヤッテ居リマス、
其爲ニ斯ウ云フ農村ニ於ケル農民個人々々
ノ生活ト云フモノハ、非常ニ苦シイ生活狀
態ヲ送ッテ居ルノデアリマス、所ガ是ガ滯納
ガナイカラシテ、役人ニハ上ノ方ニ眼ガ
アッテ、下ノ方ニハ眼ガナイカラシテ、上ノ
方カラ見て滯納ガナケレバ、此村ハ立派ナ村
デアルト云フコトデ、之ヲ表彰致シテ居リマ
ス、府縣當局ハ斯ウ云フ村ノ負債整理ノ起上
ルコトヲ喜ビ、サウ云フ村ニ融通シテヤル
ト云フ氣持ヲ以メカシテオ居デニナルノデ
アリマス、滯納アル村ノ町村當局ト農民ノ
關係ハ、斯ウ云フ村ヨリモ比較的融和ガ取
レテ居リマス、所ガ府縣當局ノ氣持ヲ農民
ノ人々ガ察知致シマシテ、府縣ノ氣持ガサ
ウ云フ氣持デアアルナラバト云フ立場カラ、
只管ニ自分ノ負債ヲ整理シテ見タイト云フ
氣持ニ立チマシテ、先ヅ自分ノ村ニアリマ
スル滯納ヲ完納致シマス、四苦八苦シテ稅
金ヲ納メマス、サウシテ町村役場ノ同意ヲ
得テ、組合ノ認可申請書ヲ府縣ニ提出致シ
マス、之ヲ受取ッテ府縣ハ過去數年間ノ足跡
ニ照シマシテ、中々ニ負債整理組合ノ設立
ハ認可致シマセヌ、辛ウジテ認可致シマシ
テモ、今度ハ資金難ト云フ大キナ問題ニ打
突ッテ參リマス、其資金問題ヲ取扱ッテ居リ
マスルノガ、同ジ府縣内ニ於キマスル地方
課デアリマス、地方課ノ立場ト、經濟更生課
ノ立場トハ全然反對デアリマス、組合ノ設
立ヲ彼等ハ喜ンデ居リマセヌ、勿論融資ヲ
モ喜ンデ居リマセヌ、其爲ニ經濟更生課ガ
認可致シマシタ其組合ノ中カラ、有資格者
トシテ選バレマスルモノハ極ク少數ノ組合
デアリマス、最後ノ土壇場ニ農民ガ陷リマ

シテ極度ノ苦シミヲ嘗メテ居リマス、先ヅ
滯納ヲ整理シテ、税金ヲ納メテシマッテ、ソ
レカラ澤山ノ日數ヲ費シテ來タ、ソレカラ
莫大ナル費用ヲ使ッテ參ッテ、負債整理運動
ノ爲ニ使ッテ其金額ノ大キイコト驚クニ堪
ヘタルモノガアリマス、私達ハ此現狀ヲ見
マシタ時ニ、此行政上ニ於ケル矛盾ト云フ
モノハ、ドウシテモ解決シテヤラナケレバ
ナラナイト云フコトヲ痛切ニ考ヘテ居リマ
ス、サウシテ負債整理組合運動ノ足跡ヲ見
マスルト、負債整理組合運動ガ逆ニ負債ヲ
増額セシメテ、終末ヲ告ゲタト云フ幾多ノ
事實ガアルノデアリマス、斯ウシタ根本ノ
農民ニ對スル苦シミガ何處ニ横ヘッテ居ル
カト申シマスレバ、行政上ニ於ケル矛盾デ
アリマス、同ジ行政系統内ニアリマスル經
濟更生課ト、地方課ト云フモノガ對立致シ
テ居リマシテ、農民ニ運動ノ氣持ト云フモ
ノヲ教ヘテ居リマセヌ、農民ハ其爲ニ經濟
更生課ト地方課ト云フモノヲ往復致シマシ
テ、澤山ノ日數ヲ費シ、莫大ノ金ヲ使ッテ居
リマス、其一例ト致シマシテ、私山形縣ノ
西村山郡ニ起上リマシタ所ノ負債整理組合
運動ノ内容ヲ御紹介申上ゲマス、山元村ト
云フ所デハ、設立費用ト致シマシテ三百七
十圓使ッテ居リマス、一人當リガ九圓デアリ
マス、ソレカラ本郷村ト云フ所デハ、驚ク
勿レ設立費用ハ五千五百圓使ッテ居リマス、
ソレカラ西山村デハ設立費用ト致シマシテ
四千圓使ッテ居リマス、ソレカラ川土居村デ
ハ設立費用ト致シマシテ千五百圓ヲ費シテ
居リマス、ソレカラ七軒村デハ一千圓ヲ費
シテ居リマス、ソレカラ西五百川村デハ三
千圓ヲ費シテ居リマス、左澤町デハ二千圓ヲ
ソレカラ白岩町デハ千五百圓ヲ使ッテ居リ

マシテ、是ダケノ莫大ナル運動費用ヲ使ッテ
居リナガラ、未ダニ組合ノ認可モ出來ズ、
未ダニ融資ノ決定モ決ッテ居リマセヌ、是ハ
行政ガ極度ニ矛盾ヲ致シマシタ結果、澤山
ノ農民ヲ其歸趨ニ迷ハシメタ根本原因デハ
ナカラウカト私ハ考ヘテ居リマス、此行政
上ニ於ケル根本的ナル矛盾ヲ農林當局ハ如
何ニ是正サレマスカ、之ヲ如何ニ是正シテ
臨マント致シテオ居デニナリマスルカ、農
林大臣ニ御伺申上ゲタイ、是モ内務大臣ニ
御伺申上ゲタイノデアリマス
其次ハ行政上ニ於ケル便宜主義ノ氣持ハ
棄テテ貫ヒタイト云フコトデアリマス、自
分ノ都合ノ好イ時ニハ何カ仕出カサウト致
シマシテ、自分ノ都合ノ惡イ時ニハ素知ラヌ
振ヲスルト云フ氣持ヲ棄テテ貫ヒタイ、是デ
ナカッタナラバ、私ハ本當ノ仕事ハ絕對ニ出
來ナカラウト考ヘテ居リマス、現在負債整理
組合運動ヲ擔當致シテ居リマスルノガ府縣
デアリマス、サウシテ府縣ガ是ナリト認メ
マシタ其組合ニ向ッテ、融資ヲ決定致シテ居
リマスルノガ大藏省ノ預金部デアリマス、
所ガ大藏省預金部ノ態度ト云フモノ
ハ、恰モ高利貸ノ態度デアリマス、檢査ハ
嚴重ト云フコトヨリモ苛烈ヲ極メテ居リマ
ス、深刻ナル檢査ヲ行ッテ居リマス、其爲ニ
何「パーセント」シカ選バレズニ、當初ノ目
的ヲ達成スルコトガ出來ナイヤウナ、悲惨
ナ狀態ニ立至ッテ居ルノデアリマス、私ハ日
常農村ニ接觸ヲナシ、日常農民ヲ指導致シ
テ居リマスル府縣ガ、是ナリト認メテ認可
シタル其組合ニ向ッテハ、大藏省預金部ガ當
然ニ金ヲ融通スベシト云フコトヲ主張致ス
ノデアリマス、サウデナカッタナラバ、本
當ノ負債整理ト云フ根本目的ヲ達成スルコ

トガ出来ナイト云フコトヲ申上ゲマス、ソ
レニ付キマシテ農林大臣ハドウ云フ御考ヲ
持テオ居デニナリマスカ

ソレカラ信用組合ガ今度ハ負債整理組合
運動ニ参加スルヤウニナリマシタガ、是モ
運用如何ニ依リマシテハ、立派ナ仕事ヲス
ルコトガ出来ルカモ知レマセヌ、間違タ仕
事ヲ致スカモ知レマセヌ、今日ノ信用組
合ノ内容ヲ見渡シマシテ、果シテ負債整理
ト云フ、此大キナル國策ヲ擔當スルダケノ
資格ノアル信用組合ガ一體幾ラアルカ、(ヒ
ヤヒヤ)是ガ私ハ大キナ問題ダラウト考ヘ
テ居リマス、曾テ政黨ガ華カデアッタ當時ニ
喰ヒ散ラカサレマシテ、本當ノ資格アル信
用組合ト云フモノハ、少ナカラウ、ソレヲ
先ヅ改メテヤルト云フコトガ必要デアラウ
ト考ヘテ居リマス

其次ハ便宜主義ノ爲ニ信用組合ト云フモ
ノヲ利用スルナ、自分ノ都合ノ好イ時ニ信
用組合ト云フモノヲ利用スルナ、其大キナ
ル例ハ、去年ノ特別議會ノ結果設立サレマ
シタル東北振興ニ關スル兩大會社ニソレヲ
見ルコトガ出来マス、生新シキ實例ガ茲ニ
横ハッテ居ルノデアリマス、諸君等モ御
承知デアリマセウ、諸君等ノ御蔭ニ依リ
マシテ、東北振興ノ名ニ依リマシテ兩大
會社ガ設立サレタノデアリマス、今日ノ東
北ガ疲弊困憊ノ窮極ニアル、ソレヲ救ツテヤ
ルンダ、東北ノ農民ガ貧乏シテ居ル、ソレ
ヲ救ツテヤルンダト云フ名目デ、東北振興ノ
兩大會社ガ設立サレマシタ、其株ノ應募ノ
仕方ハ、全然之ヲ東北ノ農民ニ向ッテ求メテ
居リマス、其求メ方モ信用組合ニ向ッテ強制
的ニ負擔セシメテ居リマス、縣廳所在地ノ
一堂ニ信用組合ノ幹部ヲ集メマシテ、政府

ガ強制的ニ是等ノ人々ニ向ッテ、株式ノ假契
約ヲ行ハシメテ居リマス、是ハ明ニ組合法
違反デアリマス、組合法ニ依リマスルト、
斯ウ云フ契約ヲ行フ場合ニハ、組合ノ總會
ヲ開イテ行フベシト云フコトガ明記サレテ
アリマスルガ、縣廳所在地ニ一同ヲ集メマ
シテ、其處デ強制的ニ假契約ヲ行ハシメ
テ、東北カラ集メマシタ金額ガ驚ク勿レ九
百萬圓以上デアリマス、無理ヤリニ集メマ
シタル其株ガ現在ドウナッテ居リマスカ、十
二圓五十錢ノ拂込ノ株ガ、驚ク勿レ暴落致
シマシテ六圓デアリマス——驚ク勿レ暴落
致シテ六圓デアリマス、澤山ノ株ハ上ッテ居
ルニモ拘ラズ、東北振興ノ名ニ依ッテ設立サ
レマシタル此會社ノ株ガ、獨リ慘落致シマ
シテ、六圓ト云フ此暴落振リデアリマス、
斯ウ云フヤウナ無慈悲ナコトヲ行政ガ公然
ト行ッテ居ル、東北ニハ金ガナイ、信用組合
ダケガ唯一ノ金融機關デアリマス、而モ其
信用組合ニ集ツタル零細ナル金、沙漠ニ於ケ
ル「オアシス」ニモ匹敵スルヤウナ此貴い金、
此金ヲ行政ノ力ニ依ッテ皆集メマシテ、強制
的ニ株ヲ買ハセテ、其株ガ驚ク勿レ半額ノ
六圓デアリマス、斯ウ云フヤウナコトヲ政
府ガ平然ト行ッテ居ル、恬然ト行ッテ居リマ
ス、何ガ一體東北振興デアリマス、何ガ一
體東北救済デアリマスカ、而モ斯ウシ
タ東北民ノ窮乏、東北民ノ戦々兢兢タル氣
持ヲ餘所ニ、東北振興會社ノ或者ハ年收
五萬圓ヲ取ッテ居ルト言ハレテ居リマス、
或者ハ三萬圓ヲ取ッテ居ルト言ハレテ居リ
マス、仕事ヲ一ツモシナイデ、去年ハ「ボー
ナス」ヲ取ッテ居ルト言ハレテ居リマス、
此様ナ筭棒ナコトガ公然ト行ハレテ居ッテ、
一體此信用組合ニ向ッテ國策ヲ擔當セヨト

云フヤウナコトハ、少シ無理デハナカラウ
カト云フコトヲ私ハ考ヘテ居ルノデアリマ
ス(拍手)此様ナ便宜主義ノ精神ダケハ、政
府ニ是カラ慎シデ貫ヒタイト云フコトヲ申
上ゲマス、ソレニ付キマシテ農林大臣ト内
務大臣、特ニ内務大臣ニモ御伺申上ゲマス
ルガ、ドウ云フヤウナ方法ニ依ッテ、此苦シ
ンデ居リマス東北ノ農民、信用組合ノ幹
部ノ人々、斯ウ云フヤウナ者ヲ救済シ、安
堵セシメテヤラウト云フ氣持ヲ有ッテオ居
デニナリマスルカ、御伺申上ゲマス

第四番目ニ御伺申上ゲタイノハ、負債整
理ハ國策デアリマス、而モ債權者ニ向ッテ
條件ノ緩和ヲ求メルコトガ宜イト云フコト
ヲ、前提ト致シマシタ國策デアリマス、所
ガ民間ノ債權ニ向ッテハ、條件ノ緩和ヲ求メ
ルコトガ出来マスガ、金融會社ノ債權ニ向ッ
テハ、經濟機構ヲ害スルト云フヤウナ名目
ノ下ニ、之ヲ行フコトヲ禁止セラレテ居リ
マス、今日農村ニ於キマシテ、本當ニ農村
破壊ノ行動、個人々々ノ農民ノ生活ヲ破壊
シテ居リマスノハ、個人デハナクシテ金融
會社デアリマス(ヒヤ)勸業銀行デア
リ、農工銀行デアリ、拓殖銀行デアリ、地
方ニ於ケル金融會社デアリ、無盡會社デア
リマス、是ハ斯ウ云フ法規ガアリマスルカ
ラ、其法規ノ内ニ立籠ッテ、斯ウ云フヤウナ
方法ヲ行ッテ居リマス、ソレガ民間ノ債權者
ニモ反映致シマシテ、本當ノ負債整理組合
運動ト云フモノガ行ハレナイノデアリマス、
私ハ政府ガ本當ニ農村ノ負債ヲ整理シテヤ
ルンダト云フ御精神デアリマシタナラバ、
政府ガ監督致シテ居リマス其金融會社ノ元
金ヲ先ヅ負ケテヤル、三分ノ一デモ宜シイ、
五分ノ一デモ宜シイガ、政府ノ決意ト云フ

モノヲ示シテヤル、現在勸業銀行ノヤウナ
モノハ莫大ナル利益ヲ既ニ擧ゲ盡シテ居リ
マス、勸業銀行ノ債券ガ「プレミアム」附デ
賣レテ居リマスガ、ソレガ賣レル度毎ニ、
私農民ノ皮ヲ剥ガレ、肉ガ薄レテ行クンデ
ヤナカラウカト考ヘテ居ル(拍手)今日此勸
業銀行ハ、ドウ云フヤウナ恐慌ノ時ニモ、
一割以上ノ配當ヲ缺カシタコトガアリマセ
ヌ、其一割以上ノ配當ガ行ハレル度毎ニ、
私ハ何千戸、何万戸ノ農家ト云フモノガ、
潰レテ行ッテ居ルンデヤナカラウカト云フ
コトヲ考ヘテ居リマス、本當ニ政府ガ此負
債整理ヲシテヤルンダト云フ氣持ガアツタ
ナラバ、取敢ズ政府ガ關係シテ居リマス此
金融會社ノ元金ト云フモノヲ何分カ負ケテ
ヤル、棒引シテヤル、其決意ヲ農林大臣ガ
示ス氣持ヲ持ッテ居ルカドウカ、其氣持ヲ農
林大臣ガ御持チニナラナイ、政府ガ御持チ
ニナラナイデ、此負債整理運動ヲ行フコト
ニナツタナラバ、私當初ノ目的ヲ達スルコト
ハ出来ナカラウト考ヘテ居リマス、此四點
ニ付テ農林大臣ト内務大臣ノ御答辯ヲ煩ハ
シタイト考ヘテ居リマス(拍手)

○國務大臣(山崎達之輔君) 木村君ニ御答
致シマス、木村君ノ第一ノ御問ハ、負債整
理ハ國策デアアルカラ、負債整理ノ相談ニ應
ゼザル者ニ對シテ、取締的ノ彈壓的ノ規定
ガアルベキモノデヤナイカ、斯ウ云フヤウ
ナ御趣意デアツタヤウデアリマスガ、ソレハ
私共ノ考トハ違フノデアリマス、此負債整
理ノ事業ニ刑罰法規ヲ以テ、彈壓的規定ヲ
設ケルト云フヤウナ考ハ、持ッテ居ラスノデ
アリマス

第二ハ手續ノ問題デアリマスガ、手續ガ

官報號外 昭和十二年三月二十三日 衆議院議事速記第二十八號 農村負債整理資金特別融通及損失補償法案 第一讀會 七四三

煩瑣デアルカラ、之ヲ簡略ニスルコトハ、負債整理事業ノ促進上非常ニ必要デアリマシテ、其點ニハ種々苦心ヲ致シタ點デアリマスガ、今回ハ相當程度ニ手續ヲ簡略ニ致スコトガ出來ル積リデアリマス、詳細ハ委員會デ申上ゲタガ便宜デアルト思ヒマスカラ、左様御承知ヲ願ヒマス

ソレカラ更生課ト地方課ノ云々ト云フコトデアリマスガ、能ク役所ノ内部デ課ガ違フトカ、局ガ違フトカ云フコトデ、色々手續ノ面倒ヲ増スコトハ、ヨクアルコトデアリマスガ、是ハ努メテ左様ナ弊ヲ除クヤウニ、注意ヲ致シテ行クベキデアリマシテ、恐ラク内務大臣ニ於テモサウ考ヘテ居ラレルコトデアラウト思ヒマス

ソレカラ預金部ノ方ノ態度デアリマスガ、是ハ御話ノヤウニ、是マデマダ其仕事ガ馴レナイ關係モアリマシタデアラウト思ヒマスガ、可ナリ面倒デアツクヤウデアリマス、併シ段々ト習熟スルニ從ヒマシテ、預金部貸出ノ手續等モ、可ナリ簡便ニナツテ行ク積リデアリマシ、尙ホ此事ハ今後一層努力ヲスル考デアリマス

ソレカラ東北地方ノ信用組合ニ付テノ御話デアリマシタガ、東北地方ニ對シマシテハ、先刻林君ニ御答致シマシタヤウニ、政府トシテハ諸般ノ關係ニ於テ、特別ノ考慮ヲ加ヘテ居ル積リデアリマス、固ヨリ未ダ足ラザル點ハ免レヌカモ知レマセヌガ、漸次サウ云フヤウナ足ラザル點ヲ補フヤウニ進シデ参リタイト思ヒマス

最後ニ金融機關ノ關係デアリマスガ、是ハ例ヘバ勸業銀行デアルトカ、農工銀行等ノ、自分ノ貸シテ居ル金ノ滞ツタモノニ付テ、負債整理ヲスルヤウナ場合ニ付テ、或

ル條件ヲ考ヘテ居ル譯デアリマスガ、其點モ具體的ニ委員會デ申上ゲマシタ方ガ徹底スルデアラウト思ヒマスカラ、ドウゾ左様御承知ヲ願ツテ置キタイト思ヒマス

(國務大臣河原田稼吉君登壇)

○國務大臣(河原田稼吉君) 只今農林大臣カラ述ベラレマシタ通り存ジマス、尙ホ地方廳ニ於ケル課ト課ノ連絡統合ニ付キマシテハ、私共ノ方カラモ能ク地方長官等ニ注意ヲ致シマシテ、其間ニソツノナイヤウニ致シタイト思ヒマス

○木村武雄君 簡單デアリマスカラ此席カラ御許ヲ願ヒマス

○副議長(岡田忠彦君) 許可シマス

○木村武雄君 私人申上ゲマシタノハ、現在負債整理組合運動ヲ行ツテ居リマス農民ノ人々ガ、債權者カラ非常ニ苦シメラレテ居ルノデアリマス、其組合運動ヲ起サナカッタナラバ、或ハ差押トカ、或ハ強制競賣ノヤウナモノヲ受ケナカッタノデアリマス、起シタバカリニ、サウ云フ農民ガ非常ニ苦シデ居ルノデアリマス、ソレ等ノ人々ヲ行政ガ救ツテヤルト云フ必要ガ當然アルノデハナイカ、現在苦シ紛レニ府縣當局ヲ訪問致シマシテ、其話ヲ致シマシテモ、ソレハ致方ガナシト云ツテ彼等ヲ追歸シテ居リマス、警察ノ人々ニ御絶リ致シマシテモ、警察官ハ逆ニ是等ノ農民ヲ叱ケテ居リマス、サウ云フヤウナ國策遂行ノ上ニ横ヘラレタル所ノ、此可憐ナル農民ト云フモノヲ、何トカシテ救済シテヤル、是ガ私ガ農林大臣ニ御伺シタ點デアリマスルガ、他ノ總テノ問題ニ付キマシテハ、委員會ニ於テ質問シタイト思ツテ居リマスカラシテ、是デ私ノ質問ヲ打切りタイト思ヒマス

○副議長(岡田忠彦君) 本案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ニ付テ御諮リ致シマス

○中山福藏君 本案ハ議長指名十八名ノ委員ニ付セラレンコトヲ望ミマス

○副議長(岡田忠彦君) 只今ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

(異議ナシト呼フ者アリ)

○副議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマス、仍デ動議ノ如ク決シマシタ

○中山福藏君 議事日程變更ノ緊急動議ヲ提出致シマス、即チ此際政府提出、地方鐵道補助法中改正法律案、橫莊鐵道株式會社所屬鐵道外三鐵道買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案、大正九年法律第五十六號中改正法律案ノ三案ヲ一括議題ト爲シ、委員長ノ報告ヲ求メ、其審議ヲ進メラレンコトヲ望ミマス

(贊成ト呼フ者アリ)

○副議長(岡田忠彦君) 只今ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

(異議ナシト呼フ者アリ)

○副議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマス、仍デ日程ハ變更セラレマシタ、地方鐵道補助法中改正法律案、橫莊鐵道株式會社所屬鐵道外三鐵道買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案、大正九年法律第五十六號中改正法律案、右三案ヲ一括シテ第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマス、委員長清瀨規矩君

地方鐵道補助法中改正法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)

橫莊鐵道株式會社所屬鐵道外三鐵道買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

大正九年法律第五十六號中改正法律案(北海道拓殖鐵道補助ニ關スル件)(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一地方鐵道補助法中改正法律案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十二年三月二十二日

委員長 清瀨規矩雄

衆議院議長富田幸次郎殿

報告書

一橫莊鐵道株式會社所屬鐵道外三鐵道買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十二年三月二十二日

委員長 清瀨規矩雄

衆議院議長富田幸次郎殿

地方鐵道補助法中改正法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)

橫莊鐵道株式會社所屬鐵道外三鐵道買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

大正九年法律第五十六號中改正法律案(北海道拓殖鐵道補助ニ關スル件)(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一地方鐵道補助法中改正法律案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十二年三月二十二日

委員長 清瀨規矩雄

衆議院議長富田幸次郎殿

報告書

一橫莊鐵道株式會社所屬鐵道外三鐵道買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十二年三月二十二日

委員長 清瀨規矩雄

衆議院議長富田幸次郎殿

〔清瀨規矩雄君登壇〕

○清瀨規矩雄君 只今御上程ニナリマシタ
地方鐵道補助法中改正法律案、橫莊鐵道株
式會社所屬鐵道外三鐵道買收ノ爲公債發行
ニ關スル法律案、大正九年法律第五十六號
中改正法律案、此三案ノ委員會ノ經過竝ニ
結果ヲ簡單ニ御報告申上ゲマス、先ヅ地方
鐵道補助法中改正法律案ノ經過竝ニ結果カ
ヲ御報告申上ゲマス、本案ニハ三ツノ重點
ガアルノデアリマス、第一ハ現行法ニ依リ
マスルト云フト、昭和十二年一月一日以後
ニ開業致シマシタル線路ニ對シテハ、補助
ヲ致サナイト云フコトニナツテ居ルノヲ、改
メテ五箇年間補助ヲ始メルト云フコトガ一
ツデアリマス、第二點ハ現行法ニ依リマス
ルト云フト、配當ノ五朱ニ達スルマデハ補
助ヲ致スト云フコトデアッタモノヲ、金利ノ
低下其他ノ理由ニ依リマシテ、之ヲ大約四
分ニ止メルト云フノガ第二點デアリマス、
第三點ハ從來ハ唯五分ニ達スルモノヲ一率
ニ補助致スト云フヤウナ計畫デアッタノヲ、
此度ハ運輸數量ノ大小ニ從ツテ補助金ニ差
別ヲ付ケルト云フ、新ナ基準ノ下ニ補助ヲ
致シタイ、是ガ第三點デアリマス、委員會
ハ慎重審議致シマシタ結果、本案ヲ必要ナ
リト認メテ可決致シタノデアリマス
次ニ橫莊鐵道外三鐵道ノ買收デアリマス
ルガ、是ハ橫莊鐵道ヲ五十七萬圓、信濃
鐵道ヲ二百六十七萬圓、藝備鐵道ヲ六百二
十三萬圓、北九州鐵道ヲ六百五十六萬圓デ
買收スルト云フコトデアリマシテ、略、當
事者ト話合モ付イテ居ル様子デアアルノデア
リマス、現在ノ鐵道運營上必要ナリト認メ
マシテ、委員會ハ全會一致之ヲ可決致シタ
ノデアリマス

次ニ大正九年法律第五十六號中改正法律

案、北海道拓殖鐵道補助ニ關スル件デアリ
マスガ、是亦從來十五年間ノ補助ヲ致シ、
既ニ年期ガ參リマシタノデ、其補助ヲ致ス
コトガ出來ナイヤウニナツタ、之ヲ五箇年間
尙ホ補助ヲ繼續致シタイト云フコトデアリ
マシテ、其補助率モ亦鐵道本省ノ例ニ倣ヒ
マシテ、從來ノ利率ヨリモ聊カ引下ゲルト
云フコトデ、委員會ハ其必要ヲ認メマシ
テ、全會一致可決致シタ次第デアリマス、
委員會ノ經過ハ甚ダ大略デアリマスガ、是
ダケ御報告申上ゲマス(拍手)

○副議長(岡田忠彦君) 三案ノ第二讀會ヲ
開クニ御異議アリマセスカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メ
マス、仍テ三案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマ
シタ

○中山福藏君 直チニ三案ノ第二讀會ヲ開
キ、第三讀會ヲ省略シテ委員長報告通り可
決セラレンコトヲ望ミマス

○副議長(岡田忠彦君) 只今ノ動議ニ御異
議アリマセスカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メ
マス、仍テ直チニ三案ノ第二讀會ヲ開キ、
議案全部ヲ議題ト致シマス

地方鐵道補助法中改正法律案
第二讀會(確定議)

橫莊鐵道株式會社所屬鐵道外三鐵道買
收ノ爲公債發行ニ關スル法律案
第二讀會(確定議)

大正九年法律第五十六號中改正法律案
(北海道拓殖鐵道補助ニ關スル件)
第二讀會(確定議)

第二讀會(確定議)

第一條 本法ニ於テ防空ト稱スルハ戰時
又ハ事變ニ際シ航空機ノ來襲ニ因リ生
ズベキ危害ヲ防止シ又ハ之ニ因ル被害
ヲ輕減スル爲陸海軍ノ行フ防衛ニ則應
シテ陸海軍以外ノ者ノ行フ燈火管制、
消防、防毒、避難及救護竝ニ此等ニ關
シ必要ナル監視、通信及警報ヲ、防空
計畫ト稱スルハ防空ノ實施及之ニ關シ
必要ナル設備又ハ資材ノ整備ニ關スル
計畫ヲ謂フ

第二條 防空計畫ハ勅令ノ定ムル所ニ依
リ地方長官(東京府ニ在リテハ警視總
監ヲ含ム以下之ニ同ジ)又ハ地方長官
ノ指定スル市町村長防空委員會ノ意見
ヲ徵シ之ヲ設定シ主務大臣又ハ地方長
官ノ認可ヲ受クベシ

第三條 主務大臣ハ勅令ノ定ムル所ニ依
リ規模大ナル事業又ハ施設ニシテ防空
上特ニ必要アルモノニ付行政廳ニ非ザ
ル者ヲ指定シテ防空計畫ヲ設定セシム
ルコトヲ得

前項ノ防空計畫ハ主務大臣ノ認可ヲ受
クベシ

第四條 防空計畫ノ設定者ハ其ノ防空計
畫ニ基キ防空ヲ實施シ又ハ防空ノ實施

ニ關シ必要ナル設備若ハ資材ノ整備ヲ
爲スベシ

第五條 地方長官ハ勅令ノ定ムル所ニ依
リ防空計畫ニ基キ特殊施設ノ管理者又
ハ所有者ヲシテ防空ノ實施ニ關シ必要
ナル設備若ハ資材ノ整備ヲ爲サシメ又
ハ防空ノ實施ニ際シ必要ナル設備若ハ
資材ヲ供用セシムルコトヲ得

第六條 地方長官ハ勅令ノ定ムル所ニ依
リ特殊技能ヲ有スル者ヲシテ防毒、救
護其ノ他防空ノ實施ニ從事セシムルコ
トヲ得

第三條第一項ノ規定ニ依ル防空計畫ノ
設定者ハ其ノ從業者ヲシテ防空ノ實施
ニ從事セシムルコトヲ得

第七條 防空ノ實施ノ開始及終止ニ關シ
必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八條 燈火管制ヲ實施スル場合ニ於テ
ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ實施區域
内ニ於ケル光ヲ發スル設備又ハ裝置ノ
管理者又ハ之ニ準ズベキ者ハ他ノ法令
ノ規定ニ拘ラズ其ノ光ヲ祕匿スベシ

第九條 防空ノ實施ニ際シ緊急ノ必要ア
ルトキハ地方長官又ハ市町村長ハ他人
ノ土地若ハ家屋ヲ一時使用シ、物件ヲ
收用若ハ使用シ又ハ防空ノ實施區域内
ニ在ル者ヲシテ防空ノ實施ニ從事セシ
ムルコトヲ得

行政執行法第五條及第六條ノ規定竝ニ
之ニ基キテ發スル命令ハ前項ノ規定ニ
基キテ爲ス處分ニ依リテ負フ義務ノ履
行ヲ市町村長ガ強制スル場合ニ之ヲ準
用ス

第十條 主務大臣ハ防空計畫ノ設定者ニ
對シ防空計畫ノ全部又ハ一部ニ基キ防

防空法案(政府提出) 第一讀會

防空法案

第一條 本法ニ於テ防空ト稱スルハ戰時
又ハ事變ニ際シ航空機ノ來襲ニ因リ生
ズベキ危害ヲ防止シ又ハ之ニ因ル被害
ヲ輕減スル爲陸海軍ノ行フ防衛ニ則應
シテ陸海軍以外ノ者ノ行フ燈火管制、
消防、防毒、避難及救護竝ニ此等ニ關
シ必要ナル監視、通信及警報ヲ、防空
計畫ト稱スルハ防空ノ實施及之ニ關シ
必要ナル設備又ハ資材ノ整備ニ關スル
計畫ヲ謂フ

第二條 防空計畫ハ勅令ノ定ムル所ニ依
リ地方長官(東京府ニ在リテハ警視總
監ヲ含ム以下之ニ同ジ)又ハ地方長官
ノ指定スル市町村長防空委員會ノ意見
ヲ徵シ之ヲ設定シ主務大臣又ハ地方長
官ノ認可ヲ受クベシ

第三條 主務大臣ハ勅令ノ定ムル所ニ依
リ規模大ナル事業又ハ施設ニシテ防空
上特ニ必要アルモノニ付行政廳ニ非ザ
ル者ヲ指定シテ防空計畫ヲ設定セシム
ルコトヲ得

前項ノ防空計畫ハ主務大臣ノ認可ヲ受
クベシ

第四條 防空計畫ノ設定者ハ其ノ防空計
畫ニ基キ防空ヲ實施シ又ハ防空ノ實施

ニ關シ必要ナル設備若ハ資材ノ整備ヲ
爲スベシ

第五條 地方長官ハ勅令ノ定ムル所ニ依
リ防空計畫ニ基キ特殊施設ノ管理者又
ハ所有者ヲシテ防空ノ實施ニ關シ必要
ナル設備若ハ資材ノ整備ヲ爲サシメ又
ハ防空ノ實施ニ際シ必要ナル設備若ハ
資材ヲ供用セシムルコトヲ得

第六條 地方長官ハ勅令ノ定ムル所ニ依
リ特殊技能ヲ有スル者ヲシテ防毒、救
護其ノ他防空ノ實施ニ從事セシムルコ
トヲ得

第三條第一項ノ規定ニ依ル防空計畫ノ
設定者ハ其ノ從業者ヲシテ防空ノ實施
ニ從事セシムルコトヲ得

第七條 防空ノ實施ノ開始及終止ニ關シ
必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八條 燈火管制ヲ實施スル場合ニ於テ
ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ實施區域
内ニ於ケル光ヲ發スル設備又ハ裝置ノ
管理者又ハ之ニ準ズベキ者ハ他ノ法令
ノ規定ニ拘ラズ其ノ光ヲ祕匿スベシ

第九條 防空ノ實施ニ際シ緊急ノ必要ア
ルトキハ地方長官又ハ市町村長ハ他人
ノ土地若ハ家屋ヲ一時使用シ、物件ヲ
收用若ハ使用シ又ハ防空ノ實施區域内
ニ在ル者ヲシテ防空ノ實施ニ從事セシ
ムルコトヲ得

行政執行法第五條及第六條ノ規定竝ニ
之ニ基キテ發スル命令ハ前項ノ規定ニ
基キテ爲ス處分ニ依リテ負フ義務ノ履
行ヲ市町村長ガ強制スル場合ニ之ヲ準
用ス

第十條 主務大臣ハ防空計畫ノ設定者ニ
對シ防空計畫ノ全部又ハ一部ニ基キ防

防空法案 第一讀會

七四五

空ノ訓練ヲ爲スベキコトヲ命ズルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ防空ノ訓練ヲ爲ス場合ニ於テハ第三條第一項ノ規定ニ依リ防空計畫ノ設定者ハ其ノ從業者ヲシテ防空ノ訓練ニ從事セシムルコトヲ得

第一項ノ規定ニ依リ燈火管制ノ訓練ヲ爲ス場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ訓練區域内ニ於ケル光ヲ發スル設備又ハ裝置ノ管理者又ハ之ニ準ズベキ者ハ他ノ法令ノ規定ニ拘ラズ其ノ光ヲ秘匿スベシ

第十一條 防空ニ關スル調査ノ爲必要ナルトキハ主務大臣、地方長官又ハ市町村長ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ關係者ニ對シ資料ノ提出ヲ命ジ又ハ官吏若ハ吏員ヲシテ關係アル場所ニ立入り検査ヲ爲サシムルコトヲ得但シ私人ノ邸宅竝ニ業務上ノ秘密ニ屬スル事項及設備ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ニ依リ立入ル場合ニ於テハ其ノ旨豫メ其ノ場所ノ管理者ニ通知スベシ

當該官吏又ハ吏員第一項ノ規定ニ依リ關係アル場所ニ立入ル場合ハ其ノ證票ヲ携帯スベシ

第十二條 第六條又ハ第九條第一項ノ規定ニ依リ防空ノ實施ニ從事スル者之ガ爲傷痍ヲ受ケ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタル場合ニ於テハ地方長官、市町村長又ハ第三條第一項ノ規定ニ依リ防空計畫ノ設定者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ本人又ハ其ノ葬祭ヲ行フ者ニ對シ療養又ハ葬祭ニ要スル費用ヲ給スベシ

第十三條 地方長官第五條ノ規定ニ依リ

防空ノ實施ニ際シ必要ナル設備若ハ資材ヲ供用セシメ又ハ地方長官若ハ市町村長第九條第一項ノ規定ニ依リ土地家屋物件ヲ收用若ハ使用スル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ損失ヲ補償スベシ

前項ノ規定ニ依リ補償ヲ受クベキ者補償ニ付不服アルトキハ其ノ金額ノ決定ノ通知ヲ受ケタル日より、供用、收用又ハ使用ノ後六月ヲ經過シテ補償金額ノ決定ノ通知ヲ受ケザルトキハ其ノ期間經過シタル日より六月以内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十四條 地方長官第六條第一項ノ規定ニ依リ特殊技能ヲ有スル者ヲシテ防空ノ實施ニ從事セシメ又ハ第三條第一項ノ規定ニ依リ防空計畫ノ設定者第六條第二項ノ規定ニ依リ其ノ從業者ヲシテ防空ノ實施ニ從事セシムル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ實費ヲ辨償スベシ

前條第二項ノ規定ハ前項ノ實費辨償ニ之ヲ準用ス

第十五條 防空計畫ノ設定、防空ノ實施、防空ノ整備、第十條第一項ノ規定ニ依リ防空ノ訓練又ハ第十二條ノ規定ニ依リ給與ヲ爲スニ要スル費用ハ地方長官之ヲ爲ス場合ニ於テハ北海道又ハ府縣、市町村長之ヲ爲ス場合ニ於テハ市町村、第三條第一項ノ規定ニ依リ防空計畫ノ設定者之ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ者ノ負擔トス

特殊施設ノ管理者又ハ所有者第五條ノ規定ニ依リ設備又ハ資材ノ整備ヲ爲ス

ニ要スル費用ハ其ノ者ノ負擔トス

第十六條 防空委員會ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條 國庫ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ左ノ諸費ニ對シ其ノ二分ノ一以内ヲ補助ス

一 第十五條第一項ノ規定ニ依リ北海道、府縣、市町村又ハ第三條第一項ノ規定ニ依リ防空計畫ノ設定者ノ負擔スル費用

二 第十五條第二項ノ規定ニ依リ特殊施設ノ管理者又ハ所有者ノ負擔スル費用

三 防空委員會ニ關シ北海道、府縣又ハ市町村ノ負擔スル費用

第十八條 特殊技能ヲ有スル者故ナク第六條第一項ノ規定ニ依リ地方長官ノ命令ニ從ハザルトキハ三月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條 第八條ノ規定ニ違反シタル者ハ三百圓以下ノ罰金、拘留又ハ科料ニ處ス

故ナク第十一條第一項ノ規定ニ依リ資料ノ提出ヲ拒ミ若ハ虛偽ノ資料ヲ提出シ又ハ當該官吏若ハ吏員ノ立入検査ヲ拒ミ若ハ妨ゲタル者亦前項ノ同ジ

第二十條 町村組合ニシテ町村ノ事務ノ全部又ハ役場事務ヲ共同處理スルモノハ本法ノ適用ニ付テハ之ヲ一町村、其ノ組合管理者ハ之ヲ町村長ト看做ス

町村制ヲ施行セザル地ニ於テハ本法中町村ニ關スル規定ハ町村ニ準ズベキモノニ、町村長ニ關スル規定ハ町村長ニ準ズベキ者ニ之ヲ適用ス

スル防空ニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第二十二條 本法ヲ朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ施行スル場合ニ於テ必要アルトキハ勅令ヲ以テ特別ノ定ヲ爲スコトヲ得

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

（國務大臣河原田稼吉君登壇）

○國務大臣（河原田稼吉君） 只今議題ニ供セラレマシタル防空法案ニ關シ提案ノ理由ヲ御説明申上ゲタイト存ジマス、御承知ノ如ク近年航空機ノ著シキ發達ニ伴ヒ、各國トモ競ツテ空軍ノ充實ニ力ヲ致シツ、アル

現狀デアリマシテ、是ヨリ考ヘマスルニ、一旦他國ト干戈ヲ交フルガ如キ狀態ト成リマシタル場合、敵機ノ來襲竝ニ之ニ因ル危害ノ發生ハ、之ヲ豫想セザルヲ得ザル所デアリマシテ、隨テ豫メ其場合ニ於テ生ズベキ慘禍ニ備ヘ、極力空襲ノ危險ヲ防止シ、及ビ其被害ヲ輕減スルノ用意ヲ整ヘマスコトハ、今日ニ於テ極メテ肝要ノコトナリト

認メラル、ノデアリマス、諸外國ニ於テモ夙ニ防空ニ關スル法規ノ整備ニ腐心シ、現ニ防空法規定ノ制定ヲ見タルモノモ、既ニテ數箇國ニ達シテ居ルヤウナ實情ナノデアリマス、我國ニ於キマシテモ、數年來各地方ニ於テ防空演習ヲ行ヒ、空襲ノ場合ニ處スベキ國民ノ訓練ニ努メツ、アルコトハ、既ニ御承知ノ通りデアリマス

併ナガラ從來ヨリ行ヒマシタル防空演習ナルモノハ、之ヲ法規ニ基キ實施致シテ居ルモノデナク、即チ適宜官民ノ申合セニ依リ、適當ニ之ヲ行フニ過ギナイモノデアリマシテ、其實績ニ徴シマスルニ、一面ニ於テハ燈火管制等ノ場合、或ハ地方ニ依リ其

方法區々ニ岐レテ、眞ニ其效果ヲ收ムル上ニ遺憾ノ點少カラザルノミナラズ、他面一定ノ防空ニ關スル基本的計畫ナクシテ、單ニ一時的ニ其演習ヲ行フノミデハ、有事ノ際ニ眞ニ缺クベカラザル諸般ノ設備ヲ豫メ準備スル上ニ於テ、十分ナラザルノ憾ミモアルノデアリマシテ、政府ト致シマシテハ一定ノ防空計畫ヲ樹テ、ソレニ基キ平素統制アル訓練ヲ行フト共ニ、必要ナル設備資材等ノ整備ヲ爲シ、且ツ其費用ヲ負擔スベキ者ヲ定メ、又ハ國民ニ對シ或種ノ義務ヲ命ズルノ必要ヲ感ジ、即チ茲ニ防空ニ關スル法規ヲ制定スルノ必要ナルコトヲ認メ、從來ヨリ種々考究ヲ續ケテ參ツノデアリマスガ、漸ク其成案ヲ得テ御審議ヲ煩ハスコト致シ次第デアリマス

今法案ノ内容ノ重要ナルモノニ付キ簡單ニ御説明申シマスレバ、先ヅ第一ニ防空ナルモノノ意義ヲ明ニシ、且ツ防空ハ總テ防空計畫ニ基イテ之ヲ實施スルモノナルコトヲ規定シ、第二ハ、其防空計畫ハ地方長官又ハ其指定スル市町村長ヲシテ之ヲ設定セシムルコトヲ以テ原則トシ、特ニ必要アル場合ニ於テハ、行政廳ニ非ザル者ヲ指定シテ防空計畫ヲ設定セシムルコトトシ、且ツ設定者ニ於テ是ガ實施ノ責ニ任ズベキコトト致シマシタ、第三ニ、更ニ特定ノ者ニ對シ防空計畫ノ遂行上必要ナル義務ニ服スベキコトヲ命ジ得ル旨ノ規定ヲ設ケタル外ニ、特ニ燈火管制ヲ行フ場合ニ限リ、一般國民ニ對シ光ヲ秘匿スベキ義務ヲ命ジタノデアリマス、第四ニ、防空計畫ニ基キ防空訓練ヲ行フ場合ハ、總テ主務大臣ノ命令ニ依ラシメ、以テ其統制ヲ圖ルニ努メ、第五ニ、防空ニ關スル費用ハ、防空計畫ノ設定者タル地

方長官、市町村長ノ統轄スル地方團體、若クハ特別ノ必要ニ因リ特ニ防空計畫ノ設定ヲ命ゼラレタル者、又ハ特殊施設ノ管理者、所有者ヲシテ之ヲ負擔セシムベキ旨ヲ規定シ、尙ホ之ニ對シテハ國庫ヨリ相當ノ補助ヲ爲スコトト致シマシタ、第六ニ、尙ホ防空實施ノ爲メ國民ノ被ルベキ損失ニ對シテハ、必要ト認ムル限度ニ於テ損失ノ補償、實費ノ辨償又ハ療養、葬祭費、ノ給與等、支給ノ途ヲ拓イテ居リマス、第七ニ、防空計畫ノ設定ニ當リ其意見ヲ徵シ、又ハ防空ニ關シ必要ト認メラル、各方面ノ連絡等ニ便ナラシムル爲メ、中央及ビ各地方ニ於テ防空委員會ヲ設クルコトト致シマシタ第八ニ、本法ハ成ベク速ニ之ヲ實施致シタイ考デアリマスガ、諸般ノ準備等ノ關係モアリ、施行ノ時期ニ付テハ勅令ヲ以テ之ヲ定ムルコトト致シマシタ、何卒御審議ノ上速ニ御協賛アラシムコトヲ切望致ス次第デアリマス

○工藤鐵男君 此案ハ陸軍デ非常ニ急グト云フノデ、吾々ハ他ノ案ヲ後廻シニシテ居ルノデアリマスガ、大切ナル陸軍大臣ガ見エナイト云フコトハ、ドウ云フ事情カラデアリマスカ

○副議長(岡田忠彦君) 陸軍大臣ハ今豫算委員會ニ出席サレテ居リマス、直グ來ルト云フコトデアリマスカラ、暫ク此儘御待チ戴クヤウニ願ヒマス——工藤君、今牧山君ノ御質問ニ大臣ハ委員會デ答辯中デアリマスカラ、濟ミ次第第二見エタルデアリマスカ、只今答辯中デアリマス、其處ハ陸軍次官モ見エテ居リマスカラ、議事ヲ續行シテハ如何デスカ

○工藤鐵男君 御事情ハ無論アルデアリマ

セウガ、今日之ヲ是非ヤリタイト云フ爲ニ、非常ニ質問者ヲ前ノ議案デ省略シテ、サウシテ陸軍ノ要求ト云フコトモアツカカラ、是非今日ハヤラウト云フコトニ話合ヒガ大體付イテ居ル、是ハ質問者ノ無論意思モアルコトデアリマセウケレドモ、大シタ時間モ掛ラナケレバ此儘暫ク待ツカ、サウデナケレバ次ノ機會ニ讓ルカ、之ヲ二者一ニシテ貫ヒタイト思ヒマス

○副議長(岡田忠彦君) ソレデハ已ムナク少シ待チマスカ

〔時間モ切迫シテ居ルシ、ヤラレテハドウデスカ〕「今迄大臣ガ出ナイデヤッタデナイデスカ」ト呼ビ其他發言スル者多シ

○副議長(岡田忠彦君) 中山君、アナタハ質疑ヲ始メテ下サラシカ、其中ニ見エルト思ヒマスガ……

○工藤鐵男君 デハ遺憾ナガラ議長ノ御話ヲ續行致シマス、質問者カラ質問ガアルダラウト思ヒマス

○副議長(岡田忠彦君) ソレデハ中山君、御登壇下サルヤウニ……

(中山福藏君登壇)

○中山福藏君 此防空法案ハ極メテ重大ナル法案デアリマスルカラ、私ハ總理大臣、陸海軍大臣、竝ニ内務大臣ノ御出席ノ面前ニ於テ之ヲ行ヒタカッタノデアリマスルガ、ドウ云フ事情カ總理及ビ陸相ハ暫ク遅レラレルヤウデアリマスカラ、總理大臣ニ御尋スル所ハ、他ノ閣僚ノ方カラ十分御傳ヘラ願ヒマシテ、明日デモ一ツ御答辯ヲ願ヒタイト考ヘテ居リマス、私ノ質問致シマスル要點ハ、五ツノ項目ニ分レテ居ルノデアリマシテ、第一ニハ、眞ノ防空ト云フモノハ絶

對條件トシテ軍官民ノ心的協調ヲ要スルモノデアル、政府ノ此點ニ承認スル認識竝ニ對策如何ト云フノデアリマス、第二ハ、政府ハ國防省ヲ設置スルノ意向ナキヤ、又陸海軍大臣ハ空襲ニ對シテ完全ニ我國土ヲ防衛シ得ルノ自信ヲ持ッデ居ルヤ否ヤト云フコトデアリマス、第三ニハ、防空計畫ノ實施ヲ完壁ナラシムル爲メ、豫メ指導組織ヲ法文化シ置ク必要ヲ認メザルヤ、又發送電ノ統制及ビ通信系統ノ完備、道路ノ擴張、水道ノ防備強化、建築物ノ改良等ニ對シテ、政府ノ包藏スル所見如何、第四ハ、防空知識ヲ普及徹底セシムル爲メ、中小學校教科書中ニ相當程度ノ防空科目ヲ挿入スルノ必要ヲ認メナイカ、第五ハ、本法案ノ第十六條ニ防空委員會ノ構成組織ニ付テノ規定ガアリマスルガ、其委員ハ大體ドウ云フ者ヲ以テ之ニ充テラレル所存デアアルカ、此五ツノ項目ニ付テ御尋スルノデアリマス

大體防空計畫ノ實施ヲ完全ナラシムル爲ニハ、軍官民ヲ一貫シタル所ノ心的結合ヲ必要トスルコトハ論ズル迄モナイコトデ、此軍官民ヲ一貫シタル愛國心ニ依ツテ、如何ニ物的設備ヲ完全ナラシムルカ、此安全ナラシメタル物的設備ニ依ツテ防空ノ目的ヲ達スル、其爲ニハ如何ニスレバ宜イカト云フ問題ヲ、二十二箇條ノ條文ニ綴ッデアルト云フコトニ過ギナイ、私ハ次ノ點ニ付テハ總理大臣ニ御尋シタイ、一體現在ノ日本ノ軍官民ノ精神的結合ト云フモノハ、完全ニ出來上ッデ居ルカドウカ、五・一五事件以來我が國民ノ、所謂軍官民ノ精神的結合ト云フモノハ、外面的ニ國粹主義ヲトカ、庶政一新ダトカ、國體明徴トカ云フヤウナ言葉ニ依ツテ、結合セラレタカノ如キ感ジラヘル

ヤウナ宣傳ガ、所々方々ニ行ハレテ居ルノ
デアル、併ナガラ我國ノ國民ノ内面的ナ氣
持ト云フモノハ、チリ／＼バラ／＼ニナッテ
居ルヤウニ私ハ觀察致シテ居ル、而モ國體
明徴、庶政一新ト云フ言葉ヲ、五・一五事
件以來齋藤内閣、岡田内閣、廣田内閣、林
内閣ノ四内閣ニ依ッテ宣傳セラレテ居ルノ
デアリマスケレドモ、其國體明徴、庶政一
新ノ言葉ヲ聞ク度毎ニ、國民ノ精神ト云フ
モノハ、非常ナル乖離ヲ生ジテ居ルノデハ
ナイカト思フ、斯様ニ私ハ考ヘテ居ル、何
處ニ國體明徴ト云フコトガハッキリ國民ニ
會得サレテ居ルカ、大體此問題ニ質問ヲ發
スル者、答ヘル者、共ニ分ッテ居ナイノデア
ル、之ヲ聞カサレル所ノ國民ハ尙更分ラナ
イ、古事記ノ文句ダトカ、勅語其儘此議
場ニ述ベテ、ドウシテ皆サン此國體明徴ガ
分ルカ、或ハ議案サヘ澤山出セバ、ソレガ
庶政一新ダト御考ニナッテ居ル閣僚ノ方モ
アルヤウデアアル、國體明徴ト云フコトノ眞
意義ト云フモノヲ徹底シナケレバ、國體明
徴ト云ヘバ、武力ヲ以テ天下ヲ征服スルノ
ガ國體明徴デヤナイカト云フヤウニ思料シ
テ居ル者スラアル、庶政一新、庶政一新ト
云フ掛聲バカリデ、顯微鏡ヲ當テテ見テモ
之ヲ發見シ得ナイノデアアル、何處ニ一體庶
政一新ガアル、何處ニ國體明徴ガアル、國
體明徴ト云ヘバ、憲法ノ條章ヲ讀ミサヘス
レバ分ルト言ツタリ、我が皇祖皇宗國ヲ肇ム
ルコト宏遠ニ德ヲ樹ツルコト深厚ナリ、是
ガ我が國體ノ精華ト御答ニナツタ大臣モ居
ラレル、斯ウ云フコトヲ仰シヤッテ國民ガ
果シテ承服スルデセウカ、其意味ガ分ラナ
ケレバ、國民ト云フモノハ、國體明徴ト云
フモノハドウ云フモノカ、庶政一新ト云フ

モノハドウ云フモノカ、迷ウテ來ルノハ當
リ前ダ、デスカラ政府ハ此言葉ヲ御出シニ
ナルナラバ、分ルヤウニ説明シテヤラナケ
レバ國民ハ迷ヒマス、説明ガ出來ナケレバ、
此言葉ト云フモノヲ政綱政策カラ撤回ナサ
ルヨリ外ニ仕様ガナイ、大體文化ノ進展ト
云フコトハ、絶對的眞理ニ對スル相對的眞
理ノ階段の合流ヲ謂フノデアアル、我が日本
ノ國體ガナゼ偉大カト云フコトハ、憲法ヲ
讀シダケデハ分リマセス、憲法ヲ讀ムト
同時ニ、五箇條ノ御誓文ヲ通シテ天孫瓊々
杵命ガ天下ト地トヲ兩足ニ踏ミシメラレテ、
三種ノ神器ヲ以テ此文化進展ノ爲ニ、天人合
一ノ妙諦ヲ現世ニ打建テラレタト云フ所ニ
我國ノ特性ガアル、肉眼デ見ダケデ國體ノ
明徴ナント云フコトハ、一寸烏滯ノ沙汰デア
ル、少クトモ心眼ヲ開イテ我が肇國ノ大理想
ト云フモノヲ見ナイ以上ハ、斷ジテ日本ノ國
體ノ明徴ヲロニスル資格ハナイ、又庶政一
新ノ根本ト云フモノヲ打立テルコトハ出來
ナイノデアアル、現在ノ政府ノヤラレル所ハ、
四百四十ノ高野山ノ寺ヲ列ベテ置イテ、高
野山ノ奥ノ院ノ弘法大師ノ墓ヲ缺イテ居ル
ノト同ジデアアル、高野山ノ奥ノ院ト云フ一
ツノ寺ガ缺ケタナラバ、四百四十八ノ寺々
ハ無價值デアアル、幾ラ政策ヲ澤山出シ、政
綱ヲ列ベ立テテモ、此精神の基礎ト云フモ
ノヲ缺イテ居ル内閣デアアル以上ハ、我國民
ハ何時マデ此迷カラ醒メルコトハ出來ナイ
ノデアアル、デスカラ政府トシテハ此點ニ付
テ、如何ナル所ノ對策ヲ將來立テテ行カレ
ル積リカ、ソレヲ私ハ御伺シタイ、又立テ
テ行クコトガ出來ナケレバ、此國體明徴ダ
トカ、庶政一新ダトカ云フ言葉ハ、早急ニ
撤回シテ戴キタイ、此點ニ對スル政府ノ御

意見ハ如何デアリマセウカ
第二ハ現在防空ニ關スル施設ハ、各國ニ
依ッテ違ッテ居ル、例ヘバ獨逸ダトカ「ソ」聯
邦ダトカ云フモノハ、國防省ヲ立テ、空軍・
海軍・陸軍ト云フモノヲ一省ニ統轄シテ、ソ
ウシテ其連絡・協調・統一ヲ圖リ、其統制ヲ試
ミテ居ルノデアリマスルガ、我國ハ米國ト同
ジヤウニマダソレ等ノ設置ガナクテ、民間
航空ハ遞信省ニ附屬シテ居ルノデアリマス、現
在御承知ノ通りニ、此民間ノ防空ノ施設ハ、
第一ニハ海軍ニ附屬シテ居ル飛行機、第二
ハ陸軍ニ附屬シテ居ル飛行機、是等ノモノ
ガ寄集ッテ、此日本ノ國土ヲ、海上第一線ニ
於テ防禦シテ戴カナケレバナラス、然ルニ
現在輕爆撃機ト戰闘機トノ時速ノ平均差ハ、
非常ニ其差ガ少クナツタノデアリマシテ、最
モ大キイ時速ノ差ト云フモノハ、只今デハ見
ルコトガ出來ナイヤウニ、爆撃機ノ方ガ發
達シテ來タノデアアル、又重爆撃機ト戰闘機
トノ平均時速ノ差ハ、九十軒ト言ハレテ居
リマスケレドモ、是亦最大時速ノ差ハ僅カ
二十軒ト云フコトニナツテ居ルト云フコト
デアリマスガ、我國ハ四面海ヲ環ラシテ居
テ、「アリニューシヤン」群島ヨリ來ルモノモ
アリ、或ハ鮮滿、乃至ハ南支、或ハ比律賓、
或ハ「グアム」或ハ布哇ノ眞珠灣トカ云フ色
色ノ方面カラ襲來スルモノモアルデアリマ
セウガ、サウ云フ場合ニ於テ現在ノ陸海軍
ノ御持ニナツテ居ル飛行機ノ力ヲ以テ、我國
土ヲ完全ニ防衛シ得ル自信ガアルカドウカ、
此點陸海軍大臣ニ御尋シテ置キタイノデア
リマス

第三ニ御尋致シタイト思ヒマスノハ、此
防空ノ趣旨ヲ防空計畫ニ依ッテ徹底セシメ
ル、所謂燈火管制、消防、消毒、或ハ避難
救護、或ハ監視、警報、通信ト云フヤウナ
問題、此目的ヲ果ス爲ニ——完全ニ防禦シ、
避難セシメ、防衛スル爲ニハ、之ニ要スル
ダケノ資料ノ整備、或ハ設備ト云フモノガ
必要デアリマセウガ、其中デモ最重要ナ
ル意義ヲ有スルモノハ道路ノ問題デアリマ
ス、道路ノ擴張強化ト云フコトデアリマス、
第二ハ水道問題ヲドウスルカト云フ問題デ
アリマス、第三ハ建築物ヲ如何ニ改造強化
シテ行クカト云フ問題デアアル、第四ハ通
信機關ノ統一、或ハ發送電力ノ統制、是等
ノモノハ必要中ノ最も必要ナル事項ニ屬シ
テ居ル、所ガ敵機ガ我國ニ參リマスル時ニ
ハ必ズ其中樞ヲ侵スコトヲ考ヘテ參ッテ來
ル、東京ハ日本ノ腦髓デアリ、大阪ハ日本
ノ心臟デアアル、又九州ノ福岡ハ日本ノ脚ト
モ言フベキ最も重要ナル土地ニ位シテ居ル
ノデアリマス、是等ノ土地ニ對スル防空設
備ト云フモノハ、事前ニ於テ有エル方法ヲ
講ジテ之ヲ完ウシテ置カナケレバナラスノ
デアリマスルガ、先ヅ道路ノ擴張ト云フ問題
ニ付テ申上ゲマス、先年北海道ノ函館市ニ
於テアノ大火ノ後ニ現地ノ人々ハ三十六米
カラ五十五米ノ道路ニ擴張シテ居ラレル、
或ハ大正十二年ノ大震災ノ當時ニ於テハ隅
田川ノ二百米ト云フ川幅モ何等ノ役ニモ立ッ
テ居ナイ、我が大東京市ハ後藤伯ノ當時破
天荒トモ云フベキ第三計畫ニ依ッテ立テラ
レタノデアリマス、而シテ天才的小聰明其モ
ノデアッタ後藤伯ノ此計畫モ今ハ小サクナ
リマシタ、其道幅ガ非常ニ狭イノデアリマ
ス、將來ハ一々本ヲ讀マナケレバ一切分ラ
ナイト云フヤウナ政治家ハドウニモナラス、
本ヲ讀マナイデ自分ノ獨創的ニ基イテ、有
エル計畫ヲ立テテ、自分ノ行動ガ書物ニナッ

テ出版サレト云フ位ノ力ヲ持ツタ政
治家ガ出テ來ナケレバ、世界ノ情勢ニ對
シテ角逐スルト云フヤウナコトハ出來ナイ、
デスカラ政府當局ハ此道路ノ擴張ト云フコ
トニ付テ、ドウ云フ對策ヲ懷イテ居ラレル
カ、又電力ノ發送、或ハ其統制統一、協調連
絡、是等ニ付テモ相當ノ自信ヲ持ツテ居ラ
レマスナラバ、一ツ御迷フ願ヒタイ、又
建築物ノ改良デアリマス、或ハ地下室ヲ作
ルトカ、木造ヲ石造ニ改造スルトカ、斯ウ
云フコトモ重大ナ問題デアリマセウ、區劃
整理法ダトカ、或ハ不良住宅ノ改良法ダト
カ、其他都市計畫法、是等ノモノニ依ツテ改
造モ出來ラデアリマセウガ、此防空法ヲ出
サレナラバ、之ニ關聯シタル法規ノ改正
ト云フモノヲ準備ダケハシテ置カナケレバ
ナラス、斯ウ云フ問題ニ付テ相當御研究ニ
ナツカドウカ、ソレモ御伺致シマス

最後ニ水ノ問題デアリマス、即チ東京ハ
淀橋系トカ、金町系トカ、或ハ順次ニ東京
市ニ買収致シタ水系ト云フモノガ九ツアル
ノデアリマスルガ、一ツガ爆彈ニ依ツテ破壊
サレテモ、アトノ八ツハ生キテ居ル、然ル
ニ大阪市ハ柴島ノ水源地ガ唯一ツシカナイ、
大阪市ヲ養フタ上、或ハ灌漑、或ハ上水道用
水、工場用水、下水道淨化用水トシテ必要
ナル水ト云フモノハ、是ハ大震災ノ場合ニ
於テ吾々國民ガ非常ナ苦イ經驗ヲ嘗メテ居
ルノデアアルガ、空襲ヲ受ケタ場合ニ最モ必
要ナモノハ水デアアル、先程モ申シマシタヤ
ウニ、東京市ハソレ等ノ設備ガ整ツテ居ル
ガ、大阪ノタツタ一ツシカナイ柴島ノ水源
地ト云フモノヲ爆撃サレタナラバ、大阪ノ
市民三百万、或ハ岸和田市ヲ中心トスル一
市五郡六十四箇町村ト云フモノハ、水飢饉

ニ惱マサレテ、爆彈ニ見舞ハレタヨリモ、
更ニ一層ノ慘狀ト云フモノガソコニ現ハレ
テ來ルニ違ヒナイと思フ、之ニ付テハ琵琶
湖ト、産業日本ノ大動脈タル淀川ノ水系ニ
俟ツヨリ外ニナイノデアリマス、此點ニ付
テ内務大臣ハドウ云フ御考ヲ御持チニナツ
テ居リマスカ、何時モ研究ダ、調査ダト云フ
鹽梅デ延バサレテハ困ル、來年度ノ豫算案
ヲ見ルト、河川ノ研究ニ關スル費目ト云フ
モノハ、二十五萬圓ヲ計上サレテ居ル、是
位ノ小サイ金デ、ドウシテ國民ニ對シテ十
分ナル施設ヲ爲サウトサレルノデアリマセ
ウカ、之ヲ私ハ伺ツテ置キタイ、殊ニ一旦緩
急アル際ニハ、此貯溜水ト云フモノガ、ド
ノ位必要ナモノデアアルカト云フコトガ分ル、
御承知ノ通りニ現在倫敦ニ於キマシテハ、
九千一百六十三萬立方メートル云フ貯溜水ガア
ル、又紐育ニ於キマシテハ一千三百六十萬
立方メートル云フ貯溜水ガアル、然ルニ大東京
市ハ六十一萬五千立方メートルシカナイ、又大阪
ハ五十五萬九千立方メートルシカナイノデア
アル、倫敦ノ百五十萬ノ一シカ東京市ハナイノデ
アリマス、斯ウ云フ問題ヲ能ク御研究ニナツ
テ、是等ニ對スル所ノ對策ハドウシテ居ラ
レルカ、ソレヲモ此際伺ツテ置キタイノデ
アリマス

第四ニハ現在此戰爭ノ範圍ト云フモノハ
非常ニ擴大サレテ居ル、今ヤ空襲ト云フ問
題ハ、戰闘員、非戰闘員ノ區別ト云フモノ
ヲ無クシテシマツテ居ル、デアリマスカラ空
襲ナドガ始メテカラノ準備デハ遅イカラ、始
マル前ニ國民ニ航空機關ノ總テノ問題——
防空、空襲、是等ノ問題ニ付テ十分ノ知識
ヲ與ヘテ置カナケレバナラスと思フノデア
リマス、ドウカ首相ハ文部大臣ヲ兼ネテ居

ラレルノデアリマスカラ、小學中學時代カ
ラ是等ニ付テ満足ノ出來ル知識ヲ與ヘナケ
レバナラスと思ヒマスルガ、斯ウ云フ點ニ
對スル文部大臣トシテノ林サンノ御意見ヲ
私ハ承ツテ置キタイノデアリマス

第五ニハ是ハモウ説明ヲスルマデモナク、
此防空委員會ト云フモノニ付テ第十六條ニ
規定ガアルノデアリマスガ、ドウ云フ人々
ヲ以テ之ニ充テラレヨウトスルノデアアルカ、
ソレヲ御伺シタイと思ヒマス、此五點ヲド
ウゾ一ツ大膽ニ率直ニ御答ヲ願ヒマシテ、
大帝國ノ閣僚タル貫祿ヲ示シテ戴キタイト
私ハ思ツテ居リマス(拍手)

(國務大臣米内光政君登壇)

○國務大臣(米内光政君) 海軍ニ關スルモ
ノヲ御答致シマス、御質問ノ第二項ニ陸海
軍大臣ハ完全ニ防衛シ得ル確信ヲ有スルヤ
否ヤ、斯ウ云フ御質問デアリマス、海軍ト
致シマシテハ敵ノ航空機ヲ其根據地ニ於
テ——戰時若クハ事變ノ際デアリマス——殲
滅シタイト云フノガ第一ノ願望デアリマス、
ソレガ出來ナケレバ襲來ノ途中ニ於テ之ヲ
撃破スル、假ニ若シソレ等ノコトガ出來マ
セヌデ、國土ニ近寄ツタ場合ニハ、國土ニ於
テ之ヲ防衛スル、此三點ガ考ヘラレルノデ
アリマスガ、海軍ト致シマシテハ先程申シ
マシタ第一、第二ニ依ツテ成ベク敵機ヲ國
土ニ近寄ラシメナイト云フコトヲ考ヘテ居
ルノデアリマス(拍手)但シ敵ノ一機ヲダモ
我國土ニ近寄ラシメナイ自信ヲ持ツテ居ル
カト言ハレマス、遺憾ナガラ其確信ハ今
日ノ所アリマセヌ、併シ成ベク一機モ近寄
ラセナイヤウニ希望シ又之ニ向ツテ努力致
シテ居リマス

必要ハ認メヌカ、斯ウ云フ御質問デアリマ
スガ、只今ノ所空軍ト云フモノハアリマセ
ズ、要スルニ御質問ノ要旨ハ陸海空軍ヲ
合シテ一ツノ空軍ヲ作ル意思ガナイカト云
フ御質問デハナカッタカト拜聴致シマシタ
ガ、如何デアリマスカ——ソレニ付テ御答
致シマス、陸海空軍ハ各、其使用ノ趣ヲ異ニ
シテ居リマス、尙又活動スル範圍ト云フモ
ノハ自ラ異ツテ居リマス、デアリマスカラシ
テ、各、訓練ノ方式竝ニ飛行機ニ要求スル性
能ト云フモノハ、ヤハリ違ガアリマス、ソレ
デアリマスカラ、陸軍ハ陸軍ノ航空部隊ト
シテ、海軍ハ海軍ノ航空部隊トシテ働ク場
合ニ於テ、初メテ戰闘ノ目的ヲ達スルモノ
ト考ヘテ居ルノデアリマス、殊ニ海軍ニ於
キマシテハ、豫想戰場ト致シマシテハ荒漠
タル海ノ上デアリマス、斯ウ云フコトヲ考
ヘマスト云フト、航空部隊ト云フモノヲ艦
隊ノ一ツノ補助部隊ト考ヘマシテ、使用シ
ナケレバナラスノデアリマス、又斯クスル
コトガ最も戰闘ノ目的ヲ達スル所以デアリ
マス、例ヘバ歐米ノ例ヲ取ツテ見マスルノ
ニ、歐洲大陸ニ於キマシテハ概ネ空軍ハ統
一サレテ居リマス、併ナガラ空軍ガ統一サ
レテ居リマシテモ、尙ホ海軍ニ專屬スル所
ノ航空部隊ト云フモノヲ持ツテ居リマス、斯ウ
ナリマス、土氣ノ統一、又戰闘能力ト云
フ方カラ云ヒマスト非常ニ困ルノデアリマ
ス、又米國ニ於キマシテハ陸軍ノ航空部隊ト
海軍ノ航空部隊ト全然別ニナツテ居リマシテ、
今日不滿ノ聲ヲ聞イテ居ラスノデアリマス、
尤モ同目目的ニ向ヒマシテハ、陸軍、海軍
協調致シマシテ、其目的ヲ達スルコトガ出
來ルノデアリマス、又場合ニ依ツテハ是非
サウシナケレバナラス事モアリ得ルト思フ

ノデアリマス、斯様ニ考ヘマスト、是ガ自然ニ空軍統一ト云フ目的ヲ協調ニ依ッテ達スル、斯ウ云フコトニナリ得ルト思フノデアリマス、隨ヒマシテ今日ノ所陸海軍ノ空軍ヲ合併シテ、一ツノ空軍省ヲ作ルト云フコトハ考ヘテ居リセヌ(拍手)

(國務大臣河原田稼吉君登壇)

○國務大臣(河原田稼吉君) 防空ヲ完全ニシマスニハ、建築物トカ、或ハ道路トカ、或ハ水道ノ設備其他ニ付テ根本的ニ考ヘル必要ハアリハセヌカ、斯ウ云フ御意見ニ對シマシテハ、洵ニ御尤ノ次第ト考ヘルノデアリマス、サリナガラ、是等ノ問題ハ或ハ國民經濟、或ハ國家ノ財政ト云フコトニモ關聯致シマスノデ、今回ノ防空法案ハ取敢ヘズ一般國民ノ訓練ト、且ツ最小限度ニ於ケル設備ヲ命ズルト云フヤウナ程度ニ止メタノデアリマス、將來御述ニナリマシタヤウナ點ニ於キマシテモ、十分ナル研究ト考慮ヲ加ヘテ行ク必要ガアラウト思ヒマス、更ニ此防空委員會ノ組織デアリマスガ、大體ニ於キマシテハ官竝ニ官民ノ委員會ヲ作ル、斯ウ云フ大體ノ方針デアリマス

(政府委員梅津美治郎君登壇)

○政府委員(梅津美治郎君) 陸軍ニ關スル件ヲ御答申上ゲマス、空襲ニ對シテ國土ヲ十分ニ防衛シ得ル自信ガアルカト云フコトデゴザイマシタガ、是ハ陸軍ノ責務ト致シマシテハ、何處マデモ完全ニ國土ヲ防衛スルト云フ信念ヲ以テ行カナケレバナラスト考ヘテ居リマス、今日非常ナル速度ヲ以テ進歩シツ、アル飛行機ニ對シマシテ、國土ノ防衛ヲ完全ニスルコトハ大イニ努力ヲ要スル問題デアリマスルガ、防空ノ諸施設ヲ完備致シマシテ、又有ユル

科學的ノ粹ヲ集メテ研究工夫ヲ凝シマシテ、此防空上ニ於ケル陸軍ノ任務ヲ十分ニ達成致シタイト考ヘテ居ル次第デゴザイマス、次ニハ國防省設置ノ意思ガアルカト云フコトデゴザイマシタガ、今日ノ所デハ國防省ト云フコトニ付テハ考ヘテ居リマセヌト云フコトヲ申上ゲテ置キマス

(中山福藏君登壇)

○中山福藏君 陸海軍省ノ方々カラ國防省設置ノ意向ハナイト云フ思召デアリマスルガ、行政機構ノ改革ヲ盛ニ絶叫シテ居ラレル方々ガ、斯ノ如キ言ヲ爲サルト云フコトハ、私ノ附ニ落チヌ所デアリマス、總務廳ヲ作ルトカ何トカ云ツテ、形式バカリ御描ヘニナル、何事モ先ヅ自ラ始メナケレバナリマセヌ、先ヅ隗ヨリ始メナケレバナラヌト思ヒマス、今日河川ノ問題ニ致シマシテモ、例ヘバ一般ノ河川ト云フモノハ、漁業ニ付テハ農林省ノ管轄區域ニナツテ居リ、又一般管轄ハ内務省ニ屬シテ居ル、サウシト云フモノハ逕信省ニ屬シテ居ル、サウシテ複雑煩瑣多岐多端、殆ド權限ガ錯綜シテ其歸一スル所ヲ知ラナイト云フヤウナ狀態デアル(ヒヤ)デスカラ國防省ノ如キ、海軍ト、陸軍ト、空軍ト云フノヲ統一サシテ、サウシテ一ツノ主管大臣ノ中ニ、極メテ敏活ナル而シテ迅速ナル行動ヲ執ラシムルト云フコトガ、國防ノ第一義デハナイカト私ハ考ヘテ居ル(拍手)又河原田内務大臣ノ御答ハ、唯研究スルデヤ聞エマセヌ、モウ少シ徹底シタル御研究ガ欲シノデス、而モ内務省ト云フモノハ、官制ガ出來テカラズットアルノデス、今日少クトモ相當ノ成案ガ出來テ居ル筈デアリマス、ナゼ茲ニ御研究ニナツテ御述べ下サラヌノデ

アリマスカ、更ニモウ一遍繰返サウデアリマスルガ、(簡單々々)ト呼フ者アリ此陸軍省ノ本年度ノ研究費ト云フモノハ、二百七十一萬一千六百七圓計上セラレテ居ルヤウデアリマス、又海軍ハ僅ニ二百六十萬圓デアツタト思フ、總テ民間防空ハ陸海軍ノ空中防衛ノ強弱ニ比率シテ行ハレナケレバナラヌト私ハ考ヘテ居ル、デスカラアレダケノ厖大ナ軍事豫算中カラ、モウ少シ此軍事化學工業ノ尖端ヲ奔ル飛行機ノ研究費ヲ出シテ、完全ナ空中防衛ト云フモノヲ、陸海軍ノ力ニ依ッテ先ヅ第一ニ行ッテ戴キタイト云フコトヲ、私ハ希望シテ置ク次第デアリマス、尙ホ國體明徴、庶政一新ト云フ問題ハ、國民ノ心ヲ結ブ一番重大ナ問題デアル、基盤デ言フナラバ、政策政綱ハ黒ヤ白ノ石デアル、基盤ト云フモノヲ拔キニシテ、政綱政策ダケヲ述ベラレタノデハ國民ハ迷フノデアリマス、ドウカ一ツ總理大臣ニ此事ヲ御傳ヘ下サツテ、此言葉ヲ撤回ナサルカ、然ラズンバ之ヲ徹底セシムルト云フ、内閣ノ大ナル覺悟ヲ私ハ此機會ニ御伺シタイト云フコトヲ、此處デ述ベマシテ私ノ質疑ヲ終ル次第デアリマス

○中山福藏君 本案ニ對スル質疑ハ此程度ニ於テ一時中止シ、此際議事日程ヲ變更シテ、議員前田幸作君懲罰事犯ノ件、竝ニ同

龜井貫一郎君懲罰事犯ノ件ヲ一括上程シ、其審議ヲ進メラレンコトヲ望ミマス

(拍手)反對々々ト呼フ者アリ

○副議長(岡田忠彦君) 只今記名投票ノ要求ガアリマシタ、此要求ハ衆議院規則第三百三十一條ニ依リ三十名以上ヲ以テシナケレバナリマセヌ、仍テ要求者ノ起立ヲ求メマス

(贊成者起立)

(龜井貫一郎君) 議事進行ニ付テ、私ハ懲罰事犯ノ問題ニ付テ……ト呼フ

○副議長(岡田忠彦君) 三十四名ノ起立ガアリマシタ、仍テ記名投票ニ依ッテ之ヲ決シマス、是ヨリ記名投票ヲ行ヒマス——中山君ノ勸議ニ贊成ノ諸君ハ白票、反對ノ諸君ハ青票ヲ持參セラレンコトヲ望ミマス——

閉鎖——氏名點呼ヲ命ジマス

(書記官氏名ヲ點呼ス)

○副議長(岡田忠彦君) 投票漏ハアリマセヌカ——投票漏ナシト認メマス——投票函閉鎖——開匣——閉鎖

(書記官投票ノ數ヲ計算ス)

○副議長(岡田忠彦君) 投票ノ結果ヲ書記官長ヨリ報告致サセマス

(田口書記官長朗讀)

投票總數 二百六

可トスル者 白票 百七十

否トスル者 青票 三十六

(拍手起立)

(參照)

本案ニ對スル議事ハ此ノ程度ニ於テ一時中止シ此ノ際議事日程ヲ變更シテ議員前田幸作君懲罰事犯ノ件及同龜井貫一郎君懲罰事犯ノ件ヲ一括上程シ其ノ審議ヲ進ムヘシトノ勸議ヲ可トスル議員ノ氏名左ノ如シ

伊藤東一郎君 一柳仲次郎君

池田 清秋君 池本甚四郎君

飯塚春太郎君 服部 敦一君

服部 英明君 服部 崎市君

原 玉重君 原 淳一郎君

橋本 祐幸君 坂東幸太郎君

西田 郁平君 堀内 良平君

本田 英作君 本多眞喜雄君
富田 等平君 小久江美代吉君
小山倉之助君 大門 恒作君
大島 寅吉君 太田信治郎君
岡田 春夫君 渡邊玉三郎君
渡邊 鐵藏君 加藤 綱一君
川崎末五郎君 片山 一男君
鍋木 忠正君 漢那 憲和君
田中 武雄君 高松 長三君
依 孫一君 多田 滿長君
賴母木桂吉君 添田敬一郎君
土屋清三郎君 土屋 寛君
内藤 正剛君 内藤久一郎君
中 亥歳男君 中村 又一君
中山 福藏君 仲井間宗一君
長尾秀太郎君 長野 高一君
長野 長廣君 村岡 吾一君
村松 久義君 鶴澤 宇八君
植村嘉三郎君 生方 大吉君
氏家 清君 工藤 鐵男君
山本 条吉君 眞鍋 儀十君
前田房之助君 松田 正一君
松田喜三郎君 升田 憲元君
古田喜三太君 小泉又次郎君
小畑虎之助君 小柳 牧衛君
古藤増治郎君 木槍三四郎君
手代木隆吉君 寺島 權藏君
青木 亮實君 淺川 浩君
佐藤謙之輔君 佐澤 定二君
齋藤 直橋君 澤田 利吉君
木下 信君 北原阿智之助君
喜多壯一郎君 清 寛君
三好榮次郎君 宮澤 胤男君
湊 季松君 清水留三郎君
清水徳太郎君 信太儀右衛門君

平野 光雄君 最上 政三君
森 兼道君 森下 國雄君
鈴木康太郎君 井上 知治君
岩瀬 亮君 石井徳久次君
石川 定辰君 石坂 豊一君
石坂 養平君 服部米次郎君
花城 永渡君 西方 利馬君
西川 貞一君 東條 貞君
小高長三郎君 小山田義孝君
大石 倫治君 大野 伴陸君
太田 正孝君 岡田伊太郎君
若宮 貞夫君 加藤 賢司君
片山秀太郎君 蔭山 貞吉君
菅野善右衛門君 田中 好君
田中 彌助君 田尻 生五君
田尻藤四郎君 立川 太郎君
胎中楠右衛門君 玉置吉之丞君
丹下茂十郎君 坪山 徳彌君
土倉 宗明君 中井 一夫君
中野 猛雄君 中島知久平君
永田 良吉君 植原悦二郎君
工藤十三郎君 久山 知之君
山田 又司君 山田 佐一君
松岡 俊三君 松村 光三君
松木 弘君 牧野 賤男君
益谷 秀次君 深澤豊太郎君
藤生安太郎君 古河和一郎君
小林 絹治君 小林 錡君
小谷 節夫君 木暮武太夫君
河野 一郎君 高良 宗七君
寺田 市正君 青木雷三郎君
綾部健太郎君 天辰 正守君
安藤 正純君 清瀬規矩雄君
三善 信房君 宮澤 裕君
宮脇 長吉君 宮本雄一郎君

宮崎 一君 志賀和多利君
篠原 義政君 島田 俊雄君
島田七郎右衛門君 神保 重吉君
匹田 鋭吉君 森 幸太郎君
門田 新松君 井阪 豊光君
今給黎誠吾君 陣 軍吉君
藏園三四郎君 青木 精一君
岸田 正記君 守屋 榮夫君
否トスル議員ノ氏名左ノ如シ
石坂 繁君 高岡 大輔君
野中 徹也君 鈴木 正吾君
岡崎 憲君 川俣 清吾君
川村保太郎君 河上丈太郎君
片山 哲君 龜井貫一郎君
田万 清臣君 塚本 重藏君
黒田 壽男君 山崎 釵二君
松本治一郎君 河野 密君
麻生 久君 淺沼稻次郎君
佐竹 晴記君 水谷長三郎君
鈴木 文治君 今井 新造君
笠井 重治君 加藤 勘十君
田淵 豊吉君 前田 幸作君
福田 耕君 小山 亮君
椎尾 辨匡君 平野 力三君
大石 大君 渡邊 泰邦君
田中 養達君 木村 武雄君
由谷 義治君 杉浦 武雄君
○副議長(岡田忠彦君) 仍テ中山君ノ動議
ハ成立致シマシタ、政府ハ此議事日程變更
ニ同意致シマシタ、仍テ日程ハ變更セラレ
マシタ、懲罰事犯ノ議事ハ秘密會議ナルニ
依リ傍聴人ノ退場ヲ命ジマス

議員前田幸作君、龜井貫一郎君懲罰事
犯ノ件
〔午後六時四十一分秘密會ニ入ル〕
〔午後八時四十八分秘密會ヲ終ル〕
○副議長(岡田忠彦君) 是ヨリ會議ヲ公開
致シマス——傍聴人ヲ入場セシメマス——
龜井貫一郎君ノ入場ヲ許シマス——秘密會
ノ結果ヲ報告致シマス、秘密會ニ於テハ議
員前田幸作君、同龜井貫一郎君懲罰事犯ノ
件ヲ決議致シマシタ、仍テ其議決ニ基キ宣
告ヲ致シマス、議員前田幸作君ニ對シ議院
法第九十六條第一項第三號ニ依リ三日間ノ
出席停止ヲ命ズ(拍手)議員龜井貫一郎君ニ
對シ議院法第九十六條第一項第三號ニ依リ
二日間ノ出席停止ヲ命ズ(拍手)次會ノ議事
日程ハ公報ヲ以テ通知致シマス、今日ハ是
ニテ散會致シマス
午後八時四十九分散會

